



桜（法輪寺）

満開の桜に出会いました
 天蓋のように空を覆い尽くす桜
 足元に散る詰められた花びら
 花の季節だけ作られる花庭
 ひとひらふたひら舞い降りる
 うすくれない色の花びら
 花の歌人海行は
 この世で一番美しい櫻は
 夢中落花だと言う
 篝火に照らされ
 ほの白く浮かび上がる櫻
 モっとするほどの艶やかな
 梶井基次郎は記した
 『櫻の樹の下には屍體が埋まっ
 てる！』と

桜（蓮華院）

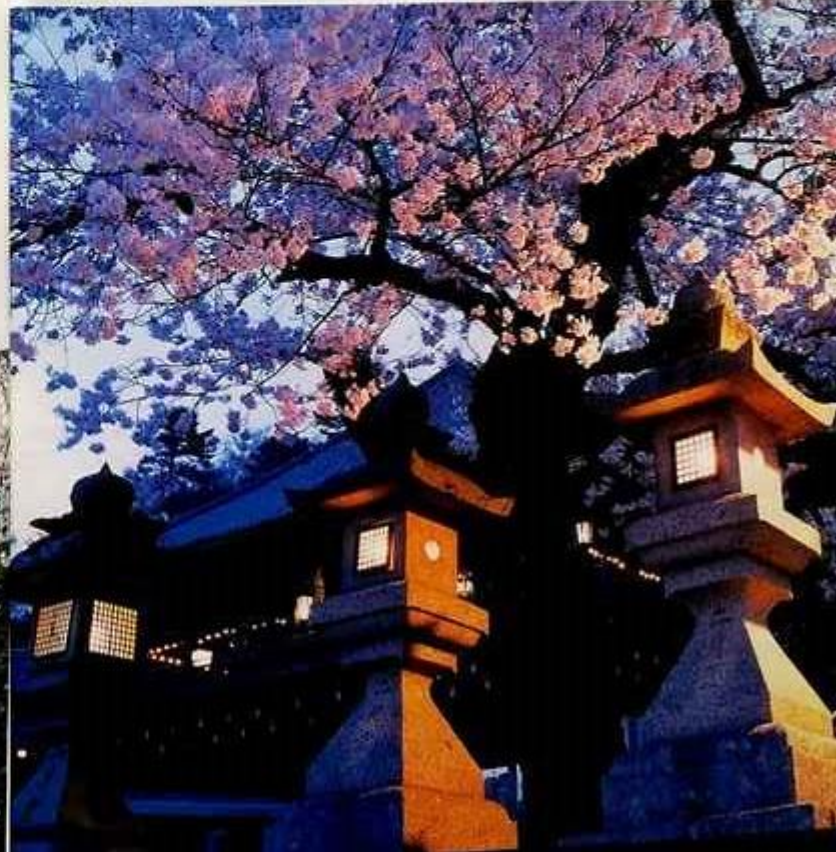


Photo essay

桜 櫻

題字 中田 幽 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

桜（三月堂）





早春のブナ林（白山山系・日輪岳） 一芝 義雄

比良山系春近し（湖北中浜町） 三浦 弘幸



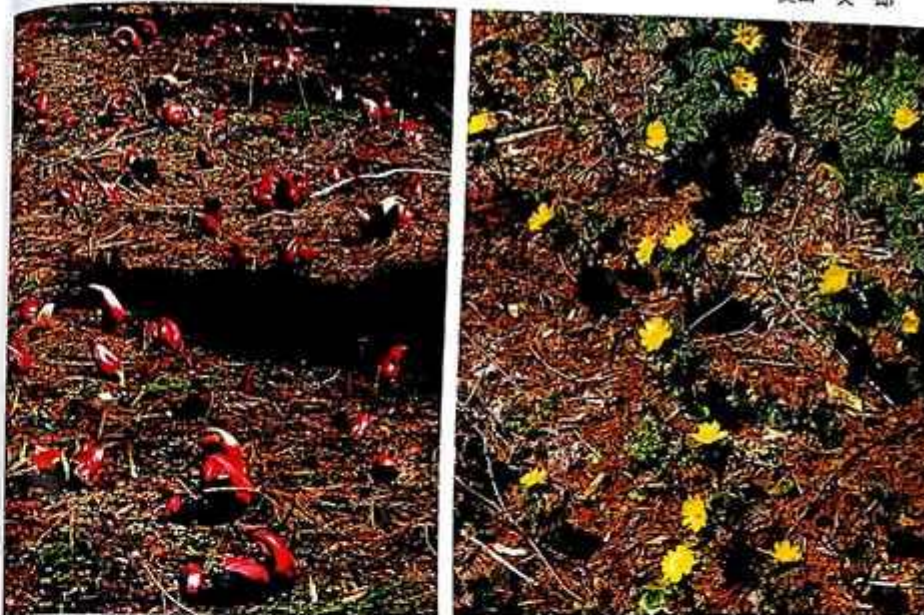
早春の開田高原（木曾） 中川 光郎

小熊山より（左から）爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・五電岳（北アルプス） 松田 敏男



北安曇野の春

奥田 英一郎



ザゼンソウ（白馬山麓飯飯森にて）

フクジュソウ（五竜山麓堀川源流にて）



白馬三山（大糸線神城付近にて）

●目次

表紙：松田敏男「浅き春ブナ林」（白山山系）

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳系の雑誌多数執筆。（京都平山会誌、南アルプス山岳小説、東京ギャラリー10月号、他）京飯山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新伴々 8冊 関西の山
'01年3・4月 第75号

沿線ハイキングガイド サービスチェーン せせらぎ	86 86 84	新ハイ関西山行計画 新ハイ関西山行報告 編集後記・広告案内	112 101 90
コース ガイド	82 80 78 76	新ハイ関西山行計画 新ハイ関西山行報告 編集後記・広告案内	112 101 90
●三十三間山北尾根（春巻）	73	●三十三間山北尾根（春巻）	73
●近江坂（大園形山）	72	●近江坂（大園形山）	72
●押立山（鈴鹿）	68	●押立山（鈴鹿）	68
●六甲最高峰を越え有馬へ（六甲）	66	●六甲最高峰を越え有馬へ（六甲）	66
●文学歴史探訪ハイイク	54	●文学歴史探訪ハイイク	54
●東・西本願寺から東寺へ	44	●東・西本願寺から東寺へ	44
●旗振り通信の基礎知識I	44	●旗振り通信の基礎知識I	44
●旗振り通信の研究⑨	44	●旗振り通信の研究⑨	44
●大滝口（小笠原）の歴史⑨ 小笠原（上） 小笠原（下）	62	●大滝口（小笠原）の歴史⑨ 小笠原（上） 小笠原（下）	62
●エリヤ別荘研究 高野参詣道を歩く（第四回）	62	●エリヤ別荘研究 高野参詣道を歩く（第四回）	62
●紀行	40	●紀行	40
●高野三山を行く（白馬）	36	●高野三山を行く（白馬）	36
●飯野山（根城富士）と里ヶ城山（西園）	28	●飯野山（根城富士）と里ヶ城山（西園）	28
●青ヶ丸（因幡）	26	●青ヶ丸（因幡）	26
●黒津山（美濃）	22	●黒津山（美濃）	22
●連載 標高による山の紹介シリーズ15 △△7.5の山	20	●連載 標高による山の紹介シリーズ15 △△7.5の山	20
●東吾妻山・釈迦嶺・猿ヶ馬場山・弥次平峰	16	●東吾妻山・釈迦嶺・猿ヶ馬場山・弥次平峰	16
●八子ヶ峰と里山（霧ヶ峰）	12	●八子ヶ峰と里山（霧ヶ峰）	12
●巻向山から穴師神社（大和）	12	●巻向山から穴師神社（大和）	12
●釈迦嶺・ヤケオ山（北沢）	12	●釈迦嶺・ヤケオ山（北沢）	12
●大姑嶺山へ（中国）	12	●大姑嶺山へ（中国）	12
●連載 三角点を訪ねて②	12	●連載 三角点を訪ねて②	12
●金粟岳・白倉の頭から花房尾根を奥山へ（南北）	12	●金粟岳・白倉の頭から花房尾根を奥山へ（南北）	12
●グラビア	4	●グラビア	4
●桜櫻	2	●桜櫻	2
●季節の実景（関丹）「花の吉野」	2	●季節の実景（関丹）「花の吉野」	2
●中川光郎 松田敏男 一芝義雄 三浦弘幸 奥田英一郎	2	●中川光郎 松田敏男 一芝義雄 三浦弘幸 奥田英一郎	2
●稲穂（山のエッセイ）	2	●稲穂（山のエッセイ）	2
●伊吹山南麓の遺跡	2	●伊吹山南麓の遺跡	2
●長宗 清司	2	●長宗 清司	2
●武市 通治	2	●武市 通治	2
●松永 恵一	2	●松永 恵一	2
●奥田英一郎	2	●奥田英一郎	2
●中島 仁志	2	●中島 仁志	2
●山本 誠峰	2	●山本 誠峰	2
●久雄	2	●久雄	2
●松田 敏男	2	●松田 敏男	2
●鷺見 守康	2	●鷺見 守康	2
●木村 太郎	2	●木村 太郎	2
●田中 嘉弘	2	●田中 嘉弘	2
●内田 明	2	●内田 明	2
●高弘	2	●高弘	2
●長坂 文男	2	●長坂 文男	2
●柴田 昭彦	2	●柴田 昭彦	2
●中村 敏文	2	●中村 敏文	2
●松永 恵一	2	●松永 恵一	2
●西尾 寿一	2	●西尾 寿一	2
●紀平 龍雄	2	●紀平 龍雄	2
●豊佐次盛一	2	●豊佐次盛一	2
●長宗 清司	2	●長宗 清司	2
●山本 和夫	2	●山本 和夫	2
●純	2	●純	2

巻頭言

今後10、20年先のことを想像してみましょ。科学技術・医療が発達を遂げていけば、今とはずいぶん異なる生活スタイルが待ち受けているように思われます。日本人の平均寿命はもっと延びていくでしょう。生活もさらに便利になって快適で楽になりそうですが、どうもそのようにはなごなくて、物事が複雑・多岐になり、今以上にストレスのたまるせわしい社会が考えられます。今まで老後の生活を支えてきた若い人が減少し、年金制度も見直しを余儀なくされ、中年には不安な状況が待ち受けています。中年がいつまでも元気で頑張れないと日本経済が成り立たない社会が想像できるからです。

60歳で定年し、後は年金をつないで悠々自適の生活なんてものは考えられない社会です。ちょうどいま50歳前後の人たちから徐々にきつくなっていくようです。この年代の人は、60歳からでも第一線で活躍し続けることが求められます。肥満・高血圧症・糖尿病といった成人病にかかっている余裕はありません。ハイキングは歩くという簡単な運動ですが、これがこれらを予防してくれるのです。

新ハイキング関西（代表）村田 智俊



スマイレ

季節の



草もち

春の坂道



実景

花の吉野

陽春

撮影 武市通治



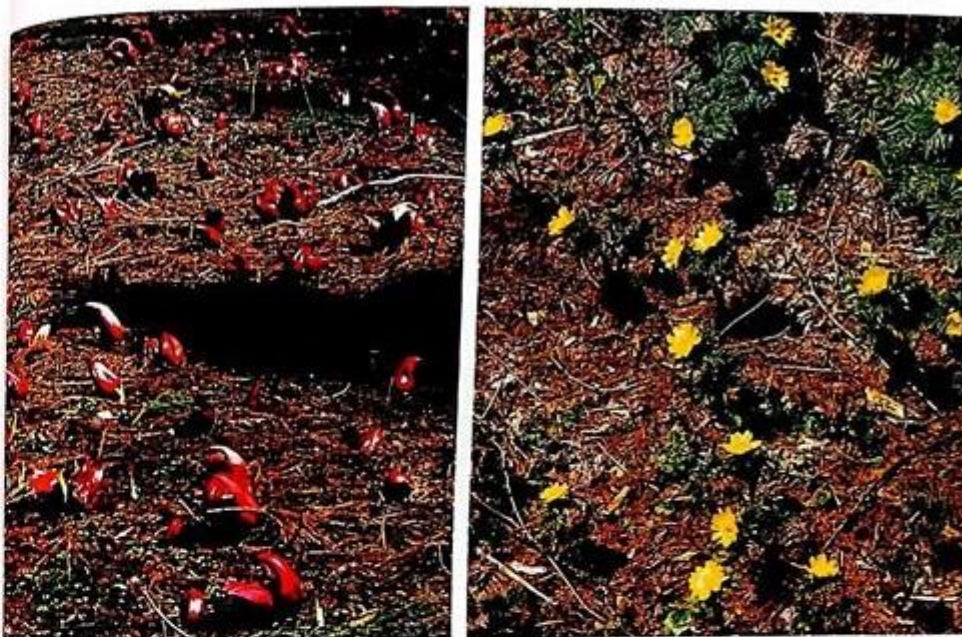
溪間

春うらら



北安曇野の春

奥田 英一郎



ザゼンソウ (白馬山麓飯森にて)

フクジュソウ (五竜山麓姫川源流にて)



白馬三山 (大糸線神城付近にて)

新刊 8冊 関西の山 4冊 '04年3・4月 第75号

●目次

表紙：松田敏男「浅き春ブナ林」(白山山系)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ、京都市立芸術大学卒。1987年より山岳派遣、山岳部の部長多数経験。(京都千早西園、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー一号、他) 京殿山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

沿線ハイキングガイド サービスチェーン せせらぎ	86 86 84	新ハイ関西山行計画 新ハイ関西山行報告 編集後記・広告案内	112 101 90
コース ガイド	82 80 78 76	慶佐次盛一 長宗 清司 山本 和夫 磯部 純	82 80 78 76
● ①三十三間山北尾根(若狭)	73	紀平 龍雄	73
● ②近江坂(大御影山) (関西)	72	西尾 寿一	72
● ③ロクノ天井(東濃)	68	松永 恵一	68
● ④押立山(鈴鹿)	66	中村 敏文	66
● ⑤六甲最高峰を越え有馬へ(六甲)	64	柴田 昭彦	64
● ⑥文学歴史探訪ハイク	44	長坂 文男	44
● ⑦旗振り通信の基礎知識I	62	磯部 純	62
● ⑧旗振り通信の研究①	40	内田 嘉弘	40
● ⑨旗振り通信の研究②	36	田中 嘉明	36
● ⑩旗振り通信の研究③	32	木村 太郎	32
● ⑪旗振り通信の研究④	28	鷺見 守康	28
● ⑫旗振り通信の研究⑤	26	松田 敏男	26
● ⑬旗振り通信の研究⑥	22	山本 久雄	22
● ⑭旗振り通信の研究⑦	20	藤山 誠峰	20
● ⑮旗振り通信の研究⑧	16	奥田英一郎	16
● ⑯旗振り通信の研究⑨	12	中島 仁志	12
● ⑰旗振り通信の研究⑩	10	長宗 清司	10
● ⑱旗振り通信の研究⑪	4	武市 通治	4
● ⑲旗振り通信の研究⑫	2	奥田英一郎	2

巻頭言

今後10、20年先のことを想像してみましよう。科学技術・医療が発達を遂げていけば、今とはずいぶん異なる生活スタイルが待ち受けているように思われます。日本人の平均寿命はもっと延びていくでしょう。生活もさらに便利になって快適で楽になりそうですが、どうもそのようにはならず、物事が複雑・多岐になり、今以上にストレスのたまるせわしない社会が考えられます。今まで老後の生活を支えてきた若い人が減少し、年金制度も見直しを余儀なくされ、中高年には不安な状況が待ち受けています。中高年がいつまでも元気で頑張らないと日本経済が成り立たない社会が想像できるからです。

60歳で定年し、後は年金をつないで悠々自適の生活なんてものは考えられない社会です。ちょうどいま50歳前後の人たちから徐々にきつくなっていくようです。この年代の人は、60歳からでも第一線で活躍し続けることが求められます。肥満・高血圧症・糖尿病といった成人病にかかっている余裕はありません。ハイキングは歩くという簡単な運動ですが、これがこれらを予防してくれるのです。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



早春のブナ林（白山山系・日照岳） 一芝 義雄

比良山系春近し（湖北中浜町） 三浦 弘幸



早春の開田高原（木曾） 中川 光郎

小熊山より（左から）新ヶ岳・鹿島槍ヶ岳・五電岳（北アルプス） 松田 敏男





スマイレ

季節の



草もち

春の坂道



実景

花の吉野

陽春

撮影 武市通治



満開

春うらら





桜（法輪寺）

満開の桜に出会いました
 天蓋のように空を覆い尽くす桜
 足元に敷き詰められた花屑
 花の季節だけ作られる花筵
 ひとひらふたひら舞い降りる
 うすくれない色の花びら
 花の歌人西行は
 この世で一番美しい櫻は
 夢中落花だと言う
 篝火に照らされ
 ほの白く浮かび上がる櫻
 ぞっとするほどの艶やかさ
 梶井基次郎は記した
 『櫻の樹の下には屍體が埋まっ
 てる!』と



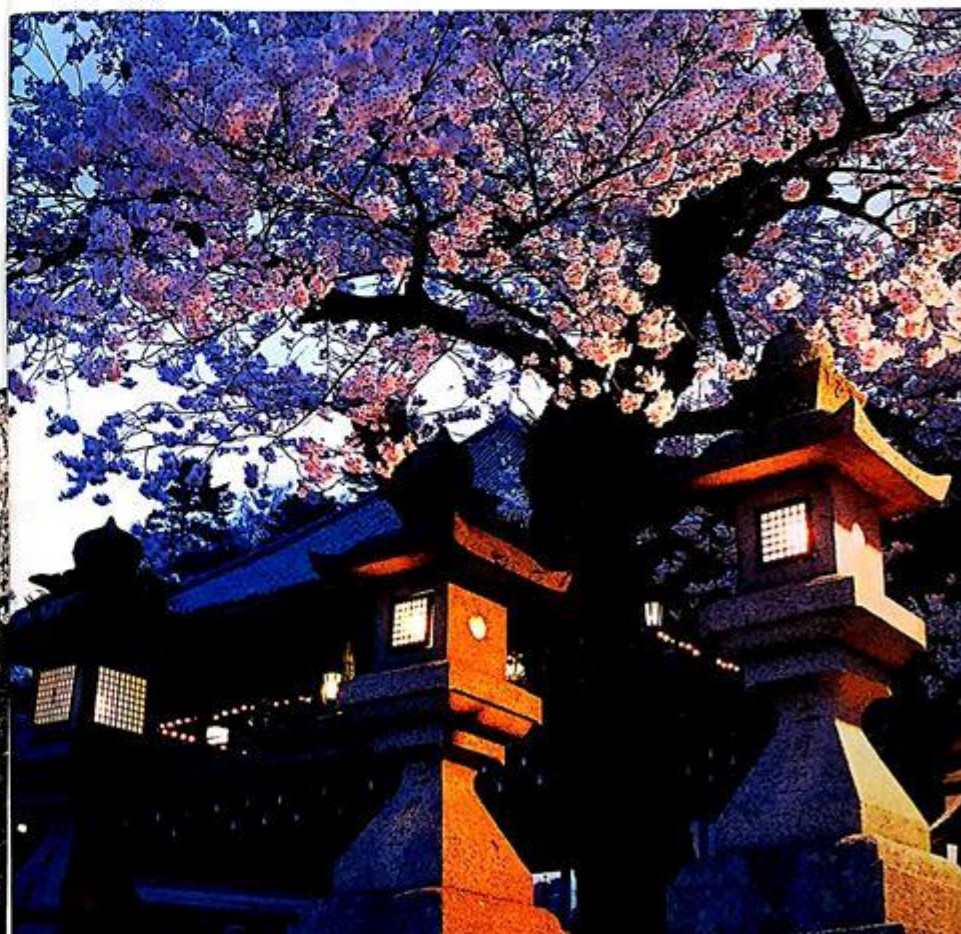
桜（遍照院）

Photo essay

桜

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松永 恵一

桜（三月堂）



新ハイ例会・自然観察山行

八子ヶ峰と車山

鷺見守康

霧ヶ峰

山に登る者にとって、雪山への思いは格別なものかもしれない。

本格的な雪山登山は、深雪のラッセル、躰いかかる吹雪、悪魔のような雪崩など、常に生命の危険と隣合わせの条件下での行動であり、体力や経験、技術に乏しい私の手に負えるものではないが、抜けるような青空と広々とした雪原の世界は、大きな憧れである。冬の里山の陽だまりハイキングもいいが、やはり冬には雪の野山を歩きたい。

雪山をできるだけ安全に歩こう、そんな思いから、冬の新ハイ例会山行ではスノーハイキングを実施してきた。

スノーハイキングを計画する場合、山

が楽しめるし、初夏から秋にかけての季節には、高原の花が咲き競い、広々とした草原に行く尾根歩きは爽快そのものだ。

いつものようにバスを仕立て、岐阜から夜行で走ってきた。白樺湖のベンシヨ



八子ヶ峰・車山付近略図

域へのアクセスも重要な要素だ。奥美濃の多くの山がそうであるように、除雪されてない林道を延々とラッセルして歩くのは難しい。

今回の八子ヶ峰と車山は、それぞれ裾野にスキー場があるから、車でのアプローチは容易であり、スキー場との位置関係を頭に入れておけば、吹雪になってもエスケープできる。そして雪崩の心配もない。スノーハイキングには最適なフィールドだと思う。

車山は、霧ヶ峰の最高峰であり、蓼科山と霧ヶ峰との間に長い尾根をのぼしているのが八子ヶ峰だ。

8時半にベンシヨに着。山岳ガイドのペンションオーナーから指摘されて気づいたのだが、きょうの八子ヶ峰の行程は半日コース。そんなに急ぐ必要もない、ということになり、朝食後もベンシヨンでゆっくりくつろいだ。

ペンションは、八子ヶ峰の山麓「白樺湖ロイヤルヒルスキー場」の間近で、白樺湖を眼下に見下ろす高台にあり、食堂兼談話室の窓からの眺望がすばらしい。湖の頭上には上信越の雪の山並が眺められ、オーナーに聞くと、浅間山から四阿山が見えているのだと言

う。8時半にベンシヨンを出発。空は抜けるように青い。20分ほどで女神茶屋に着いた。女神茶屋は冬期閉鎖中

八子ヶ峰東峰付近に行く（鳥居信吾氏撮影）



が、たおやかな高原状のピークのため、登山の対象として扱われることはない。また、高原としても、白樺湖を挟んで北側にある霧ヶ峰や、さらに北に位置する美ヶ原に隠れてしまい、観光客はむしろ、ハイカーにもあまり知られていないようだ。信州の山と高原の中では、いわば不遇の存在である。

けれども、それだけに静かなハイキングである。茶屋とは道を隔てて反対側に駐車場がある。その駐車場から雪のなかにトレースが続いている。蓼科山を目指す登山者の踏み跡だ。

8時50分、スノーシューを履き、女神茶屋から歩き出す。すぐ登りとなり、スノーシューのクランポンをきかせながらキックステップで登る。背後に蓼科山が迫り上がってくる。少しずつ頭上も開いて青空が大きくなり、やがて尾根に立つと、目の前に雪の大平原が広がった。

トレースのない真っ白な平原はそれだけで感動的であり、心が躍る。空はどこまでも青く、雪原から蓼科山・八ヶ岳連峰・南ア北部・中ア全山・御嶽・乗鞍・槍穂高連峰・後立山連峰・美ヶ原・妙高・黒姫・戸隠・四阿・浅間などの山岳を仰ぐ。絶景である。

フツツと湧き上がる幸福感に、メンバーの表情は子供のよう生き生きとし、会話が弾む。こんな見事な風景のなかでは、どんな写真も絵になるから、カメラタイムは自然と長くなる。純白の平原に雪嶺の山岳を背にして立つと、だれの姿も輝くから不思議だ。

9時40分、八子ヶ峰東峰の一角に到着。

新ハイ関西75号	
標高△△75mの山	
東吾妻山	(1975m・吾妻連峰)
釈迦嶺	(1175m・奥美濃)
猿ヶ馬場山	(1875m・奥飛騨)
弥次平峰	(1275m・台高)

東吾妻山

山形行きの夜行バスが新設されたのを知って、単独で吾妻連峰へ行くことを決めた。
吾妻連峰は山体は大きい緑一色の凡庸な姿というイメージを持っていたので、飯敷や朝日へはすでに行ったから吾妻へも一度ぐらいは行ってみたいなかなという程度で、さして期待はしていなかった。しかし、吾妻連峰はすばらしかった。次々に出合う湿原や池塘に見惚れた。ゆったりとした気分になれる山旅だった。そんな山旅の後半に観光登山者も登った。

て来る一切経山を越え、酸ヶ平避難小屋に泊まった夕方、遠く鎌沼が夕日に光る幻想的な美しい光景は、これまでに味わったことのない感動的なひとコマだった。美しい小屋を独占した翌朝の鎌沼のほとりを歩いた至福のひとつときも、前日の弥兵衛平湿原の朝に引き続いて、この山旅の感動の頂点だった。
深いオオシラビソの森の道に入って東吾妻山の山頂に登り着くと、磐梯山を始めに広大な眺めが待っていた。くだり始めてすぐに見事な湿原に出た。エリアマップに記載のない所だった。
安達太良山を樹間に見ながら急降下し、景場平湿原を経て浄土平近くのバス道に

おりた。(平成14年8月8日歩く)
△コースタイム▽
酸ヶ平(1時間30分) 東吾妻山(3時間) 浄土平
△地図▽昭文社「磐梯・吾妻」

釈迦嶺

釈迦嶺へは前年の初秋に4人で登ろうとしたが、林道が陥没していたため高倉峠まで車が上げられず、林道の途中から歩いたので、峠の北側すぐのピークの権現山に変更したことがあった。そのピークから釈迦嶺を眺めて、登りたい思いを一層強くしたのだった。
そして1年後、道路の復旧を信じて5人で目指したところ、陥没箇所は直っていて簡単に広場のような高倉峠に着いた。峠からウソ越まで車で進み、その先は廃道となった草の茂る林道を歩き、地形図上で予定していた尾根に取りついた。テープの付いた踏み跡があったが、たいそう急な斜面だった。灌木につかまりながら攀じるようにして登った。自然林だけのすばらしい山だった。
カラッと晴れ上がった秋の奥美濃の山



釈迦嶺を下山中に振り返る

は本当にすばらしい。深い藍色の山並が重畳と連なり、また笹ヶ峰の北斜面には新雪が残っていて、山頂一帯のササ海と葉の落ちた疎林の風情は最高だった。
山頂での昼食休憩で、いつものようにビールを飲んだ私たちには、急な往路をくだるのは危険なので、西側一面ササ海のゆるやかな太い尾根を選んだ。ササのなかを泳ぐように進みながら、奥美濃の真っ只中に溶け込んでいる幸せな気分がふつつつと湧き出てくるのに酔った。
(平成12年11月19日歩く)
△コースタイム▽
ウソ越(3時間) 釈迦嶺(3時間) ウソ越
△地形図▽2万5千Ⅱ宅良・広野

猿ヶ馬場山

鳩谷ダムの東の一段上の林道より、鷺雲山の北西尾根を6人で登った。歩き始めは雪がなくてイバラが多く苦労したが、1178m地点より雪が多くなってきて歩きやすかった。
(平成7年4月29日〜30日歩く)
△コースタイム▽

鳩谷ダム東の林道登山口(6時間) 猿ヶ馬場山(4時間) 登山口
△地形図▽2万5千Ⅱ平瀬

弥次平峰

台高山脈の中央部の主峰池木屋山のすぐ南の三角点峰が弥次平峰だ。三角点はあるが目立ったピークではない。しかし、その三角点を挟んで南の馬ノ鞍峰から北の池木屋山までの稜線はすばらしかった。樹相が非常に美しく、1166m地点の少し北にはいいテント場があった。
私たちが5人のパーティのほかに三パーティが思い思いの木々の間の平地で一晩を明かした。
一晩中、コノハズクが鳴き続けていたのがたいへん印象深く、森閑とした深い樹林のなかの夜を満喫した。
(平成11年5月3日歩く)
△コースタイム▽

1166m地点の少し北のテント場(1時間) 弥次平峰(2時間) 池木屋山
△地図▽昭文社「大台ヶ原」

山歩きの総合カタログ

2004年4月 ▶ 山歩き & ウォーキング
2005年3月

2月下旬完成予定 **送料無料**

お電話・FAX
お手紙にて **ご請求ください!**

山歩き & ウォーキング (年間・総合カタログ) ▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー! 写真も満載!

ツアーのポイント!

- 安全・安心登山宣言。
全コース日本山岳ガイド連盟認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎。
- 日帰りの名山から、憧れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。



大阪支店に 高山病対策 & 高所登山はこれで解決!! 低酸素室設置しました

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



- 利用料 (1回/1時間)
メンバーズ会員 ¥1,500
非会員 ¥3,000
 - ① 必ず低酸素室に約30分間入ります。
 - ② 次に低酸素室の状態で、6時間ごに高所での登山器材の調整をしながら、専用自転車などで30分間トレーニング。
- これで終了です。
できれば低酸素室で準備を上げながら登山に当たっての使用がおすすめです。

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

クラと同様にすこぶる良好で、東側の展望がさらに加わる。360度さえぎるものもなく春霞のなか、金鷲岳・三周ヶ岳・高丸・蕎麦粒山・冠山・若丸山・雷倉・能郷白山・青波山・小津三山等、美濃の山深さを改めて認識させられる。遅れて来た一人を合わせ春の日差しあふれる無風の山頂で至福のひとつが過ぎてゆく。重い腰を上げ、かきませた納豆のような未練を残して下山にかかる。アラクラを越えてゆるやかな稜線を快調に飛ばし、約40分で882・4峰に到着。登りの時に見つけた赤テープのマークを頼りに稜線はずれる。ここは何がしかのマークがないと通り過ぎてしまいそうだ。直進して稜線をたどると、末端は大谷林道が大きく抜け落ちてガケが連続している場所となり、下降するのは危険を伴う。稜線はずれ、下降開始前にしばし休憩をと思い腰を下ろす。改めて下を見ると登りに感じていたよりずっと急傾斜である。

コーヒーでも飲もうと取り出したカップをうっかり落としてしまったが、あっという間もなく足下の草付きの斜面を転がり、その先のルンゼの中へカラカラと音を立てて消えていった。登頂を終えてほんわかとするんだ気が引き締まる。心して急傾斜を慎重にくだる。尾根は丸く、ここがあまりの難しいう急激に落ち込んでいて、地図読みの難しいルートとなる。前年登山をした「高丸」の下りと同じような状態である。うっかり尾根芯をはずれて支尾根を降りれば必然的に谷へと出てしまうが、このあたりの谷はすべて橋を立てかけたような足指がむきだしとなったルンゼ状で、下降するのは避けたいところが賢明である。谷そのものをくぐらうとすればロープが欲しい場所も出てくると思われる。登りに付けておいた赤マークを頼りのルートハンティングが続く。下降途中で最も注意を要するのが高度600mを過ぎるあたりで、尾根芯をはずれ若干左へ振る場所である。見た目は尾根が続いているのでそのまま降りてしまおうと危険なガケ状へと誘い込まれてしまう。ここは左手の急斜面をくだり、やがて現れてくる尾根へとつながらなければならない。背を超えるブッシュで閉まれ、周りの見通しのきかないこのような場所を目的の方向を見定めるのは、「経験」

があればわかるとか「天候」がよければわかるとか、そうだったレベルではない。こういう場所こそマークが必要なのだ。下りてこんな緊張したの「高丸」以来である。登りと同じような時間をかけてくだる。

次第にあたりは里山の雰囲気となってきて傾斜もゆるくなり、マニアックな黒津山登頂の喜びとルートハンティングの緊張から解放された喜びが入り交じり、自分でもおかしいくらい笑いがこみ上げてきた。

日帰り山行でこんなに充実感あふれる登山は何年ぶりだろう。15時45分登山を開始した場所に降り立つ。あとは赤くくくから始めたフサザクラの花を眺めつつ、きょうの山行の余韻に浸りながら車までのんびりと歩くだけであった。

(平成15年3月30日歩く)

▲コースタイム▼
尾根取付点(1時間30分) 882・4峰(55分) アラクラ(30分) 黒津山(30分) アラクラ(40分) 882・4峰(1時間10分) 尾根取付点
△地形図▼2万5千II美濃広瀬

マニアックな登山

黒津山

山本久雄

美濃

前年の夏に汗を流らせながら蕎麦粒山への尾根を登ったとき、大谷川対岸の黒津山(1193m)と背比べをしなながらその西にある1163m峰(アラクラ)との間をゆったりとした吊尾根で結び、さらに882・4m峰までゆるやかにくだり、その先が大谷川に一気に落ち込む稜線を見た。ぜひ一度はこの稜線を歩いてみたいものだと思った。

そうなると思うが、仕方がない。猛烈なやぶ漕ぎとなるだろうから、雪のある時期にと山仲間をせつついて計画したが、天候が思わしくなく二度もふられてしまった。今年はまだかかと諦めていたが、三度目の正直で3月30日、念願の山

行となった。

八草峠は3月末まで通行止め、関ヶ原を經由して坂内村に入る。山仲間とスキー場で合流し、どこから登ろうかと頭を寄せ合う。記録にも見られる蕎麦粒山取付点から南に尾根をたどるか、アラクラから南にのびる尾根に取りつか、882・4m峰への南斜面を登るか思案したが、最後のプランをとることにし、いつもの西俣谷合点へと向かう。少しばかり戻ると882・4m峰から南西に急傾斜ではあるが尾根がのびているので、それをたどることにした。

地図では比較的確著な尾根であるが実際はそうでもなく、地表の大きなふくら

が見上げるように高い。南斜面のため雪がないがせめてもの救いであった。雪が付いている時はこの傾斜ではラッセルも苦しくなり、登路にこのルートをとるのはとても無理だろう。苦しい登りを約1時間半、湖谷山の山頂と並ぶ頃に空が開け、待望の882・4m峰に着いた。

このルートをたどる人がいるのであろうか、稜線にたどり着いた場所には赤テープのマーキングがあった。また稜線の少し下はかなり大きな赤い布が落ちていた。こんな所に何だろう?ここからの稜線の登りは今までの苦しい登りがうそのよ

うに穏やかになる。冬の間雪庇になっていない部分が残雪として稜線にしがみついている。左手に大きな蕎麦粒山をお供に連れ、マンサクの花を眺め、キツツキのドラミングに耳を傾け、時折残雪を踏みしめ春を満喫しながら快適な稜線散歩を続けること50分、少し急な登りを一気に駆け上げれば展望台ともいえるアラクラの頂上に立つ。

あとは吊尾根をたどって黒津山へ向かうだけである。多少のアップダウンはあるものの大したことはないが、五蛇池山へと続く稜線から若干はずれている本峰

への取付部は雪壁のような傾斜となっていた。けれどもこの先にあこがれていた頂があると思えば自然に足は弾み、快適にステップカットを刻んで行く。

12時13分アラクラから30分で小さな標識のある黒津山山頂に立つことができた。展望は先ほどのアラ



私達におまかせ下さい。待っています!

●詳しくはホームページを見て下さいネ。
登山用品専門店
とスキーのヨシモ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231

http://www.yoshimisports.co.jp/
JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

蕎麦粒山を背景に(アラクラにて)



み程度である。上を目指して登ってゆくと、アキレス腱をいっばいにのぼしてもかかとが地に着かないような急傾斜で、木の根をつかみ四つん這いの苦しい登高が続く。

空は青く澄み渡り太陽の光があふれ、風もなくポカポカと暖かい絶好の登山日和であるが、それを味わう余裕など全くない。右手には残雪をまとったアラクラ

因但国境のモンスタ―

青ヶ丸

篠山誠峰

因但

兵庫県の最高峰水ノ山から鳥取県の扇ノ山に続く県境尾根は、登山のフィールドとしてみれば空白地帯といえよう。わずかに、加藤文太郎の『単独行』に記述があるくらいで、不世出の岳人といわれた彼も、この尾根で遭難しそうになったと、その中で書いている。

水ノ山からは10000級の尾根が続いており、どうみても尾根上で1泊が必須だ。スキーツアーよりもむしろ大学山岳部の縦走登山の領域と思われる。この県境尾根のなかで青ヶ丸は12399と最も標高が高く、山容も名のおりドーム型をしていてどこかひきつけられるものがある。これまで幾度かチャレンジし

たのだが、積雪・天候に阻まれ、雄大な山容を前に三度敗退していた。

今回、前日から入山。テント泊で万全を期し、天候にも恵まれ無事登頂した。

4月12日出、13時に神戸を車で出発。姫路から国道29号線を経て、鳥取県の若桜へと向かう。若桜駅近くで標識にしたがってふるさとの森へと右折する。車道をかなり上がった所で広留野高原への林道をジグザグに登る。3月末に偵察に来たときは、林道すら積雪で上がれなかった。最終地点に着いたときには夕暮れが迫っていた。雪の積もった大地にテントを張り、早々とシュラフにもぐり込んだ。

中ノ丸付近から青ヶ丸（平成8年4月28日撮影）



（平成10年4月11日）は積雪不足でネマガリダケに阻まれ、この山に取りついたもののシブキ山頂で前進不能となった。アイゼンをきかせ、難なくシブキ山（10883）に着く。正面に青ヶ丸が見えるはずなのだが、視界が悪くてよく見えない。県境尾根を忠実にくだり、また登り返して小ピークに着く。ここは弘ノ尾（12277）との分岐になっている。中の丸の目前である。

思えばここは一回目に敗退した地点だ。その時は諸鹿を出発し、荷上げをしてテントを張ってから登山を開始したので、時間切れと暑さのための水切れで下山せざるを得なかった（平成8年4月28日）。

中の丸ピークには登らずに、山腹を右



側から捲いて進む。トラバースが終わり、杉が目立つ所でないよ青ヶ丸への取付きとなる。ルートはどうとうろくか迷ったが、正面から直登と決めた。中腹位までは順調に登ったが、ドーム型の山頂は予想どおりかぶさってくる。急傾斜となり、先行のMさんが躊躇したので、トッブを交替し、強引に乗越すと斜面はゆるくなり、雪原のゆったりとした山頂が広がっていた。

天候は回復して、山頂からは360度の大展望だった。正面には扇のような広がりをもつ優美な扇ノ山や、それに続く坊主頭の大ズッコ、登ってきた方角には弘ノ尾が、また遠く鉢伏山が。念願の山頂でしばらく言葉も出さず、食い入るよう周囲の山々を眺めていた。

テルモスに入れたコーヒート、ビスケット・チーズで昼食にしていると、扇ノ山の方向の植林のなかから単独行の人が現れびびりした。話を聞くと、岡山県の青年でこのあたりの山によく登っているそうだ。われわれの車を見て、扇ノ山に向かったかと思っていたようで、先方も驚いていた。

手にGPS（衛星を使った地球測位シス

テム）を持っているので見せてもらう。地図にポイントを書き込んで、方向を変える地点を落とししている。最短コースだが、展望や変化はなかったようだ。林道分岐からシブキ山方面に向かわず右にとり、途中、二つ目の橋を越えた所で植林帯に入り、登って来ている。

お互いの無事を折って青年と別れ、われわれも植林帯のコースを下山することにした。一気に急斜面をくだり、やがて平坦になった所で左へ進行方向を変え、植林帯のなかを進むと林道に出た。コースを右にとると分岐は近い。あちこちに顔を出しているフキノトウを摘んだりして、ゆく春を楽しんだ。

駐車地までは、雪がくさってアイゼンでは歩きにくい。しかし、憧れの青ヶ丸のピークに立てた充足感でいっぱいだった。（平成15年4月12日〜13日歩く）

▲参考タイム▼

- 広留野高原駐車地帯7・00―林道分岐8・30―シブキ山9・40―青ヶ丸11・45―12・40―林道出合14・15―林道分岐14・50―駐車地帯16・00
- △地形図▽2万5千11扇ノ山



ていた。

星ヶ城山へはカヤの三笠山を
て行くのだが、これも遊歩道
三笠山を巻いて過ぎると、深い針
葉樹林の道となる。地図にはこの
稜線に「険阻山」とあるが、名と
は全く反対で穏やかな稜線。少し
傾斜が増した登りがゆるくなった

るやか。老杉洞のあたりで、妙な鋭い鳴
き声を聞く。5〜6匹の猿が左手の広地
を動き回っていた。コースは所どころに
岩峰を仰ぎ、常緑広葉樹の多い登りで、
十二景の道標が若干うるさいが意外にも
人気がないので心地よく進める。奇岩を
いくつも仰ぎながら徐々に高度を稼ぐ。
開けた鳥帽子岳の展望台からは、いくつ
かの岩峰がシルエツト状に立ち、その間
に別当川のほかに草壁の町、そして瀬戸
内の海が望める。すぐ先がスカイライ
ンのある四望頂。左にスカイラインを見
下ろしながら稜線伝いに進めば、寒霞沢
の岩峰とゆったりした山並の好対照がお
もしろい。展望台をたどって、ロープウェ
イ山頂の三笠に出て、ここで少し息をつ
けた。ロープウェイ駅の屋根に馴れた猿
が遊び、写真を撮る観光客にポーズをと

あたりには神社があり、次のピーク西峰の
手前に案内板がある。西峰前の神社と明
るく開けた西峰を過ぎると、また樹林の
なかの下りとなって東峰との鞍部に出る。
同じような登路をゆくり進みヒョイと
後ろを見ると、1人の女性が追うように
登ってくる。その先の明るく開けた東峰
が星ヶ城山(817m)山頂で、1等三
角点と石を積み上げたドームがある。程
なく彼女も到着し、いっしょに昼食となっ
た。

ガイドブックには全く書かれていないし、
平日なので車は少ない。裏側から望む山
の姿も良く、穏やかさと露岩の湿るお
もしろい風景である。14時過ぎに大部の
町を見下ろす所に出たが、そこからの車
道がものすごい曲路で、それをくだる途
中で「ポー」と汽笛がして船が出ていっ
た。

彼女が年齢は私と同じくらい。昨夜、
名古屋から京都に来て「ムーンライト高
知」で四国に渡り、阿波池田―高松―土
庄―裏八景を経由して来たとのこと。こ
の日に名古屋に帰るため、バスで土庄に
出て岡山に渡るルートを考えていた。私
もこの日のムーンライトなので、私の予

州赤穂駅で乗り継げば、始発なので悠々
と席を占め、米原駅まではそのまま。適
切な帰路アプローチだったので彼女にと
ても感謝された。

大垣駅で名古屋に帰る彼女と別れ、予
定通り「ムーンライトながら」で東京に
向かった。

(平成15年3月25日〜26日歩く)

大部は静かな集落で、2時間の船待ち
に町を散策しようやく祝林用のアルコー
ルを見つけた。岡山に渡る船からは、最
初大きく見えた小豆島がいつの間にかモ
ヤのなかにかすみ、正面に岡山県東部の
海岸線の建物と小山が近づく。日生港に
着くと、JR日生駅は目の前。夕食の買
い物はコンビニで済ませ、来た列車を播

▲参考タイム▼(飯野山から) JR丸亀
駅9・00(バス) 飯野山登山口9・30
西の肩10・00 飯山町コース分岐10・30
―飯野山10・45 11・10 北岡11・55
12・00(バス) JR坂出駅12・18 23
(電車) 高松駅12・39 高松港14・10
(船) 池田港15・10 丸山15・55 58



観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカー
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

定を話すと、このほうがずっと都合合
なので、同行したいと言った。彼女も青春
18きっぷを使い、いろいろな山を単独か
少人数で訪れている。山歩きを始めたの
は40歳くらいとのこと。主婦で稼いでい
ない立場なので、できるだけコストをか
けないプランを考えるのがおもしろいと
話す。金をかけ、しかも連れてもらうの
が当たり前のような最近の流行とは逆で
ある。

山頂を辞し、三笠から四望頂までたど
り、スカイラインから北にくだる大部港
への車道に入った。ドライブコースだが

- (バス) ユースホステル前16・05 (小豆
島オリブY日泊)
ユースホステル前8・01(バス) 草壁8・
06 紅雲亭9・15 20 四望頂10・05
三笠10・20 40 星ヶ城山11・30 12・
00 四望頂12・45 大部港14・45 16・
50 (船) 日生港17・55 JR日生駅18・
00 38 (電車) 播州赤穂駅18・51 52
(電車) 米原駅21・50 55 (電車) 大垣
駅22・28 23・09 (電車) ムーンライ
ながら) 東京駅4・42
△地形図V2万5千 丸亀・寒霞沢
△費用(東京起点)▼
青春18きっぷ(3日分) 6900円
ムーンライトながら(往復) 1020円
飯野山バス 1000円
海岸寺駅―丸亀駅(JR) 190円
坂出駅―高松駅(JR) 400円
高松港―池田港(船) 510円
大部港―日生港(船) 760円
丸山―ユースホステル前(バス) 360円
ユースホステル前―草壁(バス) 170円
海岸寺ユースホステル(宿泊) 2300円
小豆島オリブユースホステル(1泊2食)
4935円

瀬戸内海を望む香川の山旅

飯野山(讃岐富士)と星ヶ城山

四国

中島 仁志

飯野山巨岩探索コースにて



ふと「全都道府県の山を訪れる」ことを思いレビューすると、香川県の山が未訪であるのに気づいた。香川は四国への入口なのだが、その先の石鏡・剣・法皇山地の山々への通り道に過ぎなかったのである。前年末の青春18きっぷの時期に、未訪だった和歌山県の山を二座訪れたので、この春は香川県の讃岐富士と小豆島の星ヶ城山を訪れることにした。

例によって往復はJR「ムーンライトながら」を使い、往路の途中に岡山県東部の熊山(509m)に寄った。奈良時代に鑑真が開祖といわれる雲山寺があった霊峰である。JR山陽本線の万富駅から西山麓の弓削集落経由で尾根伝いに山

頂に達し、熊山遺跡の横から赤穂線の香登駅にくだる3時間半の手頃な山行だった。夕刻には四国に渡って予讃線の海岸寺駅近くのユースホステルに入った。

飯野山

飯野山より讃岐富士のほうが名の通りがよい。昔、宇高連絡船が四国に近づくと、ひとときわ高く立派に見えたのがこの山で、何となく気になっていた。

丸亀駅でのバスの待ち合わせ時間に、駅の南にある丸亀城周辺を散策した。バスは市の東部を巡回しながら高速道路に近い飯野山登山口に着く。明瞭な道標がないので、ポウワッと立つ山を見上げて、いつか寄ってみてもおもしろそうである。高松駅で昼食後、翌日の昼の食料を買い込み、小豆島の池田港行きの船に乗った。池田港から草壁方面へのバスは40分待ちなので、小豆島を感じたい意味もあって少し歩くことにした。国道は丸山までの山越えて、丸山に着いて5分弱でバスが追いついた。雲行きが怪しくなったので乗り込んだのは正解。山の上では雷も発生したそうで、ユースホステル前に出た頃はポツリポツリときていた。

小豆島オリブユースホステルは、とても心地よい宿である。夕食はややボリュームがあったが栄養面のバランスもよい。食後は大学の先生や30歳以上も年の離れた学生たちとの語らいで時間はどんどん過ぎていった。

星ヶ城山

6時前に目を覚まし、外を散策する。

この山は讃岐平野の真ん中にそそり立つ形で、まず西側に出てから折れて南側を廻り、最後は北から山頂に出る螺旋状のコースで、かつて訪れた鹿見島の開聞岳を思い出す。西側から山頂まで1600m、残念ながら霧のなかを進むだけ。幸い傾斜はゆるく、右から飯山町コースが合流すると、すぐ先に左に巨岩探索コースが分岐する。それを登ると道沿い

目の前が内海湾で、またこの付近はオリブの丘の名の通りオリブが多い。快晴で海は穏やか、この旅で最高の日和である。朝食はバイキング形式で食材も多彩。それにしても、女子学生たちの食欲旺盛なこと、2〜3回皿に食物を盛る。細い体によく入るものだと感心した。

バスは5分ほどで草壁港。ここから紅葉亭までのバスは10時頃発なので、山麓を歩くつもりでいた。山に向かって北にのびる道路をジリジリ登ると、小豆島礼所への道標がいくつかあり、それを過ぎると町を離れ、石仏などが立っている。別当川を渡って左に池を見た先で、右にコンクリートで固められた少し傾斜のある道に入る。別当川の堰堤を見ながらジリジリ高度を上げると再び広い道路に出るが、それを横切るのが紅葉亭への道で、道標に10分とある。心地よい木陰の登りを進み、ヒョイと紅葉亭に飛び出した。平日なのとバスの到着時間には早いので、ロープウェイは運行されているものの比較的静かである。

寒霞渓上の稜線への表十二景コースは2万5千円で破線だが、いわゆる遊歩道で迷う所も危険箇所もなく、傾斜もゆ



くつかの岩があり、名称が付けられている。それを抜けると3等三角点のある小高い山頂(422m)の一角に出た。

山頂には薬師神社のほか、昭和天皇歌碑など石造物も多く、信仰の山らしい雰囲気だった。周りの木の梢がのびて、晴天でもすっきりした展望は得にくいだろう。北西に少し行けば展望台があるが、この霧では行っても仕方ないと思いついた。

下山路は、まず北から螺旋状に東側に廻り、飯山町コースに入る。石丸太の階段が続く急坂をくだるにつれて空に少し

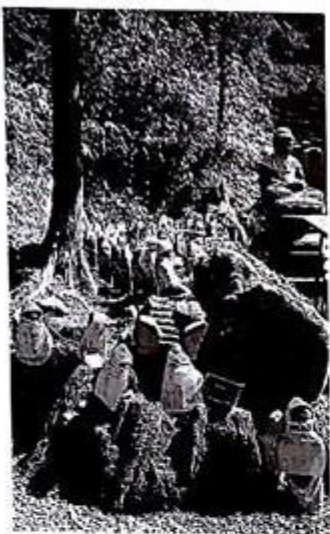
た。「よろしければ、これをお持ち帰りください。さんこの松もこの三結の杵に因んで付けられたものです。ここでお会いできたのもご縁かと思えます。ご利益がありますといいますが……」と、三本松葉を手渡してくれた。

女人堂の中は、ろうそくの明かりだけが燈されていて薄暗かった。右端の籠所に堂守が一人ぼつねんと坐っていた。「よく冷えて、大変ですね」と言うと、「いやいや、しかし夏は天国です。天は二物を与えずです」と言う。極楽橋駅への道を探ねると、「とても、きょうは無理でしょう」と返ってきた。バス時刻のことを尋ねると、「バスが来てからでも間に合いますよ」と言う。そのうちに、エンジンの音がしたので、急いで礼を述べ堂を飛び出した。堂前のバス停で確かに停まったが、客のいないのを見定めて、すぐに発車してしまっただけで横に廻って大声で叫んだが、バスは停まってくれなかった。「チクショウッ、いまいまい運転手めっ」と思いながら、しばらくバスの後ろを見つめていた。再びお堂に入って、ふと今しがた雪道でもらったさんこの松を思い出した。腹

立ちまぎれに、何かが利益なもんか！とぶつぶつ言っていたら、「運転手は気がつかないでしよう」と堂守はしきりに怒めてくれた。

3月に入って好天が続いた一日、三山が気になって再び高野山に出かけた。終点奥の院でバスを降り、托鉢僧にお布施を手渡す老婦人の姿を見ながら参道を行くと、近くで、ツツピー、ツツピーとシジュウカラが鳴いた。雪のない道は楽で短い時間で摩訶峠に着いた。山陰には雪が残っていて、風が静かに吹いていた。尾根道を登ると、1004坪の摩訶山頂で、祠は如意輪観音だろろうか。奥高野の山々が樹間から望まれた。北の方は比較的明るくて楊柳山がすぐ近くに見えた。黒河峠への捲き道では西方に弁天岳が望まれた。クマザサのなかをくぐると黒河峠はすぐだった。ここにも祠がまつられていた。

があるかもしれないと、迷わずくっついて行く。長い春の日もかなり西に傾いていた。電車の走っている谷間は通か下の方に見える。始めはホイホイ気分であっていたが、行けども行けども谷間は近づかない。車道はぐるぐると山腹を捲いているのである。次第に歩くのに嫌気がさしてきた。時々、通り過ぎて行く車がうらめしい。女人堂から不動坂をくだって行けば、もうとくに極楽橋駅に着いている時間なのに、それをほるかに過ぎていく。ただひたすら歩いた。



高野山奥の院参道の石仏「ハイキングですか」と声をかけられた。「三山を歩いて来ました」と言うと、「あの山は私に好きな山です」と言う。電車に乗ってからも婦人はあれこれ話してくれた。「このあたりの人たち

て、乗せてくれる親切な人は期待できないと思いがちで、通り抜ける車がいまいました。なかば意地になって歩いていたら、すうと横に軽トラが停まった。「どこまで行かれるのですか」老農夫のようだった。地獄に仏とはこのこと、「最寄りの駅ならどこでも構いません」と言っていて、隣に坐わらせてもらった。「きいかみやまで送りましょう」。寄り道をしてくれたようだった。

「きいかみや」、何と認めたか、小さな谷に沿うように曲がった短いホイムの中程には、背板のある長い質素な床几があり、中年の婦人が一人坐っていた。軽く会釈をして、ちょっとと離れて坐ったら、「ハイキングですか」と声をかけられた。「三山を歩いて来ました」と言うと、「あの山は私に好きな山です」と言う。電車に乗ってからも婦人はあれこれ話してくれた。「このあたりの人たち

広葉の混ざる小さな山頂だった。天保の路のある楊柳観世音菩薩のかたわらに三輪明神大社の石像も安置された。祠の後ろのやぶなかに3等三角点の標石があった。

西への尾根をたどって、好ましい道をわずかで子龍地蔵のある峠に着く。雪池山へはかすかな踏み跡があった。転輪山への道は始めやや不鮮明だったが、芝草のなかを雪解けの水だろろうか、機筋からの流れが横切っているあたりから気持ちよよい道になった。左に温泉を見ながら流れに沿って歩くと、間もなく舗装路に出た。

転輪山頂の薄暗い木立のなかにには弥勒菩薩がまつられていた。東へのかすかな踏み跡をくぐれば大師廟に降りられるが、奥の院へ出ると、バス、ケールと乗り継いで交通費が嵩む。この日は極楽橋駅まで歩いてくぐらうと、山頂から南西の尾根をたどって、まだ雷の固いシャクナゲ園を通り抜けて車道に出た。三叉路を左へとれば街中へ入るだろろう。右への道はどこへ出るかわからないが、下りの車道だから高野線のどこかに出るだろろう。あわよくば極楽橋駅にでも通じる道

高野三山を行く

高野

奥田英一郎

いつになく静かな朝、目を覚ますと庭一面真っ白な雪だった。この日を待っていたようにカメラを取り出し、南海高野線の人となる。

車中から見る雪景色はきれいだった。紀ノ川の鉄橋を渡ると、電車は急にスピードを落とす。くねくねと山裾をぬって溪谷沿いにゆっくりと走り、白い駅舎に静かに停まる。ホームに降り立つ客の足元が、雪に深々と沈む。

極楽橋駅でケーブルブルに乗り換える。間近に白い山肌が通り過ぎてゆくのはなんとなく楽しい。チェーンを着けたバスで山間を抜け、街中を過ぎると終点の奥の院。目を見張るような雪景色のなかを行

く。雪の量は思ったよりも多かったが、参道は踏み固められていた。雪道の感触が快い。両側の杉並木はぐっすり縄帽子をかぶっている。立ち並ぶ墓碑や、大木の根元の石仏が雪をかぶって可愛い。着せられた帽子や衣服の原色が白い世界のなかにきわだって鮮やかだ。

御供所の裏道に入って峠への道で、はたと立ち止まってしまった。すっかり雪に埋まってトレースがない。ロングスパッツで踏み出すと膝までもぐる。ワカンが要ったかなと思うほどの深雪のなかをゆくりと登る。けっこう時間がかかって、体が温もってくる。頭摩尼峰に着いた。縦走路にはひょっとしたら踏み跡があるか

摩尼山頂にて



もしれないと思ったのは甘かった。

地藏さんの安置してある祠の横に深々と並んで坐る。風の音が近づいては遠ざかってゆく。寄せては返す波音のようであった。そんな風音をしばらく楽しみながら、「お地藏さま、きょうはおすそ分けをするおいしいものがあります」などと語りかけていると、気分がゆったりしてしまっ、これから何も深い雪を踏

み分けて、三山を巡らなくてもよいではないか。雪の大伽藍で写真でも撮っているほうが楽しそうだ、さっさと自分が付けたトレースをたどって降りてしまったのだった。

大伽藍納経所付近はさまざまなお堂があり、ぐっすり積もった雪の中はどこを歩いてても被写体にこと欠かない。あちこちとファインダーを覗きながら、大塔への参道をゆっくり歩いていたら、前方の雪道を一人の尼僧がやってくるのが目についた。格好のモチーフだと、素早くカメラを構えた。黒衣と白頭巾、背景には白と朱のコントラストも鮮やかな塔、青空にはくっきりと白い綿雲、絶好の被写体だと思っ構図を決め、あとはシャッターを押すだけと思っその瞬間、ファインダーの中の人物が、顔の前で手を横に振っている。あきらかに撮影を拒んでいる。一瞬、ためらいながらもこの千載一遇を逃がすのは惜しいと思しながらも、カメラは顔から離れていた。

昔、吉野の山奥で丸太を肩に担いで駆けくっくってくる熊に出会ったことがある。この時とばかり、夢中でシャッターを押したが、すれ違いざまに激しい罵声を浴

びせられた。あきらかに肖像権の侵害であった。

以来、人物を撮るときは十分気を遣っていたつもりだったが、きょうのモチーフは条件が整い過ぎていた。しかし、やはり本人の許しもなく撮影することはよくなかった。

狭い雪道ですれ違う際、不礼を詫びる気持で頭を下げた。若い尼僧であった。とがめる様子はなかった。優しい眼差で軽く会釈を返してくれた。表情がやわらかかったのに甘えて「女人堂へ行く裏道がありましたね」と教えを乞うと、「道はありませんが、この大雪ではおそらく無理でしょう。大通りを行かれるのがよいと思われます」と私の不遜をとがめる様子もなく教えてくれた。

写真の撮れなかったことは心残りだったが、何か爽やかな気分だった。雪の大塔とか金堂とか、そのあたりを撮り歩いて、納得して大通りへ出た。尼僧の言葉を素直に聞いて、帰りは女人堂に寄って、できれば不動坂をくぐってみよう。途中に土産物店でもあれば「こまどうふでも買っ」と思いながら歩いていった。ふと気がつく、後ろから下駄の音が足早に近づい

てきた。とみる間に隣合せに並んで歩くようになった。そして、声をかけられた。黒衣の老僧であった。「さんこの松をご存知ですか、あまり唐突だったので一瞬戸惑い「以前に聞いたことがあります」と答えたものの、どんなものかは全く知らなかった。下駄の音を鳴らしながら老僧が袖から取り出したのは褐色の枯松葉だった。「これがそうです」と差し出されたのを見ると、三本葉の松葉だった。「初めて見ます」と言う、と、「御影堂の前にある松です」と言う。ついさっき、あのあたりを何度も歩き廻っていたが気がつかなかったのである。

自分の無知さかげんを恥じながら、「さんこというのはどういう意味ですか」と尋ねると、「三鈴の件という両端が三叉になった短い手槍で、魔除けの密教の法具のことです」と言って、さらに次のように説明してくれた。「昔、唐に留学なさった空海さんが、真言密教の布教にふさわしい聖地をどこにしようかと思われて、建立の地を示し給へた。三鈴の件を日本へ向けて投げられた。それを日本へ帰って探して当てたのが高野山でした」と、開山に関わる言い伝えを話してくれ



伊吹山南麓の遺跡

(京極氏居城と
幡隆上人修行の場)

長宗 清司

文政三年(1820)から同十年にかけて、笠ヶ岳・槍ヶ嶽・伊吹山・南宮奥之院らに参籠。常に円空仏を奉持し、その業績をたたえて歩いた幡隆は、念仏三昧、山岳に浄土を求め、槍ヶ嶽開山に情熱をそそぎ、四度目、13年目にして登頂に成功した。伝承によると、幡隆は富山の水呑百姓の家に生まれた。幼少のときから炭焼きの手伝いをしながら灰の上で手習いを覚え、河原の砂に字を書いて学んだといわれている。成人して某家の養子となり、結婚後間もなく妻を亡くした。実家に帰らず、しばらくして、突然遁世の道歩んだ。

幡隆が草庵を結んだのは、伊吹の山頂から南東にのびる岐阜と滋賀の県境尾根にある「藤川越」に近い白山寺あたりだと伝えられている。幡隆上人は文政十一年(1828)槍ヶ嶽に初登頂後、登山道の整備にも力を尽くしているが、それ以前の文政七年に岐阜・滋賀県境の伊吹山の山頂南東の「池谷峠」で干日修行に臨んだ(幡隆上人が、伊吹山で修行したことはあまり知られていない)。

その後、第五回槍ヶ嶽登頂の帰路、中仙道太田之宿脇本陣に駐錫、天保十一年(1840)59歳で亡くなった。

幡隆上人は広く伊吹山麓各地を巡錫し、平等岩で修行したと伝えられ、生き仏さまとして広く知られている。殺生を少しでも避けたいと、常に一本歯の下駄を履いていたといひ、掛斐のあたりでは一本歯の下駄を「幡隆山」と呼んだといわれている。

冬も、一枚の単衣と鼠色の納衣だけの生活は、極めて簡素であったと伝えられている。

昭和63年末から大垣山岳会の会員が、草庵跡を探した結果、伊吹山ドライブウェイ中腹から林道を約2キロ入った標高950メートルの地点で見つけた。大木に囲まれた、約25平方メートルほどのほぼ平らな場所には、飲み水を溜めたと見られる小さな池のほかには何も残っていない。今は「幡隆上人屋敷跡」と書いた道しるべが立っている。

時代はさかのぼり、十五世紀末から十六世紀初頭にかけて、北近江の戦国大名京極高清が上平等地域に築城したとされている。近江(滋賀)と美濃(岐阜)の国境に築かれた城で、伊吹山南麓の中腹から麓にかけて山城跡と居館跡、家臣の屋敷跡が残っている。戦国大名のあり方を知らるうえで貴重な遺跡とされ、遺跡周辺の山が文化財に指定さ



随想 (山のエッセイ)

いずれにしてもこのあたりは、日本を東西に二分する重要な地域に間違いなく、幾多の合戦の場として、歴史を知るうえで価値のある山域である。

伊吹山は、古くから山岳宗教の聖地としても知られ、平安時代初期には日本の七高山の一つに数えられた(七高山:比良・伊吹・比叡・愛宕・鷲峰・金峰・高野)。

また、この伊吹山の南に張り出した尾根上に弥高寺跡がある。弥高寺は、太平寺・長尾寺・観音寺とともに伊吹山四大護国寺と呼ばれ、その中心的寺院だった。戦国時代、弥高寺は京極氏によって城として利用された。堀や土塁など軍事的な色濃く城としての施設が付け加えられた山岳寺院であった。城下全体は、背後に尾根を断ち切る巨大な壁をみごとに掘り、東側を藤古川(河戸川)の深い谷、西側は家臣屋敷の並ぶ尾根と要害谷に

守られ、南側を外堀で遮断するという、防御構造になっていた。さらに、城下町の南の端に、越前街道(北国街道)を取り込んでいる。国境警備の城としては理想の構えであった。

近江の国は畿内に隣接し、東西の交通の要衝として中世から近世にかけて築かれた優れた城郭遺跡が多くある。琵琶湖畔やその周辺の平野、山上に1300を超えるほどである。

昨年初秋、関ヶ原町にある古戦場の一角、石田三成が布陣した「笠尾山」から、地形図の破線を尾根伝いに北上した。昔は、相当往来があったらしいが、途中、新設の林道で寸断され、ドライブウェイでスタスタになった旧道は、すっかりやぶ山に還っていた。

地図で見るドライブウェイ最大のヘアピンカーブの脇、頭上に「南乞神社」の石鳥居があり、

ここからは、人が歩いている確かな道が大岩に突き当たるまで約500メートルあった。大岩下に小さな祠がまつてある。資料によるとどうやらこれは西滝ヶ洞にある「幡隆講」のための祠らしい。この大岩の裏側には「行者の滝」もあるらしいが、荒れていて立ち入れない。右の杉の植林帯を這い上がり関電の鉄塔下に出ると、大展望台である。

関ヶ原合戦の折ならば、両軍が陣取った山々や合戦の様子が手に取るように眺められる位置である。雨後快晴の日で、「木曾御嶽山」が遠望できた。この日は、結局、△781・81(相川山)の三角点に立って、幡隆上人が干日修行したといわれる「池谷峠」とその背後にそびえる伊吹山の位置を確認して帰った。

伊吹山の山腹から南麓にかけて、歴史に彩られた名勝旧跡が多く残存しているのを、知る人はあまりいない。

高野参詣道を歩く

⑩ 小辺路(下) (五百瀬) 熊野本宮

(1日目) 五百瀬(三浦口)から蕨尾
JR和歌山線の五条駅前から奈良交通
バスに乗車、約2時間で川津に着く。予
約していたタクシーに乗り換え、約15分
で出発点の三浦口に着く。

バス停横から道標にしたがってくだり、
神納川に架かる赤い吊橋、船渡橋を渡る。
橋の名は、江戸時代ここに「船渡し」が
あったことに由来する。道なりに左へ進
み、その先のT字路を右にとると三浦の
集落がある。

昔は1軒の民家があったが、今は古道
沿いに3軒残るだけである。棚田や畑を
見ながら、部分的に残る石畳の坂道を進
む。廃屋の横を通り、薄暗い杉の植林の
なかを登ると、やがて異様にねじれた杉

の巨木と出合う。吉村家跡の防風林で、
奥に民家跡の空地がある。

ここから尾根の右をつづら折りに急登
する。左に今は使われていない植林小屋
を見て、少し進むと「三十丁の水」の標
識がある。竹の擁水が引かれた水場が
あり、ひと息入れるのによい所である。

水場のすぐ先には、「川より三十丁」
と刻まれた高さ約50センチの丁石と、小さな
道標地蔵がある。光背に「左たまき山、
右ほんぐう」と刻まれている。左に分岐
する山道は大峰山脈南端、玉置山にある
玉置神社に至る参詣道で、興味をそそ
る。

次第にゆるやかな登りとなり、やがて
三浦峠のすぐ下の小広場に着く。左にト

防風林の杉の巨木(三浦、吉村家跡)



イレがあり、20ほどほど先が三浦峠である。
昔は茶店があったらしいが、今は護摩壇
山から崖又山を経て今西集落に至る未舗
装の林道が横切っていて、風情がない。
林道を横断し、1145メートルの東側山
腹をくだって行く。細い山道は獣よけネッ
トが谷側に張り巡らされ歩きにくい。三
叉路を左へ折り返すように進むと、薄暗
い植林のなかに古矢倉跡がある。

尾根上に茶屋跡の平地地があり、左の
山陰に江戸後期、天保十年(1839)
に建てられた、苔むした地蔵菩薩石仏が
ひっそりとたたずんでいる。

尾根の西側を捲いてくると、矢倉へ
至る新旧道分岐がある。道標が二つあっ
て紛らわしいが、右の新道は捲き道で、
明治になって開かれたものである。古道
は尾根道で左へいったん10分ほどくだり、
尾根上を南へ進む。

紀州特産備長炭の原木となるウバメ
ガシの混じる自然林のなかを進むと、古
道の右上に苔むした一石五輪塔がある。
古道はやがて尾根の西側を捲く道となり、
左に観音堂を見る。少し首を傾げた如意
輪観世音菩薩と、江戸期の地藏菩薩石仏
二体が祀られている。

少しくだると大きな廃屋のある矢倉で、
昔は多くの民家があったという。矢倉と
西中大谷橋の間は、古道と舗装林道を交
互に歩くが、分岐には道標があり注意し
て歩けば迷うことはない。

廃屋の庭先を通り、右へくだった舗装
林道に入る。一軒家の横を通り、林道を
左へ150分ほど進み、右の古道入口か
ら斜めにくくだり再び林道に入る。さらに
林道を左へ50分進んだ所で右の石段をく
だり、山腹を捲いて行くと西川沿いの車
道に出る。車道を右へ少し歩き、車道に
舗装林道が合わさるT字路の先が、西中
大谷橋バス停である。

西中から十津川の支流西川沿いの古道
は、ほぼ車道に沿っているが、不明な個
所も多い。十津川村宮バスで十津川温泉



に向かうが、歩くとすると十津川温泉の
蕨尾まで約12分、3時間の車道歩きとな
る。

(2日目) 蕨尾から熊野本宮大社
蕨尾から西川出合の赤い鉄橋、柳本
橋を渡ってすぐ右折する。左に「小辺路」
の大きな案内板と、平成5年に建てられ
た松尾芭蕉の門人、向井去來の句碑があ
る。
舗装林道を400分ほど歩いた尾根末
端に、「熊野古道小辺路登山口」の大き
な道標がある。左に古道入口の石の階段
があり、いきなり急登となる。しばらく
して石畳の道となり、果無集落の手前で
道の左(東)の樹林が一部切れ、眼下に
二津野ダム湖と十津川温泉郷が望まれる。

高野参詣道を歩く

⑩ 小辺路(下) (五百瀬く熊野本宮)

(1日目)五百瀬(三浦口)から巖尾
JR和歌山線の五条駅前から奈良交通
バスに乗車、約2時間で川津に着く。予
約していたタクシーに乗り換え、約15分
で出発点の三浦口に着く。

バス停横から道標にしたがってくだり、
神納川に架かる赤い吊橋、船渡橋を渡る。
橋の名は、江戸時代ここに「船渡し」が
あったことに由来する。道なりに左へ進
み、その先のT字路を右にとると三浦の
集落がある。

昔は11軒の民家があったが、今は古道
沿いに3軒残るだけである。棚田や畑を
見ながら、部分的に残る石畳の坂道を進
む。廃屋の横を通り、薄暗い杉の植林の
なかを登ると、やがて異様にねじれた杉

の巨木と出会う。吉村家跡の防風林で、
奥に民家跡の空地がある。

ここから尾根の右をつづら折りに急登
する。左に今は使われていない植林小屋
を見て、少し進むと「三十丁の水」の標
識がある。竹の樋で水が引かれた水場が
あり、ひと息いれるのによい所である。

水場のすぐ先には、「川より三十丁」
と刻まれた高さ約50cmの丁石と、小さな
道標地蔵がある。光背に「左たまき山、
右ほんぐう」と刻まれている。左に分岐
する山道は大峰山脈南部、玉置山にある
玉置神社に至る参詣道で、興味をそそ
る。

次第にゆるやかな登りとなり、やがて
三浦峠のすぐ下の小広場に着く。左にと

尾根上に茶屋跡の平地地があり、左の
山陰に江戸後期、天保十年(1839)
に建てられた、苔むした地藏菩薩石仏が
ひっそりとたたずんでいる。

尾根の西側を捲いてくると、矢倉へ
至る新旧道分岐がある。道標が二つあっ
て紛らわしいが、右の新道は捲き道で、
明治になって開かれたものである。古道
は尾根道で左へいったん10分ほどくだり、
尾根上を南へ進む。

紀州特産備長炭の原木となるウバメ
ガシの混じる自然林のなかを進むと、古
道の右上に苔むした一石五輪塔がある。
古道はやがて尾根の西側を捲く道となり、
左に観音堂を見る。少し首を傾げた如意
輪観世音菩薩と、江戸期の地藏菩薩石仏
二体が祀られている。

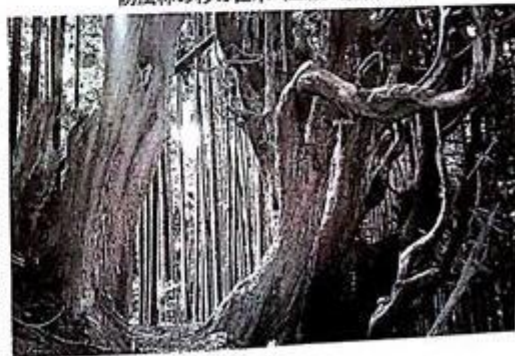
少しくだると大きな廃屋のある矢倉で、
昔は多くの民家があったという。矢倉と
西中大谷橋の間は、古道と舗装林道を交
互に歩すが、分岐には道標があり注意し
て歩けば迷うことはない。

廃屋の庭先を通り、右へくだって舗装
林道に出る。一軒家の横を通り、林道を
左へ150分ほど進み、右の古道入口か
ら斜めにくくだり再び林道に出る。さらに
林道を左へ50分進んだ所で右の石段をく
だり、山腹を捲いて行くと西川沿いの車
道に出る。車道を右へ少し歩き、車道に
舗装林道が合わるT字路の先が、西中
大谷橋バス停である。

西中から十津川の支流西川沿いの古道
は、ほぼ車道に沿っているが、不明な個
所も多い。十津川村営バスで十津川温泉



防風林の杉の巨木(三浦、吉村家跡)



イレがあり、20分ほど先が三浦峠である。
昔は茶店があったらしいが、今は護摩壇
山から崖又山を経て今西集落に至る未舗
装の林道が横切っていて、風情がない。
林道を横断し、1145分峰の東側山
腹をくだって行く。細い山道は獣よけネッ
トが谷側に張り巡らされ歩きにくい。三
叉路を左へ折り返すように進むと、薄暗
い植林のなかに古矢倉跡がある。

に向かうが、歩くとなると十津川温泉の
巖尾まで約12分、3時間の車道歩きとな
る。

(2日目) 巖尾から熊野本宮大社
巖尾から西川出合の赤い鉄橋、柳本
橋を渡ってすぐ右折する。左に「小辺路」
の大きな案内板と、平成5年に建てられ
た松尾芭蕉の門人、向井去來の句碑があ
る。

舗装林道を400分ほど歩いた尾根末
端に、「熊野古道小辺路登山口」の大き
な道標がある。左に古道入口の石の階段
があり、いきなり急登となる。しばらく
して石畳の道となり、果無集落の手前で
道の左(東)の樹林が一部切れ、眼下に
二津野ダム湖と十津川温泉郷が望まれる。



旅籠上西家跡

を祀る小さな石祠がある。正面に三浦峠が望める大規模な伐採地を通り、江戸後期の道標地蔵を右に見て少しくだり、三田谷橋西詰の県道に出る。
 十津川村営バスも運行しているが本数は少なく、神納川沿いに川津まで県道を約8km、2時間歩くことになる。橋を渡りトンネルを抜けると、神納川沿いの集

落の中心地、五百瀬で小学校もある。
 五百瀬バス停後方の小山に、平維盛(平清盛の孫)を祀った小祠があり、紀伊半島各地に残る平維盛伝説地の一つである。少し先には大塔宮護良親王(後醍醐天皇の皇子)にまつわる逸話、「腰抜田」の石標がある。
 三浦口から、蛇行する神納川に沿って県道を東へ歩き、風屋貯水池に架かる川津大橋を渡れば、15分ほどで川津バス停に着く。
 (平成15年4月27日〜28日歩く)

▲コースタイム▼
 【1日目】千手院橋バス停(20分)ろくろ峠(40分)薄峠(40分)鉄橋(30分)大滝最奥の民家(30分)高野龍神スカイライン出合(50分)水ヶ峰集落跡(40分)休憩所(30分)平辻(50分)大股
 【2日目】大股(1時間)萱小屋跡(1時間)檜峠(1時間)伯母子峠(伯母子岳往復25分)(45分)上西家跡(45分)弘法大師坐像(1時間10分)三田谷橋(15分)三浦口(2時間)村営バス20分)川津

古道は尾根の東側斜面を捲く細い山道となる。上西家跡まで、ブナ・モミ・ツガなどの自然林のなか、気持ちのいい山道を進むが、途中三ヶ所山抜け(崩壊地)があり注意が必要。特に上西家跡手前の山抜けは規模が大きく、ロープが設置されているが不安定、迂回路が整備されているので、不安を感じたら迷わず迂回路を歩くようにしてほしい。
 かつて旅籠を営んでいた上西家跡は、広い屋敷跡の平坦地と、高さ1.5m程の石垣が残り、南側に広い畑跡がある。北から東の視界が開け、ベンチもあり休憩するのによい所である。
 上西家跡の南に三叉路があり、「熊野参詣道小辺路(世界遺産登録予定ルート)」と書かれた標識が立っている。帰宅後十津川村役場に問い合わせると、「三叉路左の捲き道は、明治になって開かれた道である。右の尾根道は江戸時代の古道で、現在整備中である」という返事であった。
 山抜けに注意しながら左の明治道を進むと、自然林からよく手入れされた杉・檜の植林地に変わる。しばらくして、右に明治43年に建てられた「弘法大師坐像」

から、夏虫山の東斜面を捲いて行く。やがて下りとなり、伯母子岳北西の十字路に出る。
 伯母子岳へ登る山道脇に六字妙号(南無阿弥陀仏)が刻まれた江戸期の道標がある。右は護摩壇山へと続く遊歩道、左が小辺路で、拡張された古道を進み、伯母子峠に着く。
 伯母子山の家(避難小屋)があり、小屋の前に十津川村の林業家と大股の馬方によって、大正6年に建てられた道標がある。北面に「スグ(真直ぐの意味) 十津川ヲ経テ熊野道」と刻まれている。
 日本二百名山の伯母子岳は、右の灌木林を15分登った所にあり、展望は奥高野随一、ぜひ立ち寄ってほしい。三角点はないが、高野宮林畧の標石がある。西に護摩壇山へ続く尾根、南には鈍尖岳・崖又山のかなたに果無山脈、東に赤谷峠に続く尾根のなかに大峰山脈、北には荒神岳や水ヶ峰などの大パノラマが広がる。
 伯母子峠に戻り、道標にしたがい右(南)へくだる。三田谷橋まで約3時間、

垣内・伯母子岳・風屋
 (問い合わせ先)
 高野町産業観光課 0736(56)2931
 野迫川村企画産業課 07473(7)2101
 十津川村観光課 07466(2)0001
 (コースメモ)
 *大股(野迫川村)周辺にホテル・旅館・民宿など4軒ある。
 津田旅館 07473(8)0133
 民宿さかもと 07473(8)0220
 *三浦口に民宿玉屋があるが、現在業泊りのみなので注意、三浦口から徒歩2時間(バス20分)の川津に民宿が1軒ある。
 民宿ますや 07466(4)0218
 *伯母子峠に伯母子山の家(避難小屋)がある(10名収容、水場まで往復10分)。
 *杉清・三浦口・川津・上野地間に十津川村営バスが平日1日2便、日曜・祝日1日1便運行している。
 十津川村営バス 07466(4)0408



から、夏虫山の東斜面を捲いて行く。やがて下りとなり、伯母子岳北西の十字路に出る。
 伯母子岳へ登る山道脇に六字妙号(南無阿弥陀仏)が刻まれた江戸期の道標がある。右は護摩壇山へと続く遊歩道、左が小辺路で、拡張された古道を進み、伯母子峠に着く。
 伯母子山の家(避難小屋)があり、小屋の前に十津川村の林業家と大股の馬方によって、大正6年に建てられた道標がある。北面に「スグ(真直ぐの意味) 十津川ヲ経テ熊野道」と刻まれている。
 日本二百名山の伯母子岳は、右の灌木林を15分登った所にあり、展望は奥高野随一、ぜひ立ち寄ってほしい。三角点はないが、高野宮林畧の標石がある。西に護摩壇山へ続く尾根、南には鈍尖岳・崖又山のかなたに果無山脈、東に赤谷峠に続く尾根のなかに大峰山脈、北には荒神岳や水ヶ峰などの大パノラマが広がる。
 伯母子峠に戻り、道標にしたがい右(南)へくだる。三田谷橋まで約3時間、

して伯母子岳登山口の道標がある。ここで舗装道から山道に変わり、杉の植林地のなかをつづら折りに急登する。やがて傾斜がゆるみ、松林のなかを進むと萱小屋跡に着く。
 江戸時代から宿屋を営んでいた一軒家(伯谷家)があったが、昭和47年に麓の大股に移住された。残った廃屋も数年前に取り壊され、今は屋敷跡の空地と石垣、片隅に廃屋の残骸が一部残るだけである。
 萱小屋跡から東へ少し急登し、その後尾根の西側斜面を南へ進む。右前方に夏虫山、右下に猿飼谷を見ながら、ブナやカエデの自然林のなかをゆるやかに登ると檜峠がある。
 檜峠から正面に木の間越しに、伯母子岳から赤谷峠へのなだらかな尾根を見な

ら、夏虫山の東斜面を捲いて行く。やがて下りとなり、伯母子岳北西の十字路に出る。
 伯母子岳へ登る山道脇に六字妙号(南無阿弥陀仏)が刻まれた江戸期の道標がある。右は護摩壇山へと続く遊歩道、左が小辺路で、拡張された古道を進み、伯母子峠に着く。
 伯母子山の家(避難小屋)があり、小屋の前に十津川村の林業家と大股の馬方によって、大正6年に建てられた道標がある。北面に「スグ(真直ぐの意味) 十津川ヲ経テ熊野道」と刻まれている。
 日本二百名山の伯母子岳は、右の灌木林を15分登った所にあり、展望は奥高野随一、ぜひ立ち寄ってほしい。三角点はないが、高野宮林畧の標石がある。西に護摩壇山へ続く尾根、南には鈍尖岳・崖又山のかなたに果無山脈、東に赤谷峠に続く尾根のなかに大峰山脈、北には荒神岳や水ヶ峰などの大パノラマが広がる。
 伯母子峠に戻り、道標にしたがい右(南)へくだる。三田谷橋まで約3時間、

古道は尾根の東側斜面を捲く細い山道となる。上西家跡まで、ブナ・モミ・ツガなどの自然林のなか、気持ちのいい山道を進むが、途中三ヶ所山抜け(崩壊地)があり注意が必要。特に上西家跡手前の山抜けは規模が大きく、ロープが設置されているが不安定、迂回路が整備されているので、不安を感じたら迷わず迂回路を歩くようにしてほしい。
 かつて旅籠を営んでいた上西家跡は、広い屋敷跡の平坦地と、高さ1.5m程の石垣が残り、南側に広い畑跡がある。北から東の視界が開け、ベンチもあり休憩するのによい所である。
 上西家跡の南に三叉路があり、「熊野参詣道小辺路(世界遺産登録予定ルート)」と書かれた標識が立っている。帰宅後十津川村役場に問い合わせると、「三叉路左の捲き道は、明治になって開かれた道である。右の尾根道は江戸時代の古道で、現在整備中である」という返事であった。
 山抜けに注意しながら左の明治道を進むと、自然林からよく手入れされた杉・檜の植林地に変わる。しばらくして、右に明治43年に建てられた「弘法大師坐像」

高野参詣道を歩く

⑨ 小辺路(上) (高野山〜五百瀬)

(1日目) 高野山から大股
南海の難波駅から極楽橋行きの急行に
乗車。極楽橋駅からケープル、バスを乗
り継ぎ、千手院橋バス停で下車。
バス道を渡り左へ30分程行くと、「金
剛三昧院」と刻まれた石標があり右折す
る。2〜3分歩いて、金剛三昧院入口の
大きな石標のある十字路を右へ進み、林
道に登る。舗装林道は尾根を乗越す所で
地道になり、やがて明るく開けたろくろ
峠に出る。

江戸時代大滝口女人堂があった所で、
右に案内板と真新しい道標が立っている。
ろくろ峠から、相ノ浦口(高野七口の一)
の通る尾根を右に見ながら、尾根沿いの
林道を南へ進む。途中左に真別処(四通

律寺)へくだる女人道が分岐する。しば
らく歩くと三叉路になった薄峠に着く。
直進すれば関西電力の無線中継塔に至
るが、左へ進む。やがて道端に「熊野参
詣道(小辺路)保存修理工事」の標識を
見る。小型ブルドーザーで道幅を広げる
工事を行っているが、古道の保存工事は、
路肩が崩れている所を修復したり、紛ら
わしい分岐に道標を設置することで十分
だと思いが……?

尾根を乗越し南側斜面をくだると、ま
だ保存工事が行われていない細い山道と
なりホッとす。薄峠から約20分、道が
大きく左に曲がる所に江戸末期の丁石が
ある。正面に弘法大師坐像が浮彫りされ、
右側面に「是よりかうや山エ四丁、く

双耳峰の荒神岳を望む(林道タイノ線から)



まの本宮エ十七」と刻まれている。
大滝集落を正面山腹に見ながらくだっ
て行くと、コウヤマキの植林地があり、
山道から舗装林道に変わる。有田川の上
流御殿川に架かる鉄橋を渡り急登する。
町道に出て右へ登ると、大滝の集落があ
る。
江戸時代に旅籠や茶店があったことは、

古い記録から知られるが、現在は民家が
10軒ばかりの過疎の山村である。道標に
したがって集落の中を左へ進み最初の分岐
を右折、コウヤマキの苗木畑を右に見て
尾根を左に廻り込むと、集落最奥の民家
がある。

再び山道となり杉の植林のなか、尾根
の南側斜面を登って行く。やがて山道か
ら未舗装の林道に変わり、まもなく高野
龍神スカイライン(昭和55年完成)に出
る。ゆるやかな上り坂のスカイラインを
1・5キロほど歩き、左に大きな案内板の
立つ水ヶ峰入口から山道に登る。尾根に
出ると未舗装の林道と出会い、右へ進む
と水ヶ峰集落跡がある。

【野追川村史(1974年)】に「古く
から熊野街道の宿場で、江戸時代は4軒

あり、明治中期に8軒に増えたが、旅人
の減少とともに各地に移住、昭和25年頃
無住の地になった」とある。現在は林道
右に、植林された民家跡の平坦地と墓
地が残るだけである。

林道を15分程進み、林道タイノ原線
(平成10年完成)に出る。この先平辻まで
3・5キロの間、古道は幅4尺の舗装林道
に吸収され、破壊されている。『熊野古
道小辺路調査報告書』は、「水ヶ峰から
大股まで、ブナ、ミズナラなどの自然林
が素晴らしい」と絶賛しているだけに、
むなしさを感じる。

舗装林道をしばらく歩くと左側の樹林
が切れ、双耳峰の荒神岳が展望できるよ
うになる。林道右のあずま屋の休憩所
(1108坪ビートの少し南)でひと息入れ

た後、右に作業道が分岐する今西辻を
経て、展望のよい舗装林道を30分程歩くと
平辻である。

右に古道入口があり、左上に江戸後期
の二基の地蔵石仏がある。大きい方の光
背に「右くまのみち、これより本宮まで
十四り半、左さいしやうみち」と刻ま
れている。コナラの自然林のなかを進み、
右に江戸後期の道標地蔵を見て古道をく
だると、再び舗装林道に出る。林道を右
へ5分ほど進み、左に分岐する拡幅され
た古道をくだって車道に出る。右へ少し
歩くと川原樋川に架かる大股橋がある。

(2日目) 大股から五百瀬・川津
大股橋南詰から大股集落の急坂を登る。
集落のはずれに簡易水道施設と墓地、そ



高野参詣道を歩く(第四回)

大滝口(小辺路)の歴史

長坂文男

江戸後期の『紀伊国名所図会第三編』に、「大滝口(また熊野口といふ。小田原谷に通ず)この道当山東南の入口なり。熊野本宮に詣し、それより絶嶮の深山幽谷を経て、およそ十五里にして高野に至る……後略」とあり、熊野本宮大社から高野山に至る高野参詣道である。

なお、大滝は高野山の南東約6kmにあり、高野山からこの参詣道をくだって最初に出合う集落である。

現在この道は高野古道(参詣道)の大滝口というよりは、熊野古道の小辺路として知られている。高野山と熊野本宮大社の二大霊場を直線的に結び、紀伊半島中央部の山岳地帯を縦断する最短コースである。

平安中期から上皇や貴族などが熊野詣でした紀伊路・中辺路と異なり、小辺路は標高1000m以上の峠(水ヶ峰・伯母子峠・三浦峠・奥無峠)を四つも越えなければならぬ険しい道であり、庶民の道であった。

小辺路の呼称と語源

いつからこの道が「小辺路」と呼ばれるようになったのか定かでないが、『熊野古道 小山靖憲著(2000年)』によると、江戸初期元和九年(1623)の笑話集「醒睡笑」に、紀伊国の険しい道として小辺路の呼称が出てくるという。おそらく中世末あたりから使われ出したものと思われる。

熊野本宮大社の神門



ただし、小辺路はこの参詣道全体の総称であり、普通熊野から高野山へ向かう場合は「高野道」、反対に高野山から熊野へ向かう場合は「熊野道」と呼ばれることが多い。このことは江戸期の道標や、近世の参詣記などからも明らかである。次に小辺路の語源であるが、「辺路」は辺境の道の意味であり、熊野古道には大辺路、中辺路、小辺路の三つの辺路がある。

ある。

『熊野古道小辺路調査報告書 熊野記念館資料収集調査委員会編(1987年)』に、「大・中・小」は距離の概念で、「遠い・中間・近い」の意味であろうとしている。つまり文化・経済の中心地、京・大阪からの距離が(遠い・中間・近い)ということである。このように考えて間違いないと思う。

中世・近世の参詣記

小辺路は元々は集落と集落を結ぶ生活の道であったが、中世から修験者・巡礼者・商人など、比較的歩きなれている人々に利用されるようになった。現在知られている最も古い記録として、

中世末期の「清良記 天正元年(1573)」がある。伊予国(愛媛県)宇和郡の領主である西園寺家に仕えた武将、土井清良の一代記で、父の菩提を弔うため高野山に参詣した後、小辺路を通り熊野三山を巡拝。さらに先祖の故郷木本の土居(三重県熊野市)を訪ね、その後伊勢に向かった記録である。

近世(江戸時代)に入ると、俳聖松尾芭蕉の「奥の細道」の旅に随行した門人、河合留良の「首長旅日記」がある。元禄四年(1691)3月4日(新暦4月2日)江戸を出発し、東海道を通り、吉野を経て4月9日(新暦5月6日)に高野山に登り、その後小辺路を歩いて熊野本宮に参拝している。

江戸中期になると、『熊野めぐり(大坂の商人) 元文三年(1738)』、『三熊野参詣道中記(兵庫県・伊丹の西遊家) 延享四年(1747)』などの



と、『熊野めぐり(大坂の商人) 元文三年(1738)』、『三熊野参詣道中記(兵庫県・伊丹の西遊家) 延享四年(1747)』などの

なお、このコースは高野参詣道という観点から考えれば、熊野本宮大社から高野山に向かうのが普通であるが、今回は通常歩かれている高野山から熊野本宮大社へ向かうコースを紹介する。小辺路全コースを歩くには、宿泊地の関係で普通3泊4日の行程となるが、コース中間の五百瀬(三浦口)で区切り、二回に分けて歩くプランを紹介しよう。



青いケシ

7月29日、谷底の道はカーブが多くなり、高度を上げて山岳道路になる。展望は広がるが、周りの山々は雲のなかだ。4000mを超えると、高山植物が現れ始めた。

「きょうは、たぶんブルーポピーが見られますよ」とガイドの言葉、しばらくして車が停まった。青いケシ(ブルーポピー)だ。赤いケシは、イランのデマバンドで見ることがあるが、青いケシとは初めての出会いだ。道路脇の斜面に3、4本ある。早速スケッチブックに急ぎエンピツを走らせ、クレパスで色を塗る。私は、ちょっと興奮気味になっていた。

4300m付近でまた停まる。斜面一面お花畑だ。大姑娘山フラウウオッチングツアーもあるそうで、この場所にも寄るといふ。黄色のケシ、イチリンソウの仲間、メタカラコウ、ハクサンチドリ、

の娘は、悪魔が起こした大洪水から人々を守るために雪山に变身したとの伝説がある。

この日以降、四姑娘山群は姿を見せてはくれなかった。お花畑をトラバースして樹林帯のなかを行くようになると、山道はぬかるんでいる箇所が多くなり、そのうえ、馬糞が落ちていて、泥と混ざっているから、それらをうまく避けて歩かなければならない。気をつけていてもそれを踏んだりする厄介な樹林帯の道が続いた。

老牛園子(3600m)のベースキャンプは広々として明るく、エーデルワイスなど高山植物がたくさん咲いている。



パンダ保護研究センターにて
7月31日、海子河右岸沿いに花畑のあるお花畑

リンドウの仲間、ウツボグサなど、斜面いっぱいには黄・赤・紫・青と色とりどりの花が咲き乱れている。

約4500mの巴郎山峠に着いた。ここで高度順応のため、峠から少し上へゆっくりと30、40分ほど登り、峠からゆるやかなカーブの道をくだって行く。「猫鼻梁」は四姑娘山が望める場所だが、残念ながら四姑娘山は雲におおわれていた。

くだると日陰(3100m)で、鉄筋二階建が並び、一階が土産物店、食堂や日用品の店舗になっている。四、五階建のホテルも並んでいた。山奥のひなびた建物が多いのだろうと勝手に想像していたから驚いた。ここは観光地なのだ。北に雪の白い斑点が一個所だけ山頂直下に見える台形の大姑娘山が姿を現していたが、四姑娘山は手前の尾根が邪魔をしていた。

夕方から頭痛と少しむかつきが出る。高山病の初期症状だ。グイヤモックス4分の1錠飲む。

7月30日、登山に不要の物はホテルに預け、テント・炊事用具など共同装備とシュラフなどの個人装備は馬が運んでく

(3900m)まで高度順応のため、往復する。きょうも頭痛あり、グイヤモックス4分の1錠飲む。

8月1日、キャンプI(4300m)へ向かう。お花畑の登りで、登るにしたがって樹木はなくなる。ベースキャンプの装備を運ぶ馬と馬方たちが私たちを追い抜いて行く。

登るにしたがって海子河を挟んで対岸の双耳峰が姿を現してきた。5000m前後はあるだろう。高度が上がると両側が岩山になり、カール状地形に入っていく。その先にゴツゴツとしたゲンコツのような岩の塊の大姑娘山が姿を現した。カール状を登って尾根を跨いでトラバース気味にゆるい下り道を降りて行くと、大姑娘山南壁直下にキャンプIがすでに出来上がっていた。キャンプ地の横の岩の隙間を水が流れ、高山植物が咲き、青いケシも多く見られた。

8月2日、アタック日なのに露雨、雨具を着る。稜線は雲におおわれ、そのなかへ向かうのかと思うと気分はすっきりしない。

岩屑のゆるい山道を登る。青いケシ・雪運を見ながらガレ場を登り鞍部に抜け

れるから、私たちはサブザックだけだ。

長均河に架かる橋を渡り、車道からゆるい約2分幅の山道に入る。馬も歩く道だからしっかりしている。最初の曲がり角には、観光客を当てこんで馬、馬方がたむろしている。道は大姑娘山から南にのびている尾根の末端へ登っていて、その尾根に出て振り返ると待望の四姑娘山が姿を現した。

私が憧れていた山だ。長年その山姿を見たかったのだ。早速スケッチブックにエンピツを走らせた。同志社大学隊の一次隊は失敗したが、登山期間を延長して2人の隊員を現地に残して登攀ルート・気象を調べさせ、二次隊を再編成して現地に送り込んで登頂したのだ。すばらしい登山をされたものだ。

尾根を登ってチホルテンがある地点まで登ると、左から順に四姑娘山・三姑娘山(5355m)・二姑娘山(5276m)・大姑娘山(5025m)が姿を現した。四姑娘山は鋭く雪も多く3人の姉の山々を圧倒している迫力満点だ。四姉妹で一番末の四女が一番標高が高く、順に三女、次女、長女と背が低くなっていくのがおもしろい。昔、山神阿巴郎と4人

る頃には霧雨はやみ、麓の日陰の村が望めた。しかし、鞍部から上部はまだ霧に包まれていた。少し急な岩伝いの稜線を登る。霧の奥穂高の稜線を登っているような錯覚におちいる。

ゆるい斜面になり残雪が出てきた。日陰から大姑娘山を眺めた折、山頂直下に雪面が見えていた地点に来たのだ。もうその雪面の高さまで登ったことになるから、頂上は近いはずだ。その残雪を横断して少し急な登りになり、石積の祠がある山頂に着いた。あいにく周りは霧ばかりで展望は望むべくもなかった。

下りは、キャンプIで一服し、ベースキャンプまで一気にくだる。

8月3日、朝から雨、雨具に傘をさしての下山。日陰で荷物をまとめ、この日は臥龍に泊まり、翌4日は成都経由で上海泊まり、5日関西空港に帰った。

この山旅で掲げた三つ課題は果たせた。帰国後、「四姑娘山」は30号で「青いケシ」は6号で、それぞれ油彩で描くことができ、そしてこの年の秋に出かけたドルマ・ラを無事越えられ、カイラス一周巡礼を果たした。

四姑娘山を眺め、青いケシを見に

大姑娘山へ

内田嘉弘

中国

2003年春過ぎからSARS(新型肺炎)で揺れた中国、SARSが下火になってからもどりの旅行社は中国へのツアーを見合わせていたが、一社だけ、大姑娘山へ人数が増えれば催行することになったので、申し込んだ。

① 秋にカイラス一周の折にドルマ・ラ(5660m)を越えなければならぬ。そのため、事前に5024mの大姑娘山に登って体を慣らしておきたかった。

告会でスライドを見た時、6000m級の峰ではあるが、天を突く鋭さに圧倒され、私の脳裏に焼きついてしまい、ぜひ油彩で描きたい。

② 四姑娘山(6250m)をぜひ見たい。この山は1981年の同志社大学山岳部が登っている。その報

7月27日、関空から上海経由で成都に入った。SARSで日本からのツアー客が来なくなって、「久しぶりに、日本語を話すので、チョット日本語を忘れてかけています」と、中国人ガイドの最初の挨拶であった。成都は曇り空で、いつも曇っているそう。これは南西にあるミ

ニヤンガ山群や横断山脈からの影響で、晴れて太陽が出ると犬がそれに向かって驚いて吠えるそうで、それだけ晴れる日は少ないというたとえだ。

7月28日、成都から高速道路を約1時間ほどで都江堰に着く。昔は成都に流れる水は不足していた。また、増水期には岷江は氾濫し災害をもたらした。紀元前256年から始まった工事は、蜀の



四姑娘山

る。紀元前によく考えたものだ。約2200年前の工事である。その当時、日本はまだ弥生時代である。驚きだ。都江堰は、2000年に世界文化遺産となった。

このあたりは羌族の村で、家屋は石を積み重ねたものだ。羌族は北方騎馬民族で、戦火を避け南へ下って来たという。チベット族・漢民族の影響を受けながら、古代のシャーマニズムを保っているそうだ。

やがて、土産物屋が街道に並んでいる臥竜バンド保護研究センターに着いた。年間平均気温8・5度で、夏も涼しい寒気度はバンドの生育に適して、餌の箭竹もよく茂っているそう。扉に囲まれた中、半分野生的で、一頭だけ、番犬士、あるいは子供バンドのグループ、幼児室などがあった。約70頭がここにいて、一日のほとんどを食事に費やしている。冬は一年で食べる竹の量は15tだそう。冬眠はせず、木登りが得意とき、子供のバンドといっしょに写真撮影もOK、バンド保護研究センターへの寄付金として200元払えば子供のバンドを抱きかかえながらいっしょに撮らせてもらえる。子供のバンドといっしょに撮らせてもらえ、子供のバンドを抱いていっしょに撮った人はやはり重かったそうである。この日はこのホテルに泊まった。



禁断のアフガーニスターン・パミール紀行

一ワハーン回廊の山・湖・人

平位 剛著

新刊

A5判上製美装 四八八頁 三八〇〇円 カラー32頁 写真・地図多数
アフガン北東部に盲腸のようにつぎたワハーン回廊。秘境と名のつく唯一残された
山域に、近年、三度に亘って潜入した世界的に類のない貴重な探検記録。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

等も見られ、急登をふうふうと汗を拭きながら見る花はほんとうに心慰められる。

急な坂道を登りつめた所が大津ワングル道分岐で、どうしてもここで休憩となるが、25名の団体では腰を下ろす場所もない。

その後、やせ尾根では土砂が流され、根っこだけの空洞状態で下が透けて見える場所を通過する。そして、次はコース一番の岩場の難所が待っている。10分もない高さだが、木の根っこやロープの手助けでなんとか攀じ登り、その後も急斜面をへつってようやくゆるやかな尾根でひと休みとなった。

釈迦岳分岐あたりからは落ち葉の下に雪が踏み固められた泥んこ状態で、足元

を気にしながら進み、釈迦岳(1060m)到着である。

賑やかに大休止だ。食事をとりながら周りを見渡すと、アブラチャン・シロモジがきれいに花を付け、ツツジ・ノリウツギ・タニウツギも春の準備中である。そばにすくと立っているブナ二本ももう少し待つと葉と同時に開花も見られるだろう。あたりは花より団子でそんな樹木に関心のある人は少なそうで、私ひとりがりうろろと歩き廻るのは気がひける。

まだまだゆっくり見てみたかったが、リーダーの声に急かされるように腰を上げる。10分も歩かないうちに先頭集団からいちだんと高い歓声。近づくとバイクオーレンではないか。

のことがないかぎり迷うことはまずないだろう。

ゆっくり歩いても約1時間半のコースで、休憩も一回ですむ。つづら折れに少しずつくだっている。高度がなかなか下からず、うんざりするほどでもある。

落ち葉に埋まる石コロ道の歩きにくい所を過ぎると、すぐに大堂川堰堤に飛び出した。

あきるほどの自然林の山歩きだっただけに、皆ほっとひと息入れている。梅ノ木谷に立派過ぎるほどの砂防ダムがある。いつも感じるのだが、自然破壊はもちろんだ、日本の公共工事政策のあり方に疑問がよぎるのは私だけだろうか。

その後、簡易舗装の傷みが激しいでこぼこ道を行くと、まだまだ樹木が花を付けている。キブシ・コバノミツバツツジ・マメザクラ・アブラチャン・ヒサカキ、またまたヤシヤブシにクマシデまで現れる。

そばには廃屋と化した別荘が倒れかかっている。その上に樹木がおおいかぶさっている。目をおおいたくなるようなありさまで、別荘地といっても荒れ放題である。

さらに進むと、人の手が入っていると思われる建物があり、週末の別荘として出入りがありそうな雰囲気である。

その別荘地を過ぎてきれいに舗装された三叉路まで来ると、きょうの山歩きは終了である。

歩いた後のリーダーによるストレッチも気持ちがいい。挨拶を聞きながらふと顔を上げると、釈迦岳とヤケオ山の二つのピークがまた来いよと呼んでいるような気がして、もちろんまた登りますと心の中で答える。思いもよらない比良の山野草と樹木花に巡り会えたらうれしきで一つ一つを花合わせをしながら、JR近江舞子駅へ向かった。

来年はイワカガミの咲く頃に登ってみよう。
(平成15年4月13日歩く)

▲参考コースタイム▼

JR近江舞子駅 8・45—八幡神社 9・05
—雄松山荘道 9・35—大津ワングル道分岐 10・40—釈迦岳 11・50(昼食) 12・30
—ヤケオ山 13・00—中井新道—大堂川堰堤 14・20—三叉路 14・45—JR近江舞子駅 15・10

△地図▽昭文社「比良山系」

れ途切れでやや不鮮明な道が続くが、比良のコースをくまなく知るリーダーの後に続くわれらは何の心配もない。黄・白色の樹木花たちを、「シロモジだ、アブラチャンだ」などと言うが、そんなに早足で歩いてどうしてき、ちり同定ができるのか。私はもう少しゆっくり花を確認しようと木をつかまえていると、やはり列から離れてしまう。

そうこうしているうちに、だれもが知る草質のつやのある葉のシキミが黄白色の花を賑やかにいっぱい咲かせている。もっとも秋に熟す袋果の中の実には特に猛毒で、和名も「悪しき実」がなまったものと言われているくらいで、秋の山歩きでけっして口に入れてはならない実だ。

だから下りた下りばかりの道だが、石コロが出てくるのはほとんど下り切った所で、歩くのには問題はない。しかし、この道はほとんど人が入らないため、十分な注意が必要だろう。

もっとも、最近の地図にはこのコースが破線で描かれるようになったので、以前よりかなり歩きやすくなったと、リーダーは言う。道標はまったくないが、赤布は所どころに付けられている。よほど

花巡り山行

釈迦岳・ヤケオ山

田中 明

比良

私の最近の山歩きは花巡りが中心になっており、新ハイ誌が届いても比良のコースは見向きもしてこなかった。しかし、比良歩きも相当プランクがあったため、めずらしいコースのようだから歩こうかと釈迦岳行きを決めた。

もともと比良方面では花は無理だと自分勝手に言い聞かせていたため、その心準備などせずに当日を迎えた。

きょうは比良のオーソリティである秦リーグである。花巡りでなく久しぶりの本格的な山歩きになるだろうと、JR近江舞子駅から歩き出した。

ところが、小松小学校付近からNTTの建物あたりに来ると、オオイヌノフグ

リ・ムラサキサギゴケなど、野草たちがあちこちにきれいな風景をつくっているではないか。

歩く道々にはチリ一つ落ちていない。あたりの住民の方々の心配りがすぐにかかった。

その先の公園には日曜日のためか大勢の人たちが繰出で公園の草取りや清掃をされている。きれいな住宅街を歩かせてもらい、八幡神社に着く。点呼と準備体操後、衣服調整をしていよいよ山行の始まりである。

別荘地帯が近づくとき少しづつ登りがきつくなる。そんななか、舗道の両サイドにはヤシヤブシ・シロモジ・クロモジ・

られた。

雄松山荘道に取りつくまでにはけっこう植物観察ができるのがうれしい。建物の数は少ないものの、別荘を見ながら山道に入る。

一本たてる間にヒメヤシヤブシを細かく観察する。ヒメヤシヤブシは雄花序と雌花序がともに下を向くが、ヤシヤブシ・オオバヤシヤブシは雌花序のみ下を向き雌花序は上を向く。また葉が展開すればヒメヤシヤブシは側脈が20×26対と一番多いので同定は容易である。

観察が終わると落ち葉が足にやさしい



コバノミツバツツジなど、樹木花が黄やピンクで色鮮やかだ。なかでもヤシヤブシが次々と現れ、よく見るとヒメヤシヤブシも競うように長い花穂を下げている。

早春の3月頃にはほとんどの樹木たちは花はもろろん葉の展開もこれからだが、カバノキ科のハンノキ属とりわけヤシヤブシ・オオバヤシヤブシ・ヒメヤシヤブシ

登りが待っている。高度を上げるにしたがい、ショウジョウバカマがちらほら咲いている。しかし、何といてもイワカガミの葉が多く、いたるところに目立っている。

きょうの参加者は25名、これだけ多いと花好きなおられ、イワウチワだいやこの葉はイワカガミではと賑やかである。

たしかにイワウメ科のこれらは花が咲いていればだれでも間違わないが、花が直前のこの時季の同定はやや頭を悩ませるようだ。結局、きょうはイワカガミは蕾くらいで、咲いているものはほとんど見られなかった。

歩きながら葉を観察しているとほとんどがイワカガミのようである。個体差があるにしてもおむね葉先が尖りぎみなのがイワカガミであろう。

そうは言っても、わずかばかりの岩場近くでは遠慮がちにイワウチワが薄ピンク色の花弁を精一杯広げて春を謳歌している。その姿に思わず拍手を送りたい気持ちであった。

岩がゴロゴロ現れる付近にはヒメヤシヤブシに混じってマンサク・ダンコウバイ

ヤケオ山から見る釈迦岳





巻向山山頂

点のある頂に達する。

山頂は灌木に囲まれて展望は期待したほどでもない。奥不動寺で聞いた話では、山頂周辺では少し前までは、初夏には紫色のツツジを数多く見ることができたという。その花とはヤシオツツジなのかアケボノツツジなのか、何の花なのか詳しくはわからない。花盗人により乱獲されて絶滅に瀕しているという。

ツツジの季節とはずれた山行だったので、紫色のツツジは当然見られなかったが、周囲を探してもそれらしき木々は見つけられなかった。いまでも山中の密かな所に紫色のツツジが自生しているのだが、その場所は教えられないという寺の人の話であった。

撮影が禁じられていた三輪山では写せなかったが、登頂記念に巻向山三角点をデジタルカメラに入れる。暗雲の空から遠雷がとどろき、出かけの天気予報で雷注意報が出ていることを思い出させた。自然を破壊するという言い方は大袈裟のようだが、山の花を持ちかえる登山者の行為に対して、警鐘ともとれる雷鳴に聞こえた。

児らが手を巻向山は常にあれど
過ぎにし人に行き巻かめやも

(巻七―二六八)

いとしい子の手を巻くという巻向山は今も変わらずにあるが、亡くなった人に再会して手を巻くことはできるのだろうか。亡き妻への愛情を詠んだ人麻呂の切ない気持ちが迫ってくる。人麻呂恋歌の山である巻向山にいつまでも留まりたい気持ちを持ち振り払い、雷鳴に追い立てられるように下山にかかった。

巻向山のコルへおりる峰道からは大和三山や葛城連山が望め、大和の国中は晴れていた。帰り着いた奥不動寺の前から川沿いの市道をくだり、車谷出合から穴師へ向かう。巻向川(穴師川)のやさしい瀬音を聴きつつ、山の辺の道に出合い、

穴師大兵主神社へ向かう。
巻向の痛足の川ゆづく水の
絶ゆることなくまたかへり見む

(巻七―二〇〇)

万葉集では穴師川は痛足川と記されているが、穴師とは岩穴に入って鉄鉱石の採掘に従事した者であろう。金属精錬の仕事でタタラを踏む穴師たちには、足がわずらう者が多かったという説がある。各地に、「火止まる」ことから火難の神として人丸神社ができていた。その人麻呂伝説の成り立ちは、タタラ炉の火の災難から守るために、穴師らが伝えたものかも知れない。

巻向の山辺とよみて行く水の
水沫のごとし世の人われは

(巻七―二六九)

愛する妻をこの世から失い、その面影をもとめて人麻呂は穴師川を歩いていたのだろうか。巻向山のほとりを流れている水沫のように、この世のはかなさをかみしめながら山の辺の道をたどっていたのだろうか。

山の辺の道を景行天皇陵へ向かう。オーナー制で木を育てる果樹園の角を折れて山手へと歩く。穴師山の森に包まれて、

昔の人も自分のように、妻を恋しく思っ
て寝ることができなかったのであろうか
という歌意である。古人がどう思っ
たかはわからないが、人麻呂が愛する妻
を思い、その愛の感情を主題にして、愛
の歌を繰り返して奏でていたのは事実なの
である。

三諸のその山並に児らが手を
巻向山は繯ぎの宣しも

(巻七―一〇九三)

穴師の里から振り返ると、巻向山を奥にして、三輪山と穴師山とが太刀持ちと露払いのように見えている。人麻呂が詠んだ恋人を手枕にしたような巻向山の続きぐあい美しい。その風景に別れを告げた。
(平成15年9月12日歩く)

△コースタイム▽

近鉄大和朝倉駅(30分)天の森(10分)
白山神社(10分)春日神社横集会所(50分)
三輪山東尾根出合(40分)奥不動寺(40分)
白山往復林道入口(40分)巻向山(50分)車谷出合(1時間)穴師大兵主神社(20分)相摸神社口(バス15分)
JR・近鉄桜井駅北口
△地形図▽2万5千▽桜井・初瀬



穴師神社

穴師上社の穴師大兵主神社はおごそかなたたずまいを見せている。もともとは巻向山の高峰弓月ヶ岳山頂にまつられていたが、応仁の乱で火災に遭って焼失したため、穴師下社の穴師坐兵主神社がある現地に主神として遷座されたという。

穴師神社の境内に角力瀬船の旧蹟カタヤケシがある。野見宿禰を祭神とする相摸神社が立ち、大鷲や柏戸も力士時代

に土俵入りを奉納している。穴師神社の大兵主神の御神体は、「剣」がまつられている武道神であった。社には「鏡」を御神体にする御食神の坐兵主神と、「勾玉」を御神体とする芸能神の若御魂神とが合わせまつられている。

崇神天皇の時代に倭姫命が奉祭した古社への参拝をすませ、ゆっくりと過ぎる時間のなかを帰ることにした。いま歩く巻向の地は早くから開けて、初期大和政権が確立した土地である。「纏向の日代の宮は朝日の日照る宮」と、古事記歌謡に謡われた景行天皇の宮都があった所である。垂仁天皇の纏向珠城宮跡もそばにあり、いにしえの王者の古墳も近辺に点在している。

柿本人麻呂の仕えた持統天皇の統治した宮都は、律令国家にふさわしい新益京と称えられた藤原宮であった。宮廷歌人である人麻呂は、歌による祭事で持統天皇の世を称えていたのである。熊野行幸の時に、いにしえの人々に思いをはせて歌を詠んでいる。

古にありけむ人も我がごとか
妹に恋ひつづ寝ねかてずけむ

(巻四―四九七)

『万葉集』歌枕紀行 泊瀬と巻向の道(下)

巻向山から穴師神社

木村 太郎

大和

万葉集を代表する歌人柿本人麻呂の生誕地を、山の辺の道の標本町とみるか、葛城山麓の新庄町とみるかは見方の分かれるところである。柿本人麻呂歌集を資料にすれば、山の辺の道にかかわる巻向の地を詠みこんだ歌は13首にのぼる。万葉集全巻で巻向歌は15首出てくるので、そのほとんどは人麻呂自身か人麻呂が採取した歌なのである。人麻呂と巻向との密着度を考えると、巻向の地に近い標本町生誕説が信じられてくるのである。

長谷の弓月が下に隠したる妻
西さし照れる月夜に人見てむかも

古来より泊瀬の巻向山の最高峰は弓月

ヶ岳と称されている。人麻呂は公にできない妻を弓月ヶ岳の山麓に隠し住まわせていたであろうか。宮廷の貴人かもしれない秘密の妻を、明るい月夜に探し出されるのではないかという恐れを詠んだ歌である。

こもりくの泊瀬の山の山の上に
いざよふ雲は妹にかもあらむ

妻は宮廷の追手によって捕らわれ幽清されたのか、自刃して果てたのかわからない。死んではじめて土形娘と名前が明かされた妻を、「泊瀬山に火葬の時」と題詞した人麻呂の挽歌である。はるか昔、泊瀬の山間に漂う火葬の煙に人麻呂

不動におまいりをして行く。
空になったベットポトルに鹿おどしへ
流れ込む山の水を汲んでみると、「濁った水よりも美味しい調御水がありますよ」とお寺の尼僧さんが教えてくれた。不動寺の裏手に細い山道があるので尋ねると、初瀬山山麓の白河集落の信徒さんが峠越えでお参りに訪れる道だという返答であった。寺の石段をくだり、鎖が張られた林道入口から道標を見て白山への山道に入る。

下草の生えた細い道を登ると突然、ロッ



クガーデンが目の前に現れた。同じ山名でも加賀白山御前峰と比べると、そのスケールの差は否めない。緑を失った山地には、高天ヶ原のような異郷の風景が広がりを見せている。そして白砂の台地の中程に、神々しい形相のオペリスクが尖り立っているのである。

巻向山への縦走をすべく、雑木林のなかに突入していくが、行く手の尾根道は踏み跡が途絶えてしまった。脇本から三輪山東尾根での朝の悪夢がよみがえるような嫌な気分がおそろ。前進をばむ背

白山



が亡き妻の面影をしのんだ隠口の暗雲が、この日も巻向山の上空をおおっている。三輪山のやぶ漕ぎで切り裂かれたズボンの上に合羽のズボンを重ね着したので、どうにか歩きつづけられそうな格好になった。巻向山奥不動寺の門をくぐると、一日花の白い芙蓉に迎えられる。マイカー山行が多い自分なので、衝突激突の魔除けご利益があるという関西唯一の北向き

丈を超えるササ群のブッシュを前に、三輪山東尾根へよじ登った闘争心は萎えていた。

ここは素直に撤退すべしと考え、ふたたび月の砂漠のように荒廃したロックガーデンを通り過ぎる。その時、巻向山の最高峰を弓月ヶ岳と呼ぶよりも、この白山の白砂の風景こそが湧えわたる三日月を連想させた弓月ヶ岳の名に相応しいのではないかと思われた。

あしひきの山川の瀬の鳴るなへに
弓月が岳に雲立ち渡る

(巻七〇八八)

山川の神霊が坐すという弓月ヶ岳源流の水音に、神からの伝言を聞いて、人麻呂は山上の雲に神の具現を見ていたのである。ならば自分も、神山にちがいない弓月ヶ岳と呼ばれた巻向山に敬意を表し、頂を踏むべく白山登山口に戻り、ゲートをまたいで巻向山への林道に入った。

地元の人が高瀬谷と呼んでいる平坦な谷筋の舗装路を北方へ進む。途中までこへ通じているのかわからない山道を見送り、巻向山のコルに着く。笠山荒神社方面へ抜ける林道を後に、巻向山への道標を確かめて山道を登り、一気に3等三角



車山から八子ヶ峰を望む (鳥居信吾氏撮影)

た。夏ならいくつもある駐車場が除雪されていないのだ。道路脇のレストランなども休業中だ。

実は、このピーナスラインはこの年から通行が無料となっていた。有料の時代と異なり、道路を管理する人間がないから、観光客はおろか、スキー客の利用さえもないこの地域の除雪など思いもよらないことだろう。

小屋の「ヒュッテアルビレオ」が建っている。夏に歩いた時には宿泊客の姿を見たが、今は人の姿もなく静まり返っている。予約がなければ、積雪期には休業するのかもしれない。

雪の感触を楽しみながら、ゆっくりゆっくり進む。高原状の尾根だからか、動物たちの足跡はほとんど見られない。が、雪の上に枝を出している灌木に、うさぎの食痕を発見。枝には歯型までくっきりと付いていた。

11時半に持葉沢ノ頭付近に到着。地形図に「八子ヶ峰」と記された地点で、三角点もあるはずだが、今は雪の下である。

時間はたっぷりあり、日差しも心地よく、風もない。「時間無制限」のランチタイムを宣言し、雪の上に坐り込んだ。雪の魔力は、人を無邪気な世界に誘い込むようで、食事を済ませたメンバーはやがて尻セードに興じることとなった。雪遊びもまた楽し、である。

雪遊びの後再出発。道はやがて北側斜面に広がる「しらかば21ノースキー場」のゲレンデと交わり、スキーを楽しむ若者たちの横を通り過ぎていく。

やむを得ず、バスはUターンし、車山高原スキー場駐車場待機してもらったことにした。9時15分「肩」を出発。車山山頂を目指し、スノーシューで稜線をひたすら登った。30分ほどで山頂へ。

蓼科山・八ヶ岳連峰・南ア北部・中ア全山・御嶽・乗鞍・槍穂高連峰・後立山連峰・美ヶ原・妙高・黒姫・戸隠・四阿・浅間など、昨日、青空の下、眩しい景観を展開していた山岳が、きょうは一転して曇絵のような世界をつくり出していた。その美しさにまたも感動。

昨日歩いた八子ヶ峰はちょうど向かい側なのだが、蓼科山や八ヶ岳連峰に比較すれば、なんとも目立たない存在であることがよくわかる。

ところで、車山には1等三角点があることになっているそうだ。この日は雪の中だから、当然、探しようがないと考え、気にも留めなかった。

2003年の6月、新ハイの前夜発日帰り例登山行で再びこの山頂に立ったとき、当日の参加メンバーの中で三角点はどこにあるのか、と話題になった。いくら探しても見つからないのだ。ちょうど居合わせた地元自然観測研修のグルー

廃屋のような無人休憩舎に着くと、眼下に白樺湖が大きい。白樺湖を眺めながらまた休憩してコーヒータム。

今度は「白樺湖ロイヤルヒルスキー場」を左に見て、各自思い思いに広い雪の斜面をくだった。スキー場からペンションは歩いて10分ほど。14時にはペンションに帰り、それから全員で白樺湖畔の日帰り温泉「すずらんのみ」に行き、体を温めた。

翌日は、空いっぱいどんよりと雲が広がっていた。8時半過ぎにペンションを出発。車山高原スキー場を経て、車山の「肩」までバスを走らせた。この道は「ピーナスライン」と呼ばれ、夏ともなれば、高原の風と花と雄大な景観を求めて、観光客の車がひっきりなしに走る。しかし、この季節は「肩」の少し先から閉鎖中である。

冬のピーナスラインがどんな状態か、バスが待機できるような駐車スペースがあるのか、私は気になっていたが、ペンションのオーナーは「肩」あたりなら大丈夫だ、と言っていた。

ところが、やはり駐車スペースはなかつ

▲参考タイム▼

〈20日 晴れ〉岐阜駅23・10(バス)

〈21日 晴れ〉(バス) 白樺湖ペンション6・30〜8・30(バス) 女神茶屋8・50〜9・00 八子ヶ峰東峰9・40〜10・00 持葉沢ノ頭付近11・30(昼食) 12・45 無人休憩舎13・15〜30 ペンション14・00(泊)

〈22日 曇り〉ペンション8・40(バス) 車山肩9・15〜25 車山9・45〜10・00 車山肩10・55〜11・05(バス) 仏岩温泉11・50(入浴・昼食) 14・00(バス) 岐阜駅18・20(解散)

△地形図▽昭文社『美ヶ原・霧ヶ峰』

ブに尋ねたところ、現在山頂に建つ気象レーダーの建設工事後からわからなくなっているとのことであった。

15分ほど滞頂し、復路は眼下の車山湿原あたりをメドに、急斜面を一気にくだった。無雪期にはこんな芸当はできない。スノーシューイングならではのおもしろさである。

11時頃には、車山を引き上げ、2日間のスノーシューイングを終えた。

(平成14年3月20日〜22日歩く)

◆里山ザック◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

☆うさぎ18/☆

★カラー
ランドベージュ×キャメル

★重量 700g

★素材 綿9号、牛革

★価格 ¥15,000

☆たんぽぽ18/☆

★カラー
ランドベージュ×キャメル

★重量 650g

★素材 綿9号、牛革

★価格 ¥15,000

新製品紹介

味わい深い、
綿帆布の小型ザック

昔懐かしい綿帆布と本革を使い
内外のポケットに工夫をこらした
小型のザック。
里山歩き、街歩きに
ご愛用下さい。

イモック山遊行くらぶ
2月22日
兵庫県山形市
船松山(1101m)
千穂の大きな山です。
雪の多い季節に盛ります。
詳細はお問い合わせください。
イモックを
読んで下さい

IMOCK
KOBÉ

〒653-0030 神戸市東灘区日直町3丁目1番20号
カブノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00~20:00 日曜日不営業



「東寺五重塔」

コース概観

京都駅の北側に並んで建つ東と西の本願寺。風俗博物館や渉成園に平安のおもかげをたどり、新撰組の聖地壬生を訪ねる。さらに南へ歩き、江戸時代の花街・島原の角屋もてなしの文化美術館に寄る。S.L.マニア必見の梅小路蒸気機関車館から京都のシンボル東寺へ。ユネスコの世界遺産「古都京都の文化財」を味わいに足をのびしてみた。



壬生。新撰組の屯所のすぐ隣が壬生寺。沖田総司が子供たちと鬼ごっこなどをして遊んでいたという境内には、近藤勇の胸像や新撰組隊士の墓や供養塔が並ぶ。祇園祭宵山の7月16日には、新撰組隊士の慰霊供養祭が行われる。春と秋に盛り上がる無言劇の壬生狂言は、国の重要無形民俗文化財にも指定されている。

壬生寺から南へ歩くと江戸時代の花街・島原。角屋もてなしの文化美術館。「あの、お武家さま、昔からこの部屋には幽霊が出るやうに申し伝えてあります」「この部屋に幽霊が」改めて、竜之助がこの部屋を見廻すと「翠簾の間」で

あった。」と中里介山が「大菩薩峠」に記したのは二階の一室。新撰組の芹沢鴨が近藤勇派の暗殺を企て、竜之助と角屋で落ち合った場面が出てくる。当時の重厚な雰囲気の色濃く残る建物は重要文化財。純和風の旧二条駅舎をエントランスにした梅小路蒸気機関車館は、D51など大正・昭和の代表的な機関車18両が展示され、実際に走らせもしている。平安建都1200年を記念してつくられた梅小路公園は憩いの広場。季節を彩る草花が咲き誇る。朱雀の庭を見学して、大宮通を南へ下り東寺に向かう。日本一の高さを誇る五重塔は、京都のシンボル。本居宣長は宝暦七年(1757)9月、念願の五重塔に上り、五層から京都を眺望した。

金堂は豊臣秀頼が発願し、片桐且元を奉行として再興させた天竺様の構造を用いた豪放雄大な気風のみなせる桃山時代の代表的な建築。講堂には大日如来を中心に五智如来・五菩薩・五大明王・四天王・梵天・帝釈天の二十一体の仏像を安置する。弘法大師の密教の教えを表現する立体曼荼羅。

JR京都駅下車。近鉄、市営地下鉄駅を併設する。「京都は歴史の門である」とのコンセプトを持ち、国内最大級のスケールを誇る京都駅ビル。百貨店・文化施設・ホテルなどが一体化した複合商業施設。二階のKYOTO手塚治虫ワールドは、手塚治虫とその作品に触れられるスポット。鳥丸口へ向かう。「京都のロウソク」と呼ばれる京都タワーが正面に建つ。展望室から洛中洛外が見渡せる。地下三階の駅前温泉がうれしい。

鳥丸通を北に歩いて行くと、豪壮な築地塀が姿を見せる。七条通を西にとり西本願寺へと向かう。門前は経典や仏具を扱う店が軒を並べ、独特の雰囲気漂う。興正寺、北隣に「お西さん」と親しまれる西本願寺。車椅子で参拝できるようにバリアフリーにされているのがうれしい。御影堂は現在修復中。桃山時代の粋を集めた絢爛豪華な建築、伏見城から移築された唐門を始め、白書院など、国宝建築が立ち並ぶ。

寺の北、花屋町通の井筒南店ビル五階に風俗博物館がある。「源氏物語」の世界を堪能できる博物館は、紫式部の世界観を見事に具現化している。

しばらく東に歩くと「お東さん」と親しまれる東本願寺。右側に美しいなまこ壁と柳の新緑。世界最大の木造建築「御影堂」の荘厳なるたたずまいは圧巻。現在の伽藍は禁門の変で焼失した後、明治二十八年に再建されたもので、その費用は京都市の予算に匹敵するものであった。御影堂と阿弥陀堂の間にエレベーターが設置されている。渡り廊下に再建に用いられた巨大な用材を引き上げるため、全国的女性たちが黒髪を断ち切って寄進した毛綱が大綱が残されている。蓮の噴水を前景に雄大な御影堂門を写真に撮り、鳥丸通を渡って東本願寺の別邸渉成園へ。江戸時代の瀟洒な意匠を伝える庭は都のオアシス。桜・紅葉、花々が庭園の四季を美しく彩る。東山を借景にした池泉回遊式庭園は国の名勝に指定されている。渉成園から北へ高倉通を進むと仏光寺。浄土真宗仏光寺派の大本山。本堂の前に見事な紅枝垂れ桜がある。

ここから西へ。堀川高辻に京友禅を紹介する友禅美術館「古代友禅苑」がある。体験コーナーで本職に指導してもらっても楽しい。

さらに進むと新撰組ファンの聖地であ

東門のすぐ横の東寺餅に寄る。「東寺餅」は大正時代からの贈り物。大ぶりの「よもぎ大福」をお土産に京都駅八条口へと向かう。

コースタイム

京都駅(20分) 西本願寺(5分) 風俗博物館(10分) 東本願寺(8分) 渉成園(25分) 仏光寺(20分) 友禅美術館(10分) 壬生寺(20分) 角屋もてなしの文化美術館(8分) 梅小路蒸気機関車館(10分) 東寺(15分) 京都駅

地形図

2万5千Ⅱ京都東南部・京都西南部

費用 京都市バス (均一) 220円

問い合わせ先

西本願寺	075 (371) 5181
風俗博物館事務局	
東本願寺	075 (343) 0001
壬生寺	075 (371) 9181
角屋もてなしの文化美術館	075 (841) 3381
梅小路蒸気機関車館	075 (351) 0024
東寺	075 (314) 2996
	075 (691) 3325

東・西本願寺から東寺へ

松永恵一

本願寺
親鸞聖人の語録「歎異抄」は伝える。「弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせ、往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんとおもひたつころのおこるとき、すなはち損取不捨の利益にあづけしめたまふなり。」

すべての人を救いたいと願っておられる阿弥陀仏の不思議なお力に救われて、私のような凡夫でも必ず往生できるので、私と信じて、お念仏を称えようという思いが起きたとき、ただちに阿弥陀仏の無限なる慈悲に包まれて、決して見捨てないという救いの利益をいただくのである。ただただ阿弥陀仏を信じ、お念仏を称える。……南無阿弥陀仏……

地の寄進をうけ、京都七条堀川に堂宇を建立した(本願寺派西本願寺)。
慶長七年(1602)、徳川家康は秀吉から隠居を命じられていた類如の長男教如に鳥丸六条の地を寄進(大谷派東本願寺)。ここに本願寺は東西に分立することになった。

東本願寺は、堂々とした御影堂門が迎えてくれる。運の花をかたどった噴水は竹内栖鳳の図案。風がやさしく渡る広い白州。世界最大の木造建築物の御影堂。南隣に落ち着いた雰囲気のある阿弥陀堂。涉成園は東本願寺東側にある庭園で園の名勝に指定されている。周囲に枳殻が植えられてあったことから枳殻邸とも呼ばれる。

西本願寺は、信仰の重みと奥深さを感じさせる空間。親鸞聖人を祀る御影堂、阿弥陀如来を祀る本堂。桃山文化を伝える豪壮な書院、秀吉の聚楽第の遺構と伝えられ、金閣・銀閣とともに洛陽三閣の一つに数えられる飛雲閣、彫刻の見事さに日の暮れるのを忘れることから「日暮らし門」とも呼ばれている伏見城の遺構の唐門など数多くの文化財が点在する。
東・西本願寺とも御影堂は現在、修復工事中。

救いは人間の努力によるものではなく、

すべては阿弥陀仏の本願によるものであるとする絶対他力の信仰を説いた親鸞は、弘長二年(1262)11月28日にお亡くなりになり、京都東山大谷の地に埋葬された。10年後の文永九年、末娘の覚信尼らは六角の廟堂を建立し、御真影を安置した。親鸞の曾孫・覚如は本願寺を創設、諸国門徒の統一をはかった。

第八世蓮如は活発な布教活動を行い本願寺教団は飛躍的に発展した。かねて願していた延暦寺は快く思わず対立し、大谷本願寺は破却された。難を避けるために越前の吉崎に移り、教線を広げて勢力を回復、都に戻り山科本願寺を建立。訪れた足利義政の妻日野富子は、「さながら

新撰組の屯所

「へえ!」姐さんも驚いている。無理もない。壬生の新撰組の屯所ならば、人を斬ることを大根を切るよりやさしいと考えている鬼のような腕スキの豪傑ぞろい、それへひとりて斬込むなどはまったく人間業ではありません。」

と、大佛次郎は「角兵衛獅子」に記した。新撰組の勇士たちの足跡が聞こえてくる屯所跡・壬生郷士八木邸は、当時のままの姿で出迎えてくれる。長屋門・式台。

幕末の文久三年(1863)2月、十四代徳川家茂の警護のために、浪士隊が江戸から上ってきた。髪は長く、長い刀を差し、衣服は汚れ、表情はどれも恐ろしげであった。この家に分宿した近藤勇・芹沢鴨らを中心に、のちに京都守護職松平容保公お預かり新撰組が生まれた。

芹沢一派等を粛清。局長近藤勇、副長土方歳三の隊規厳しい体制で、幕末京都の治安を守った新撰組。池田屋事件などを経て壬生が手狭になり、慶應元年(1865)夏、西本願寺の太鼓番屋に屯所を移した。新撰組は精銳主義の上に少数のつく日本人好みであった。お抹茶と屯所餅をいただくが思いをはせた。

「東本願寺御影堂門」



ら極楽浄土を観るような」と、その壯麗を讃えた。「講」に組織された門徒は、一向一揆を起こし領主等と戦った。親鸞の血脈を継ぐ本願寺は、真宗の中核的な存在となっていた。山科も法華宗徒の焼き討ちに遭い、大坂の石山に移る。石山本願寺は、織田信長との十一年にわたる攻防を経て和睦した。十一世蓮如は紀州・和泉・大坂天満と転々とするが、天正十九年(1591)に豊臣秀吉から寺

東寺(教王護国寺)

「身は高野心は東寺におさめおく大師の誓いあらたなりけり」と御詠歌は謡う。真言宗総本山の東寺は京の入口。平安建都の際、桓武天皇は旧仏教勢力から逃れるために平安京に寺を建てることを許可しなかったが、都城の玄閼、羅城門の脇に都を守る寺として「東寺と西寺」を置かれた。

嵯峨天皇は運々として進まない東寺の造営を、親交の深かった空海の手に乗せ、新しい仏教である密教に国の未来を託した。空海は悟りの場の高野山と社会的に活動する場の東寺と二つの密教の根本道場を持った。

伽藍は南大門・金堂・講堂・食堂が直線上に建ち、東に五重塔、西に灌頂院を配置する。幾度か戦火を浴び、天災に遭うがその都度再建され、空海が唐から持ち帰った真言七祖像を始め、数多くの寺宝が残されている。

夕日に黒いシルエットとしてそびえる五重塔は、今も昔も都の象徴。毎月21日大師の命日に開催される「弘法さん」は京の風物詩。千軒以上の露店、人出は大師に寄せる民衆の信仰の深さ。

東お多福山登山口より

六甲最高峰を越え有馬へ

コースとコースタイム JR芦屋駅南口(バス20分)→東お多福山登山口(25分)→土樋割峠(25分)→蛇谷北山(20分)→石の宝殿(15分)→軒茶屋(10分)→六甲最高峰(10分)→住吉(魚屋道1時間)→有馬稲荷神社(10分)→温泉寺(10分)→湯泉神社(20分)→有馬バス停(約11:55時頃)

中村 敏文

① 東お多福山登山口(芦屋市)
有馬行きの阪急バスはJR芦屋駅北口・阪急芦屋川駅で混雑するので、芦屋駅南口から乗車する。予想通り北口と芦屋川駅はバス待ちの混雑であった。30分で登山口に到着し、舗装道路を土樋割峠へ向かう。東お多福山の北山腹を伝い30分で土樋割峠に着く。

三角点のない607坪の東お多福山は、広々とした草原の山頂で三方の展望がよいが、今回は六甲最高峰で昼食のためカットする。

② 土樋割峠(芦屋市)
峠は東お多福山へ15分。魚屋道の七曲

であった山頂は戦前の自然はないが、老若男女が憩えるなららかな山頂公園に山容を変え、931・3坪の1等三角点が六甲山最高峰を明示している。開けた山頂からは瀬戸内海から四国までを視野に入れる最高の展望地である。

仲哀天皇の神功皇后伝説によると、外地遠征の帰途、後の応神天皇を殺し、皇位継承を企画した義兄2人らの反乱軍を明石海峡で討伐した。仲哀天皇妃の大仲姫の皇子である義兄ら6人の首と甲を埋めた山といわれて六甲山という?

初冬にしてはめずらしい温暖な晴天に恵まれ、山頂での楽しい昼食をすませて下山にかかる。

当初の予定は11月に紅葉探勝をメインにし、白石谷を紅葉谷出合へくだり、大谷川沿いを有馬へ下山するものだったが、



魚屋道をくだりかける左手に吉高神社の小社がある。西側の山腹を伝う単調な山道を東北へ30分程で、大きく右へ廻り東へくだる。北へ折れてしばらくくだ

登り口へは15分で、西北へ黒岩谷を伝えば六甲最高峰への位置にある。

今回は石の宝殿経由の最高峰登頂ゆえ峠から北へ1.0の蛇谷北山を目指す。高度差300坪の急坂交じりの狭い山道は思ったより厳しく、750坪のピークで西下の黒岩谷、東下の本谷を見下ろしながらひと息いれる。脚力差が登山列を長くしたが、峠から30分で蛇谷北山(840坪)へ到着した。

展望のよい北山で六甲山系にくわしい先達、二位さんから群立する山々の説明を聞くとなぜか楽しい。

六甲最高峰が西方間近に座り、西南には西お多福山、真南には東お多福山が見

雨で延期となった。12月になったたきょうは天候には恵まれたが、白石谷の下りは雨後の増水で無理と思われる。魚屋道を有馬稲荷神社へ下山することに変更する。

⑤ 魚屋道「住吉道」(北区有馬町)

六甲山頂から舗装道を東へくだると車道の左脇に有馬への道案内がある。現在、東灘区の阪神深江駅東側の踏切の山側に六甲越古道の石標と説明板がある。近世からの行商人たちが灘の海産物を有馬へ運んだ道で、六甲最高峰越は東廻りの有馬道に比べ、半分以上の最短距離である。新鮮な海産物を届けるために七曲がりの急坂を越える難渋な道でもあった。

住吉道という六甲越はいつしか魚屋道と呼ばれ、現在も主要なハイキングコースとなっている。

える。東方に林山・とかが尾山が重なり東北に鉢巻山が見え、北方には水無山の尾根が背景をなしている。

③ 石の宝殿(神戸市北区)

蛇谷北山から起伏の少ない尾根を北へ伝うと15分程で石の宝殿へ着く。伝説では神功皇后が外地から持ち帰った神の石を納めたという岩場の山頂で、三つ葉ウツギの根元に金の鶏を埋めたという。六甲山系には山岳宗教の行場や寺跡が点在する。昔から山麓の農民がここに天狗が住んでいると言った行場跡と思われる。宝殿へ参拝し、宝殿下の広場で小休後、六甲全山縦走路を西へ向かう。

後鉢巻山は車道がトンネルで抜けるが縦走路は南側山腹を伝う。低い灌木の林を登り下りすると軒茶屋がある。縦走路と東六甲ドライブウェイが通じる六甲最高峰の南裏下において、江戸時代の六甲越の旅人が利用した老舗で、現在六代目の射場さんは自然公園指導員と神戸市グリーンパトロールも兼ねている。

④ 六甲最高峰(神戸市北区)

長らく日本進駐軍アメリカのレーグ基

ると道は左右に分かれる。右への細い道は射場山麓を廻るので、左への幅広い道をくだる。数分で正規の登山路は左へ分かれるが、「有馬へ近道」と道標のある細い道がある。近道を10分程くだるとこじんまりとした稲荷神社へ到達する。

⑥ 温泉寺・湯泉神社(北区有馬町)

下山路変更で生じた余裕で温泉寺に参拝し、湯泉神社参詣となる。稲荷神社から10分で愛宕山北山麓の温泉寺に入る。本尊薬師如来を安置した有馬山と号する黄檗宗寺院である。行基開創の古寺で京都智積院末の真言宗新義派の寺院である。度重なる火災で再建したが、明治の廃仏毀釈で衰微した。もと奥の院であった黄檗宗清涼院が寺名を継承した。

温泉寺境内から愛宕山北中腹へ移建された湯泉神社は思ったより遠く、大己貴命・少彦名命・熊野久須美命を祭祀する式内の大社で旧郷社でもある。

湯泉神社から市街へくだり有馬バス停まで20分。解散後、数人はバスで梅田へ直行し、神戸のルミナリエ見学者は残る。時間待ちに「金の湯」(600円)に入り、三ノ宮駅へ出た。



石標名山頂の山名標石

山の感があったが、鳥越峠まで林道が出来てからは、簡単に登れる山へと変わってしまった。この日も続いて何組ものグループが登ってきた。

山頂は平坦で広く、南が開けているが、展望を楽しむにはもの足りない。山頂からすこし北へ行くと、大展望が広がっていた。すぐ左の林の陰に筭谷山・横山岳が。遠く雪を被って巨状に見える左千房・三国岳の右にあるのは三周ヶ岳・黒壁・鳥帽子山。右手に黒く見えるのは蕎麦粒山で、小蕎麦粒山・五蛇池山・天狗山と連なっている。いずれも奥美濃に詳しい金谷さんの解説だった。

10分程山頂で大展望を楽しんだ後、先は長いので早く出発となる。この時期、金養岳へ登る人はあっても、その先の白倉の頭まで足をのばす人は少ない。ササ原の道を西の白倉峠へとくだると、細い

峠尾根の北側には雪が残っていた。峠から大岩を乗り越えて尾根にのると、尾根斜面には残雪があり、雄大な景観を目の当たりする。

その尾根の先端が白倉の頭。別に白倉岳と呼ぶ人もいる。三角点標石は雪の上に出ていた。点名は「深谷I」で、2等三角点が置かれていた。標石は美しく、顔は南を向いていたが、わずかに西へ振っていた。4年前にこの三角点に来た時には、濃いガスに視界を遮られ、10分先も見ることができず、このピークがどうなっていたのか、全くわからなかった。ただ、三角点を確認して、金養岳へと引き返しただけだった。この日は天気が良く360度の大展望。全く別の山へ登ったような気がしてならなかった。

ここから花房尾根へ踏み出す。この先は初めて歩くルートである。展望がよく、連なる尾根の先に奥山がクッキリと見えている。あそこまで歩くのかと思うと、気が遠くなる。この年は雪が所どころしかなく、持ってきたワカンはザックに括りつけたまま。尾根が雪におおわれているからワカンを履いての歩きとなり、こんなに早くは歩けないに違いない。ゆるく

枝を踏んだり滑ったり、右に左にコースを変えながら進んで行く。尾根にユズリハが目立つようになり、その先の急斜面を登り切ると奥山山頂だった。

奥山、三角点は3等で、点名は「深山II」。別に深谷山・滝谷の頭とも呼ばれている。三角点は広場の真ん中に立っていて、真新しい感じがする。標石の頭は15・5号四方あり、ちようと、磁石の南を向いていた。予想通り、山頂は雪におおわれておらず、初めての三角点と出会えて感激する。山頂の北側は切り開かれ、タムシバの花のかなたすぐ近くに、疎らに雪の残った金養岳が横たわっていた。ここで第一回目の飲み物の整理を行う。

奥山からの南尾根には古い袖道が残っていた。道を雪や小枝がおおい、歩きにくい箇所があったが、所要所要にくだいて、迷うことはない。このルートで最も難しいような標高点979mの南で方向を変え、西の尾根へゆるい地点でもテープに導かれ、自然に尾根へ入ることができた。雪が多くテープが無かったら、そのまま南にのびる尾根をくだってしまえばいい。静か

な二重山稜のようなブナやミズナラの林を過ぎると、滝谷の頭と表示された小ピークに着く。この林での休憩でも、瀬田の彼のザックからはドラエもんポケットのように、またまた、冷えた飲みものの缶が幾つも出てきた。

方向を西南にとり、斜面をくだって尾根にのると、再びしっかりした道が現れた。溝状に刻み込まれた道には落ち葉が積もり、足首まで滑ってしまいう。気がつくとき、それまで、嬉しいほどに聞こえていた彼女のシャベリ声、聞こえなくなっているではないか。声が消え静かになると、今度は「気分が悪くなったのだろうか？」と気になってくる。

高度が下がるにつれ、いろいろな花が姿を現す。まずマンサクが顔を見せ、右檜左雑木の尾根になると、あたり一面、黄色い花をつけたシロモジの林。足元にはシハイスミレも咲いている。それが檜の林に変わると、道は西斜面をくだりだす。道脇にはイカリソウが一面に花を付けて、われわれを歓迎してくれていた。シュランの花も顔を覗かせている。

所どころの空地では、早やワラビが姿を見せ、そのワラビ採りに精を出す人は

南へくだり、登り返すと標高点1161mのピーク。八草峠へ向かう分岐である。八草峠から尾根沿いに標高1000m付近まで林道が入っている。雪のない時期ならこちらからでも登ることが可能になった。

そのピークから西南へ尾根をくだる。かすかな踏み跡があったが、それも残雪と倒れた小木で途切れがちになる。尾根からはずれないように歩き、小さなピーク二つを越えた所で昼食となる。

朝早く起きて握り飯一個では、11時前でも腹が空いて当たり前。まずは喉を潤し、ラーメンを腹に詰め込む。やっとひと心地ついてあたりを見渡すと、そこは実に美しいブナの林だ。空腹で食べることには専念し、全く周りの光景が目に入らなかったのだ。例年より雪が少なく、車で林道の駐車場まで上がり、時間短縮できたので、岩野さんの山行では、めずらしくゆっくりと昼食がとれた。

11時50分、出発となる。10分程で己高山への分岐である五郎の頭、別名玉口岳と呼ばれるピークに着く。ここから南の尾根にのる。アップダウンがあるが、比較的広い尾根。ササを掻き分け、倒れた

鈴鹿のお兄。二日連チャンの山行では、こんなにまでして奥美濃行をしなくてはならないのかと、ちよっとばかり同情の気持ちわいてくる。送電線鉄塔に出て、ミツバアケビの花を見たのち、斜面をくだると高山キャンプ場へと降り立った。下山時間はちよと、15時。

駐車場へ戻り、運転者が林道の駐車場まで車を取りに行く。待っている40分の間、残った者はのんびりと春を楽しむ。やっと車が戻ってきて、これで帰れると喜んだのも束の間、車のキーを持っていくのを忘れた人が1名。その人が戻ってくるまで、今度はイライラ待ちの40分。16時25分、全員が揃ったところで解散となった。(平成14年4月14日歩く)

△コースタイム▽

高山キャンプ場(車25分) 鳥越林道駐車場(35分) 小朝の頭(1時間15分) 金養岳(30分) 白倉の頭(50分) 五郎の頭(40分) 奥山(2時間20分) 高山キャンプ場

△地形図▽

2万5千111 近江川合・虎御前山

連載

三角点を訪ねて ⑳

金龕岳・白倉の頭から花房尾根を奥山へ

湖北

磯部 純

岩野さんがプライベート山行で金龕岳から花房尾根を歩くのは、この年で三回目。最初はほんの数人で歩いたそうだが、毎年同じ時期にこのルートを歩くのは、いつしか公然の秘密となっていました。私が初めて参加することにしたこの年は、総勢17名の多きになったのである。これまで、金龕岳西の白倉の頭の三角点を訪ねたことはあったが、花房尾根中央にある奥山の三角点を踏んだことはない。前年は雪が多かったため、奥山の三角点は雪の下かと思ひ、参加を見合わせた。この年は異常気象のためか雪が少なく、今度こそ奥山の三角点に会えると、心ときめかせて参加することにした。

「近江高山キャンプ場に7時半の集合」との連絡がきたが、下を走るのではどうして間に合わず、名神高速道を使うことにした。久しぶりに早起きを強いられ、目を覚ましたのは4時。これから寝たのでは遅れてしまうと感じて準備をし、4時50分には家を出た。天ヶ瀬ダム脇の道を走ると濃霧で何も見えない。ただ、真っ白の中にヘッドライトに照らされたセンターラインが目に入り込んでくるだけ。必死の思いで車を走らせ、瀬田川を離れる頃になると霧も晴れ、夜も明けてきた。瀬田東インターから名神高速道に乗り、一路長浜インターを目指す。彦根手前で時計を見るとまだ

6時前
経費節減
とばかり
彦根イン
ターで降
り、8号
線を守る。
国道30
5号線に
乗り換え、
草野川の
手前で右
折したの
が間違
で、どこ
まで走っ
ても見
えのある風景に出合わない。いつの間にか旧道を守る羽目になっていたのだ。ドンドン走って野瀬まで来て、やっと草野川右岸の広い道に出て、ホッとひと息。近江高山で左岸に渡ると、前を走るのは岩野さんの車。着くのが早過ぎたかと広場に着くと、まだ7時前なのに、ほとんどの人が集まっていた。岩野さんのプライベート山行だけあって、いずれも見



白倉の頭から奥山へ連なる尾根を見る



「小朝の頭」「大朝の頭」のピークはいずれも東俣谷の支流の名称に由来している。登山道の脇には、ショウジョウバカマが点々と花を開き、所どころにイワカガミ・イワウチワ・イワナシも蕾を付けていた。あの白い可愛らしい花はセリバオウレン。一登りした平坦地には雪がベタベタ。そこで2人連れに

会う。この日初めて出会った登山者だった。雪面を歩き右の尾根に登ると、再び登山道に出会う。その尾根を登り切ったピークが「小朝の頭」、約1124mのピークである。目の前には金龕岳がそびえ立っている。雪が残った尾根をいったんくだり、「大朝の頭」へ登り返す。この尾根からの展望はよく、後方に伊吹山・虎子山・ブンゲン・貝月山・瀬戸山・新穂山等の稜線の山が一望できた。下の林道には、岐阜県側から登ってきている登山者の歩く姿が小さく見えていた。大朝の頭から急登が始まる。周りは高い雑木の林。歩き出してからずうと、途切れることなくムトウ鳥のシャベリが聞こえてくる。よく息が続くものと感心するほどだ。その間隙をぬって、コマドリやヒガラの鳴き声があたりにコタマサる。急斜面を登り、道脇の木々が低くなってきた。道の両側が雑木とササの斜面に変わると、金龕岳山頂は間近。金龕岳は標高1317m。滋賀県で第二の高峰である。山頂に三角点はないが、基石のような大きな山名標識が設置されている。この山へ登るには、以前は二俣キャンプ場から歩かなくてはならず、深

知った顔ばかり。そのうちの何人かは、この日にロングコースを歩くというのに、前日に山を歩いてきて二日連チャンというから、その体力には呆れてものも言えない。この日は長靴姿が3人。いつもは長靴姿の鈴鹿の彼女は、前日に足を痛めたと言っ登山靴にスパッツを付けていた。山靴を履いた彼女を見るのは初めてだ。

集合時間の30分前の7時には全員集合。五台の車に乗り合わせ鳥越林道を上へ向かう。道脇の崖にはイカリソウが花を開いていたが、高みに登るにしたがい春が遠のいてゆく。例年なら雪で途中までし

少なく、約950mの駐車場まで行くことができた。これだと1時間30分は短縮できるだろう。天気は上々で空気が澄み渡っている。金龕岳・白倉の頭から長く続く花房尾根が目の前に横たわり、南を向くと鳥越峠からカナ山への尾根が連なっていた。雪が少ないといっても、谷筋には白く残っていて、春はまだ先だと告げていた。7時40分、駐車場を出発し、中津尾根の登山道に登り始める。まだ雪が解けて間もないのか、道には至る所に小木がおおいかがさっている。それを滑ったり跨いだりしての登行。登り出してすぐのピークが「連状の頭」。その後、踏んでいく

用いたのではないかと思う。

【旗振りの方法】

時代により業者により異なった方法が存在したようだが、基本は、旗を体の右手や左手などで回転させて振って、その位置・回数と順序で、相場の値段や合い印の位・数字を伝達するものである。

本誌60号で紹介した天保十三年（1842）の『俳諧職業尽』には「左の方へ六度右へ七度前へ八度後へ九度振時は米一石二付代銀六拾七匁八分九厘と知ると也」とあって、単純明快であるが、実際には、このままでは、簡単に他人に相場値段を盗まれてしまうことになったことだろう。

『安土ふるさと』の伝説と行事』には、安土町の善住園一氏の記憶による、次のような旗振り通信の方法が紹介されている。「信号が開始されるまでは、旗は常に倒して置く。

信号開始

発信地の旗が直立すると、受信地の旗も直立させて応答する。受信地の旗が直立したのを確認した発信地は、旗を上下左右に振って相場を通告する。

上げ相場 直立した旗を発信者の左横上

にし二振り。

下げ相場 直立した旗を発信者の右横下

にし二振り。

一銭 右横斜下。

二銭 右横。

三銭 右横上下二振り。

四銭 右横斜上。

五銭 直立。

六銭 左横斜下。

七銭 左横。

八銭 左横上下二振り。

九銭 左横斜上。

十銭 直立して二振り。

二十銭 右横。直立し二振り。

三十銭 右横上下二振り。直立し上下二振り。

四十銭 右横斜上。直立し上下二振り。

五十銭 直立し前に倒す。直立し上下二振り。

六十銭 左横斜下。直立し上下二振り。

七十銭 左横。直立し上下二振り。

八十銭 左横上下二振り。直立し上下二振り。

九十銭 左横斜上。直立し二振り。

一円 直立の旗を大きく左右に振る。

復讐

直立した旗を左横に大きく倒し、直立に戻した旗をさらに右横に大きく倒す。受信相場額が、復讐によって間違いない時は、発信地の旗は直立し上下に振る。復讐に間違いのある時は、直立の旗を左右に大きく振り前地に倒し、引続き発信する。」

この方法はやや複雑で、識別でも困難が感じられるのであまり良い方法ではないと思う。

『姫路の山々』（中島書店）の大平山の解説には、次のような通信方法が載っている。「信号の内容は、畳半分ぐらいの旗の振り方で相場を継送。呼び出しは、縦に振り、右から左へ小さく丸く振ると一回で一銭、右横へ大きく振ると一回で一〇銭、二回で二〇銭、右へ大きく振り右から左へ小さく丸く振ると一銭、その後、左の方へチョイと振ると、これで値が決まるといった仕組みである。」

右の内容を見ると、水谷與三郎「旗振り通信」(『上方』(堂島号)第百五号、昭和十四年九月)にある通信方法とほぼ同じ文なので、その引用であろうと思われる。この方法も識別にやや難が感じられ

るが、旗振り人夫には軽くなすことができたのだろう。

この他、『こうらの民話』(本誌58号で紹介)にあるように、「今日の旗は、黄色だから三円高だよ」といった通信方法も用いられたようだが、実用性は低い方法である。

それでは、各地で普遍的に用いられた通信方法はどうなものであったのだろうか。それは、近藤論文(大阪の旗振り通信)にある方法で、次のようなものである(昭和56年の岡山ルートの再現実験で用いられたのもこの方法であった)。

通信は一方において、信号手が旗を振って信号し、他方には遠眼鏡でこれを望見し、さらにこれを旗で次に通信する。最初に発信したものも、また遠眼鏡でその信号に誤りがないかを望見する。その具体的な方法は次の通りである(左右は振る人から見た方向)。

信号を開始する場合には、振り出しの合図として、旗を中央直線に振り下ろす。次に通信しようとする数字に応じて、右に振れば十位を表わし、左に振れば一位を表わすことにする。たとえば、十四円三十五銭を合図しようとする場合には、

まず右に一回、左に四回振って、いったん旗を右に打ち返しておき、十四の合い印である五を左に五回振り、これをまた打ち返して右に三回、左に五回振って、三十五を通信した後、さらに右に打ち返して、三十五の合い印である四十一を右に四回、左に一回振る。この合い印は先に通信した相場の実数、十四と三十五が間違いないかどうかを確かめるために行うものである。実数一〇〇に対応する合い印の数字(245)があらかじめ決めてあって、間違いを防ぐ役目を果たした。通信に上等等と下等等があり、上等等の場合のみ、合い印が用いられた(上等等の料金が高いことはいずれもあるまい)。

旗を振る場合には、円を描くように振り、もし、発信した数字と違った数字を受信者がさらに他に発したことがわかった時は、発信者は旗を強く上下にしばき、次に左右水平に振って、その誤りを指示した。

もし、右のようにありのままに相場を通信した場合、他に盗用されるおそれがある。そこで、台付(臺附)と称して実際相場とは加減して通信するように協定した。たとえば、五日には十銭を加算し、

六日には七銭を減算するとかいうふうにあらかじめ決めておき、日毎に変えるだけでなく、毎日の相場の節毎にこれを変えた。そして毎月あらかじめ作成したものを秘密で被通信者の手元まで送達しておくというふうにした。また、地名、米油の種類、当期・中期・先期等の信号も協定しておき、毎月、変更していた。後場早引・立会延引等はイロハ信号で知らせた。

相場の変動が激しい時には、まず、打切を符合(二つの数字)で通信し、次に節の符合を通信し、最後に相場を通信した。なお、旗振り通信で株式相場を通信する場合には、まったく別の信号を用いたという。

水谷與三郎「旗振り通信」には次のようにある。「長距離のこと故、旗振り通信を途中で盗み読むものがあつた。それを防ぐために『玉入れ』という特に出合せた日には十五銭をふっても十四銭だという風にしてやったものです。」

(つづく)

(平成13年3月20日成稿、11月13日補訂)

(平成14年1月1日追補、11月11日追加)

(平成15年10月22日修正)



旗振り通信の望遠鏡3本
(黒田実三郎氏より寄贈)
(明石市立文化博物館所蔵)

り」とあるのはどんな色だろうか。昭和50年6月9日付朝日新聞東京本社版夕刊掲載の新風土記(460)(文大谷見一)には野洲町の相場振山では「黒わくの大旗」とある(「新風土記5」朝日新聞社、1975年、所収)。一般的には白黒赤が用いられたことだろう。旗は、昔は木製で、

たが、後に金巾製となったという。大旗は、幅三尺(約91cm)長さ五尺五寸(約167cm)、または幅四尺(約121cm)長さ六尺五寸(約197cm)、小旗は幅二尺(約61cm)長さ三尺五寸(約106cm)、または幅三尺二寸(約98cm)長さ五尺(約152cm)のものを用いた(近畿論文)。つまり、大旗で一畳一畳半位、小旗で半畳一畳足らずである。別の資料では、「たみ一畳ほどもある大旗」(こうらの民話)とあり、川合論文(平岡潤氏の聞き取り結果)によると「旗は六尺(約182cm)と六尺位で白色」であり、まさに二畳分の大きさである。当然のことながら、地域により旗の大きさは異なっていただろうが、半畳一畳の大きさの旗の使用が一般的であった。

昭和56年の再現実験では、縦二・〇八尺、横一・二三尺の旗が使用されている。竿は普通に釣竿の先を折り取り、一丈(約303cm)から八尺(約242cm)位のものを用いた(近畿論文)。なお、淡路島と徳島では、竹竿の先に白紙の采配をつけて振ったというような明治九年の新聞記事もあるが、そのような方法で視認できたのだろうか(筆者は、やはり、布旗を



宿屋看板(めがね屋)
(黒田実三郎氏より寄贈)
(明石市立文化博物館所蔵)

館長に依頼して撮影させてもらった。

旗振りは大正6、7年頃まで続いたという。高取山から中継したと思うところ。給金は日当で、お

この図鑑には他にも、二〜六段になった伸縮式望遠鏡の写真が掲載されている。双眼鏡もあり、幕末に福井藩主・松平春嶽が愛用したものが載っている。本誌61号では明治後期の双眼鏡についてふれたが、江戸後期には既に西洋からもたらされていたようである。ただし、旗振りに双眼鏡が用いられていたのは、大正3年、高安山においてであろうと思われる。近郊では明治期には公認されたため櫓が設けられた(江戸期には設置できなかった)。山中では、旗振り人夫のために、雨よけの小屋が設置された所も多い。

だったという(三代子さん談)。今の家はのちに建て替えたもので通常の家屋である。

当時の宿屋の「旅人宿 めがね屋旅館」と書いた看板は、平成2年に遠眼鏡三本と共に、明石市立文化博物館に寄贈されている。遠眼鏡は「大阪名所絵図」の旗振り図と共に常設展示室のテーマ8のコーナーに並べられており、「明石市立文化博物館総合案内」(1991年)の44頁に掲載されているが、宿屋の看板については包装されて第1収蔵庫に保管されていて、一般には公開されていない(筆者は

米が貨幣がわりだったというが、具体的な数値はもうわからないとのことだった。夫妻によれば、本誌65号で紹介した、旗振りさんの目撃者である土井一夫さんは現在は101、2歳で、入院中とのことだった。

『江戸さいえんす図鑑』(インテグラ発行、そして発売、平成6年)には、江戸時代の望遠鏡と双眼鏡が写真で紹介されている。岩橋晋兵衛作の長さ三百七十一・五cm、対物鏡径七・〇cmの長筒望遠鏡(彦根城博物館蔵)では、色収差が大きい、約三十倍の倍率が得られるという。

旗は、原則として、晴天時は小旗、曇天時は大旗を用いた。櫓台または低地では、背面に樹木・岩石等の障害物があったり影となって暗い時は白旗を用い、それ以外や山上では黒旗を用いた。滋賀県石部町雨山では黒旗を用いたが、三重県の多度山とお経塚では、「赤と白の二本の旗を振り回していた」(中島伸男、雨生野第22号)という。本誌60号で紹介した江戸期の『俳諧職業尽』にも「白赤等の幟」とある。近江と伊勢では組織が異なり、合図の方法も違ったためだろうと思われる。桑名市史で「色々の鮮やかな旗を振

米相場の「旗振り通信」に使った

仏製の遠眼鏡見つかる



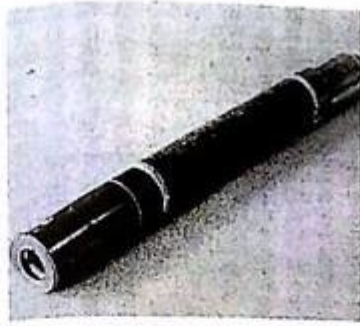
真ちゆうで90センチにも 県内では他になし

血性の黒田
さん定で4本

昭和59年4月10日付の眼鏡機器部技術課検査係(有村由紀恵)の技報によれば、この地上用望遠鏡の最大の長さは93センチ(本誌65号で紹介した長さ1.1710は間違いのようである)、対物レンズの外径は46.6センチ、倍率は約25倍、実視界は50分、重量900gである。板金、ろう付け、はんだ付け等の技術が優れていて、製造に相当日数を要したものだと思われ、価格も

直径は5.5センチ。手にとると、ずっしりと重い。のぞいてみたが、遠距離でない
と焦点が合わないので、映像ははっきり見えなかったが、今でも使えそうである。

この望遠鏡は、NHKの「ウルトラアイ」(昭和59年3月5日放映)の実験で使用されたことがあり、NHKよりニコソ広報課に光学性能の測定が依頼されている(依頼品は二台で、もう一台は最大長39.7



旗振り通信用の望遠鏡
(野洲町鈴木昭一氏旧蔵)
(「蒲生野22」より転載)

の数というのが振った回数なら正しいことになる。多分、よく事情を知らない人の記録なのだろう。広島県・山口県では相場通信で、狼煙を用いたという話が残るが、やはり、これも夜に用いた火振りを誤解して伝えたものであろう。

望遠鏡と時計も通信には必須のもので、大正期には双眼鏡が用いられたこともあったようである。望遠鏡は、野洲町の鈴木家所蔵のものが中島論文②(蒲生野第22号)に報告されている。黄銅(真鍮)製で、縮めた長さ70センチ、三段に伸ばすと1.1710、対物部の直径3センチ、対物部は6センチ、重量は1.25キロという。倍率は確認されていないが、対物レンズの直径が

6センチで、三脚に固定して使用する場合の有効倍率(口径×4.2)は25倍となる。この望遠鏡については、大切に保管されていた野洲町の鈴木昭一さんが平成11年に他界され、平成12年に幸子さんにお尋ねしたが、望遠鏡の所在は確認できなくなっている。

三重県の岸岡山で用いたものは全長48センチで、浜中家に保存されている(鈴鹿市史3)。

桑名市の杉山和吉翁は手旗信号の読取りに用いたドイツ製の望遠鏡を大事に所蔵して、堀田吉雄氏に見せたことがある(桑名の民俗「昭和62年」)。

岡山県日生町寒河には、長さ1.222メートル、最大直径6.5センチ(木製)のもの、長さ75センチ、最大直径4.5センチ(真鍮製)のものが伝わる(昭和56年12月4日付、オカニチ)。対物レンズ6.5センチの有効倍率は27倍、同4.5センチだと19倍である。ちなみに、倍率20倍で手持ちだと手ブレが起こり、5〜10倍と同じ程度にしか見えないことになる。

望遠鏡は本誌58号掲載の「風俗画報」にある通り、三脚に固定されて使用されている(三脚を使わなくても、手ブレ防止の

高価なものであろう。分解能は2秒で、83センチ離れた所に立てた、1センチ間隔で立っている二本の柱を判別できる性能に相当するという。ただし、もっとも良い条件の場合である。

再現当時、59歳だった妻の三代子さん(80歳)も元気で、昭和56年8月4日付の神戸新聞に掲載された望遠鏡の取材記事の写真と同様に、夫妻そろって、今でも好奇心旺盛な様子に關心させられた一日であった。

新聞記事によれば、実三郎さんの叔母(つじさん、故人)の話では、決められた時間に、地区で一番高い場所の岡畑(相場山)に行き、赤いろうせんを敷いて、この上で旗振りをしたという。祖父(初野千代太郎、故人)が遠眼鏡を受け、父(黒田光次郎、昭和34年没、80歳)が旗振りをするなど役割分担があったという。父まで四代にわたって旗振りをしたという(曾祖父は柳野重右衛門、明石市誌上、三三八頁に名前が見える)。祖父千代太郎の代で、旗振りには継続しながら、旅館の経営を始めたので、いつしか屋号が「めがね屋」と呼ばれるようになったという。旅館は昭和時代にも経営していたが管理が大変

ため何らかの方法で固定して使用したはずである。通常の長さは1.1710程度であり、生駒山での2.2(樋口清之「こめと日本人」)というのは例外というべきであろう。以上のことから、旗振り通信においては、望遠鏡は15〜25倍程度で使用されたものと思われる。

筆者は、実際に旗振りに使用された望遠鏡を調べてみたいと思いい、岡山ルートの再現のために西宮のボイスカウト関係者らの調査によって、明石市魚住町金ヶ崎で昭和56年に発見された黒田家の望遠鏡の取材を試みた。

黒田さんに電話でお尋ねしたところ、どうぞ明日来て下さいとのこと、平成14年8月24日、ご自宅にうかがった。再現実験の当時、64歳だった黒田実三郎さんも86歳になったというが、とても元気そうである。平成2年に明石市立文化博物館に三本寄贈して、今では一本だけ手元に残した旗振り用の望遠鏡を長く伸ばして見せて下さった(別にもう一本あったが姉が持ち出したとかいうような話もされていた。昔は合計五本あったのだろう)。

望遠鏡はフランス製(真鍮製)で、伸縮自在、長く伸ばすと90センチになり、最大

旗振り通信の基礎知識 I

柴田昭彦

★本研究の主眼を、旗振り場の確認と中継ルートの再現においたため、旗振り通信そのものの解説については簡略なものとされた。

★川合隆治「旗振り通信について」(三重の古文化、第48号、昭和57年)の中に、旗振りについての疑問が提示されている。それに回答を与える形で、基礎知識をまとめてみた。

【旗振り通信の起源】

安永4年(1775)に江戸幕府が大坂三郷と摂津・河内の村々の者に対して、旗振り信号禁止のお触れ書きを出しており、逆説的にいうと、当時、かなり広く行わ

れていたことがわかる。本誌61号で述べたように、宝永3年(1706)には拳信号が行われており、寛保3年(1743)には旗振りが行われていたことを示す文献がある。延享2年(1745)頃の源助による煙や大傘の信号が、後に旗の信号に変わったのが一般に起源とされている。元禄時代(1688-1703)に、大坂で旗振り通信が行われたことを示す文献は見当たらないが、江戸では紀伊国屋文左衛門が色旗で相場を伝えたという話は残っている(近藤文一「大阪の旗振り通信」)。

【通信の中継ルートと報知区域】

箱根越えが旗振りで可能であったならば、江戸まで1時間半ぐらいで伝達できたことだろう。

樋口清之「うめぼし博士の逆」(日本史1-庶民の時代・昭和-大正-明治)(祥伝社、昭和61年、217-18頁。文庫本、平成6年)では、「こめと日本人」とは違った数値が示されていて、江戸時代には、大坂から広島まで手旗信号で二七分という記録が残り、大坂から江戸まで一時間四〇分前後で届いたという(箱根では人間が走って伝えた)。この数値の食い違いの理由は不明だが、広島までは最短記録、江戸までは飛脚区間を除いた所要時間であろうと思われる。

今井幸彦「通信社」(中央公論社、中公新書、昭和48年)には、「旗振り通信」が紹介され(25頁)、「旗振り通信社」とも言われた「東京急報社」による速報が記述されている(75頁)。「通信社史」(通信社発行会、昭和33年)によると、「明治二十年(一八八七年)ごろ、東京日本橋蛸殻町の米会所から、日々の相場が各地方の米商人会所へ、この旗振り信号で通信されていた」(48頁)といい、「明治三十二年(一八九九年)ごろまで、東京米穀取

堂島の米相場を、次のような地域へ報知していた(江戸・明治期)。

○西は神戸・明石・高砂・姫路・岡山・広島・下関・若津(大川市)・伊丹・三田・三木・社・水上、津山、小郡・山口・萩、久留米、博多

○東は京都・大津・彦根・長浜・水口・桑名・四日市・津・松阪・山田(伊勢市)、名古屋・岐阜・大垣・岡崎・浜松・静岡・江戸、奈良・丹波市(天理市)・三輪、大和高田、北笠置、伊賀上野

○南は堺・和歌山、淡路島・徳島

桑名の米相場を、津・大阪・名古屋へ報知することも明治期には行われた。旗振り場の間隔は、二里(8.5)から五里(20.5)が多く、平均は三里(12.5)程度であったが、立地や見通しにより、二里以下の場合もある。遠距離に伝える場合には、通信時間の短縮のため、旗振り場の数は少ないほうが経済的であり、合理的であった。見通しがきけば、六里(24.5)という距離を隔ても通信ができ、実際、そのようなルートも設置された。

【通信の所要時間】

堂島から和歌山へ3分かかったことは、引所は毎日、大阪堂島から米相場の二銭三銭という高低を、江戸橋電信局に局待ちで打電してくるので、東京急報社員が電信局に向いてその電報を受取り、これを川向うの蛸殻町へ白の大旗で通報していた(49頁)という。「通信社史」の内容は、春原昭彦・香内三郎「通信社変遷小史」(新聞研究、201号、1968年4月号)に要領よくダイジェストされていて便利である。

【通信の道具】

相場通信に用いられたのは、昼間は旗であるが、夜は、山上では火振りといわれて、松明が用いられ、都市近郊では提灯も用いた。篠崎昌美「浪華夜ばなし」には、堂島における正月の初相場では、弓張提灯を用い、螢のようだったとある。岡長平氏は望遠鏡のなかったころは、夜の合図で、火繩を用いたとする(岡山太平記)。福岡県では、夜は烽火の数の合図(火突き、相場火という)を用いたというが、昼間は旗を振っており、烽火を上げた数というのは不経済と考えられ、数値の伝達も困難であり、やはり、火振りというのが真相ではないだろうか(烽火

よく知られている(旗振り信号の沿革及仕方、近藤論文)。これは十三峠経由であろう。神戸まで7分(古谷「火と馬と旗」十二)、桑名まで10分(川合論文、平岡潤による)、三木まで10分(東橋タイムス、岡村寛治による)、岡山まで15分(岡長平「岡山太平記」、広島まで40分(樋口清之「こめと日本人」)家の光協会、昭和53年)というのが、標準的な所要時間であったようである。これから考えてみると、旗振りで送信を一回行うのには1分程度足りたという事になりそうである。もちろん、熟練した旗振り人夫が、スムーズに伝達できた場合であるとは言うまでもない。昭和56年の岡山への旗振り再現実験では2時間前後かかっている。もちろん、中継点が倍増していることと、スモッグに影響されたことは割り引かなければならない。昭和56年(再現実験の時)の電報で岡山まで約20分であったというから、それとあまり変わらないスピードで明治期に伝達していたわけである。大坂から江戸までは、箱根越えが飛脚を用いたため、8時間(「こめと日本人」本誌62号参照)というが、早飛脚のみで3日かかったのと比べても、はるかに迅速であった。もし、



果無集落

果無集落は馬の背の尾根に6、7軒の民家があり、今は麓から舗装林道が通じていて、古道は集落内で二度林道を横切る。昔は茶店を営んでいたという民家の庭先を通り、二度林道を横切ると山道の三叉路がある。右へ進むと、西国三十三所観音石像の第三十番石像がある。観音石像は、旅人の道中安全を願って十津川・木宮・新宮の篤志家が講をつくり、大正11年から12年にかけて、八木尾



十七番の観音石像と半壊の宝篋印塔（果無峠）

の杉の古木が残っている。七色への道を左に見送り、里山の雰囲気のある尾根上をゆるやかにくだると、右に「七色領」と刻まれた石標や木のベンチを見る。木の階段道から簡易水道施設の横を通り、舗装林道に出る。林道を横切り民家の庭先を通り抜け、急な木の階段をくだると、国道168号線の八木尾バス停に出る。八木尾から九鬼まで、国道を南へ2km

から機砂古の間に建立したもので、今もよい道しるべとなっている。

江戸後期の文政四年（1821）の墓碑を右に見て、薄暗い植林地の石畳道を急登し、三度林道に出る。林道を右へ廻り込んだ所で、再び右に大きな「熊野古道小辺路登山口」の道標を見る。30mほど登ると第二十九番観音石像があり、振り返ると昨日越えた三浦峠が望まれる。

553・8m峰の西側山腹を捲いて尾根に出ると、左に「天水田」の標識がある。元の山口茶屋の耕作地で、灌木の繁った平坦地は水田跡である。さらに300mほど登ると左に山口茶屋跡があり、屋敷林の杉の巨木も数本残っている。茶屋跡のすぐ先右には、地藏菩薩立像と第二十四番観音石像がある。

ウバメガシやシイの多い尾根道をしばらく進み、やがて杉の植林のなかを急登すると、三体の石仏を祀った立派な観音堂に着く。観音堂の前には、江戸後期に建てられた半壊の石灯籠がある。その横の水場は谷からゴムホースで水を引いてあり、冷たい水で喉を潤すことができよう。

観音堂から15分ほど急登した所で、樹

林が一部切り開かれ、北から北東方向が展望できる。北東方向に見える大峰山脈の尖った峰は釈迦ヶ岳である。さらに114m峰の東側山腹を捲いて、植林のなかを急登すると果無峠に着く。

半壊した宝篋印塔と第十七番観音石像があり、宝篋印塔はその形式と文献から江戸末期のものと思われる。台地状の峰は樹林に囲まれ展望はないが、ひと息いれるのによい所である。

右に果無山脈縦走路を見送り、峠から南へくだると、第十五番観音石像の手前に花折茶屋跡の平坦地がある。「三熊野参詣道中日記」に「峠ヲ少下り休、七いりより出茶屋なり」とあり、果無山脈南東山麓の七色集落から、旅人の往來の多い季節だけここまで登って茶屋を開いていたことがわかる。

観音石像に導かれるようにして急坂をくだって行く。途中765m峰を捲く所がガレ場となっており、足元に注意しながらくだる。しばらくして南の本宮町方面の展望が開け、眼下に熊野川と萩の三里橋が見える。

やがて七色茶屋跡（七色分岐）に着く。左に茶屋跡の平坦地と石垣、右に屋敷林

ほど歩すが、歩道のある所が多くて助かる。九鬼の三里中学校の少し先、平岩口バス停横から右に分かれる舗装林道を登る。沖の平のT字路の手前で左の石段を上ると、三軒茶屋跡と九鬼ヶ口関所跡の平地がある。

小辺路はここで中辺路と合流し、熊野本宮大社に至るが、茶屋跡に休憩所が建っている。休憩所横に駒形の石道標があり、「左きみい寺三十一リ半、右かうや十七リ半（みち）」と刻まれている。

関所跡からよく整備された山道をゆるやかに登り、さらにくだと蔵所の宅地に出る。宅地端の車道を歩いて石鳥居をくぐり、熊野本宮大社の境内に入る。

左へ進むと神門があり、その奥に荘厳な檜皮葺の社殿三棟がある。元々は熊野川の中洲（大斎原）にあったが、明治22年（1889）の大水害で大部分が流失、現在の社殿は流失を免れた社殿を明治24年に移築したものである。長い石段をくだり、本宮大社前バス停から奈良交通バスで新宮へ出る。さらにJRの特急に乗り継ぎ帰阪する。

（平成15年9月29日〜30日歩く）

▲コースタイム▼

【1日目】川津（タクシー15分）三浦口（1時間10分）三十丁の水（40分）三浦峠（30分）古矢倉（1時間10分）観音堂（30分）西中大谷橋（村宮バス30分）蔵尾

【2日目】蔵尾（50分）果無集落（50分）天水田（40分）観音堂（40分）果無峠（15分）花折茶屋跡（1時間）七色茶屋跡（40分）八木尾（40分）三軒茶屋跡（40分）熊野本宮大社（バス1時間30分）新宮

△地形図▽2万5千||伯母子岳・重里・十津川温泉・伏拝・発心門（コースメモ）

*川津〜三浦口（タクシー15分・回送料込み8700円・要予約）
三光タクシー

☎07466(4)0231
*湯之野・西中大谷橋〜十津川温泉間に十津川村宮バスが運行されている。
十津川村宮バス

☎07466(4)0408
*十津川温泉に旅館・民宿など14軒ある。
十津川村観光協会

☎07466(3)0200

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑭

「弓手原」

西尾 寿一

5万の地形図「伯母子岳」は筆者の好きな一枚である。高野山の南にあって熊野へ続く大山脈の一部を形成し、歴史的にも登山的にも興味深い地名がたくさん見られる。そのなかの一つに「弓手原」がある。

川原樋川は、高野の奥山と伯母子岳の間を悠々と流れて十津川に合流する大きな渓谷であるが、北股川出合より下流は人家もなく、兩岸が迫って釣師と沢の通行者のみが知る世界であった。

現在は林道が出来て野生味を失ったものの、下流から遡ると平の集落で陸に上がる。北股川出合で右は高野山、直進すれば大股(熊野古道小辺路が通る)。さらに北今西と過ぎ、次が二股である。右は松股で、さらに直進すると最後の二俣で、左すれば弓手原の集落から道は龍神スカイラインに合流する。何度も通った道な

がら、登り口の弓手原の名がなぜか長い間頭にこびりついて離れなかった。

川筋に拓かれた小野は弓手原の原を現実にも物語るものだったが、「弓手」が理解できずにいた。ごくアバウトながら、昔の合戦・祭礼・猟師など弓の使い手との関係を想像するだけだった。当たらずとも遠からずではあるが、的を大きく外していたことは確かなのである。

ある日、九州の旅で「田原坂」の民謡を聞いてアッと思わず声を出すほどの衝撃を受けた。その歌詞は明確に「メテには血刃、ユンデには手綱」と述べているではないか。直観的にメテは右手であり、ユンデは左手のことではないかと思われ、早速帰って古語辞典を引いてみると、思った通りの結果が得られたのである。ただし、ユンデは左手でよいが、メテは馬手または右手とある。

小生の直観では弓手が左手ならメテは目手だと思っていた。つまり弓を引く場合の左手は弓を支える手で、右手は照準を合わせる目の近くにあるからだ。辞典では右手は馬の手綱を引く手であり、左手は弓を持つ手である。つまり五月人形の武者の通り戦闘状態でない限り平常装

いは山畑を拓く山人・木地師、そして夜まで松明をもって山川に狩に出る猟師たちがいいたのである。

現在では想像もできないほど山は豊かで活気に満ちていたのである。

弓手原が左股であると判明したのなら、馬手また目手がどこかに存在する可能性がある。だが、現在のところ不明である。だからご存知の方は一報いただきたいものだ。

ところで、奥高野一帯では「股」という人体語を使っている。これは地名としては相当古いことを示している。新しいのは俣・又である。弓手や馬手といったりが散在するこの地方の地名分布状況は、やはり只者でないものがあるのであり、地名の歴史性や時代性を推定できるのである。また川原樋川を遡ってきた人が、弓手原の命名者であったこともわかるのである。

は辞典の通りとなる。

田原坂のほうは戦闘状態の最中で、すでに矢を使い果たし、ユンデの弓を捨てて手綱をメテからユンデに持ちかえ、メテに太刀を引き抜いて奮戦中の姿となる。これなら整合性があり納得できる。

なお、他の地名辞典のいくつかは不明の地名としていたので、地名探索でも古語辞典が案外役立つことが証明された。ところで弓手原である。地形的にみて川原樋川の左股が弓手原で、在所のある小平地の村がユンデハラとするのも納得できるのである。右股にメテ(馬手)に相当する地名はないかと調べたが、今のところ見つからない。

この地名がなぜこの地に存在するのか、なぜ残っているのか不明ながら、おそらく古い時代使用されていたものが集落の名として残ったものとみえる。

柳田国男の「屋外の燈火」に示唆に富む一文がある。長いので要約すると、昔の猟師は「照射」と書いて(トモシ)と呼び、夜間に馬の鞍に火串の松明(ヒヤ)をつけて山に入り、動物が炎灯に立ちすくみ驚いているところを光る目と目の間を弓で射る猟法があったという。また山

〈山のレポート〉

《山・詩・夢》

(新)山なみ遠に春はきて(三好達治)

紀平 龍雄

川なみ遠に春はきて
こぶしの花は天井に
雲はかなたにかへれども
かへるべしらに越ゆる路

まだ雪をかぶっているけれど、遠くの山並にもどうやら春の訪れが感じられ、うっすらと霞もたなびいている。白いこぶしの花が咲き始めた。雲はいつものように「かなた」へ帰って行くが、私は何処へというあてもなく(帰る想、知らず)、この道をたどって行く。

あちこちの観光地を訪れると、その地名を詠み込んだ詩碑や歌碑が建てられていたりする。その地出身の詩人のときもあるが、多くはそこを訪れた著名な詩人の碑である。点滅するネオンのようなどぎつぱはないが、観光業者の安っぽい

中で修行する高貴の僧が、鹿や猪をあわれに思い心を痛め、ある夜彼らの身代わりにと鹿皮をまとい野に伏したところ、件の猟師が現れ弓を放とうとした。しかし、直前になって光る目と目の間隔が違ふことをいぶかり近づいて確かめると、日頃尊敬する高僧であった。

その後猟師は心を改め仏門に入ったと伝えるのだが、これも仏教説話らしく理屈としては矛盾があるが、目的が明確で山村民は皆有り難がって聴いたのである。現在の子供なら人間の目が暗闇で光るかどうかわからないが知っている。また当時の一般的な猟師はワナを多用している。夜間に馬やらを使うというのは特定の武士階級の儀礼的な狩の場合とみられ、話の創作者がどの階級に属するかがわかる。

照射(トモシ)は現在も使用する用語で、原意がこんなところがあったかと思いを新たにす。柳田の一文はこの後、メテが右手でユンデが左手であることを決定的にする説話を記しているのだが、長いので割愛する。

高野山の奥山にはある時代(中世と思われる)、修行僧や熊野巡礼・行者、ある

新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/日6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
安藤正義/市川静子/多摩雪雄
第9巻 **一等三角点の名山100** 富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/日6判336頁/定価1631円 一等三角点100座の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/日6判360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/日6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド** (東日本編) 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/
第16巻 (西日本編) 川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9刷発売中/A5判320頁/定価各1680円 新ハイキングの精鋭5氏地踏査のガイド
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷日6判354頁/定価1690円 歴史を語る城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/
松本浩 共著
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編
日6判328頁/定価1690円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判288頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 第22巻 **阿武隈の山を歩く** 新ハイキング・ペンクラブ 著
A5判204頁/定価1680円 阿武隈の山115座の紀行とガイド
- 第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著
日6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 **山岳巡礼** 佐藤光雄 著
日6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
日6判234頁/定価1680円 新ハイ制紙の田舎ごっこ雑々雑記をまとめた、珠玉の読物
- [7] **山旅素描**/尾立真一郎 著 1835円 [8] **旅がらすの山**/富田弘平 著 1835円
[28] **一等三角点の山々**/山口ゆき子 他著 1680円 **花と山**/エーデルワイスクラブ編 1680円

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
●価格に消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担 電話/Fax03-3915-8110
振替00130-9-146915

看板のようで感心しないことが多い。山頂や展望台でも詩碑を見ることがあるが、やはり共感するものは少ない。

その点、三好達治の「山なみ遠に春はきて」「鳥集」「花隠」所収は、どこの山とも知れない。それでいて限りない「山への憧れ」や「ロマン」が匂うではないか。「あなた」ということばに起因するのかもしれない。「山」と「あなた」といえば、すぐにカール・ブッセの詩「山のあなたの空遠く」や、幸住ひと人の言ふ「を思い浮かべる」。

カール・ブッセは「山の向こうに幸せがある」かも知れぬと言ひ、三好達治は「山のかなたから春がやってくる」と言ふ。どちらが本当なのだろう。詩人の感覚がそれを探している。どうやら山の近くに春(幸)があるのは確かなようだ。

カール・ブッセの詩を知ったのは中学の国語の教科書だった。もう50年ほど前のことになるが、三好達治を身近に感じることになったのはもっと後のこと。たまたま住まいを移したのが淀川の辺で、高槻市(旧、京都府に近い)の子供を連れて川辺を散歩していると本澄寺という寺があった。入口に三好達治記念館と案

内があったので入ってみた。小さな記念館で、いつもは閉まっており、頼むと見せてくれるらしい。達治は大阪の生まれで、この寺の先代の住職が達治の弟、それで遺品などを集めて記念館にしたと書かれている。

お祭もあった。名前だけ知る詩人で、その他の知識は何もなかった。その後、詩集を買ひ、この詩を見つけた。夢をかき立てられた。ずっと後に知ったことだが、当時(昭和18・19年頃)、達治は思慕の情を永年秘めていた。27歳の時に知り染め、それから15年、相手は師萩原朔太郎の妹萩原アイ。そしてその恋がどうやら実現しそうになった時につくられた詩である。そんな事情を知って詩を読み返してみる。雲がかえる「あなた」に、想う人を頭に描いているのだろう。

しばらくして達治は妻子と協議離婚し、アイと結婚した。戦時下という事情もあり、疎開の意もあり、住まいを福井県三國へ移した。しかしこの生活は長続きせず、1年ばかりで破綻している。

三好達治の山の詩では、実はもう一つ、ときおり口ずさむ好きな歌がある。

山青し
山青し 巻の空に
かの青き山にゆかばや
朝夕は雲のかくろひ
かの山に住める人々
(中略)
木がくれに友はよびつつ
ふふみ音に春をまつ鳥
山青し 巻の空に
かの青き山にゆかばや
(詩集「福原十歳」)

達治の詩には二つとも山の名が書かれていないが、どこの山なのだろう。以前住んでいた伊豆の山だろうか、あるいは三國の山か。どこの山でもいいのかもしれない。春は身近な山から訪れるかもしれないのだから。



本澄寺の三好達治の墓

新しく開かれた 三十三間山北屋根

さんじゅうさんげんやま

中級コース(★★)

慶佐次 盛一

三十三間山の名の由来は、この山から京都の三十三間堂の棟木を選び出したからと一般に伝えられ、倉見岳・天神山・後山とも呼ばれるらしい。ハイカーたちによく親しまれている山で、私も二回登っているが、北屋根はやぶが濃くまだ歩いてはなかつた。

今回はその北屋根に縦走路が開かれたと仲間が誘われて、貸切バスを仕立てて26名のグループで縦走した。しかし、縦走路が開かれたといっても、まだ明確ではなく、読図が試されるルートである。しかも北屋根付近は熊の生息地でもあり、単独行は控えたほうがいいだろう。

大阪駅前から名神高速、湖西道路を経

を歩いていると、正面に三十三間山のピークが見えてくる。

おほかで、優しい曲線を描く若狭の名山の一つである。山頂はすぐだが、山頂手前の広いササ原で食事とした。山頂は狭く展望も得られないがここは展望がよく、先行のグループや後続のグループもここで昼食タイムをとっていた。

稜線の左側は麓の集落を見下ろし、遠く三方五湖が霞んでいたが、風が強いので右側の斜面に風を避けての食事。正面に、重厚な稜線を進む湖北武奈ヶ嶽と三重嶽が見える。稜線のブナ林はまだ冬木立のたまたま、所どころに残る白



三十三間山北屋根付近略図

由、国道303号線を北上して上中^{上中}で国道27号線を右折、倉見峠を越えてしばらくすると右に三十三間登山口への車道があり、すぐに駐車場に着く。大阪から約2時間半だった。

駐車場はかなりのスペースがあり、トイレも設置されている。大きな案内板もあり三十三間山の人気が知れる。

案内板に従い、静かな植林帯のなかの広い道を進む。清流が流れる小谷沿いの道で、山の神の祠も対岸に見られる。

ゆるい登り坂に一汗かくころ、右側に登山口の標識があり、「山頂まで3km」とある。やっと山道となり、小刻みに登る道には和紙の材料となるミツマタの花が咲き、いい香りがした。

やがて「最後の水場」の標識が現れ、翹うにはいい場所を提供してくれる。ここを過ぎると、本格的な登りとなり、ジグザグを繰り返して尾根に取り付く。

登りの連続で脚に疲れを覚えるころ、夫婦松に着く。以前は大きな松が枝をのばしていた記憶があるが、今は二代目とおぼしき若い松が植わっている。北西方向が開け、麓の村や天狗山などを見ながらひと息ついた。

い昔雪がきれいにアクセントをつけていた。

食事を終え、ササがおおう道を三十三間山へと登る。10分ほどで山頂に着いた。3等三角点埋まり展望はないが、マンサクの花が盛りで、足元には大きな笹を付けたカタクリが生えていた。

一般のハイカーは、ここから元の道を登山口へ下山したほうが無難。私たちは北屋根へ進んだ。なだらかな起伏を進む北屋根だが、それがかえって現在位置の確認を難しくし、稜線から離れてしまおうおそれもある。しかも開かれたばかりのルートで、明確な道もないから慎重に進んだ。

進むほどに美しいブナ林が現れ、しばし足を止めて疲れを癒す。古木は少ないが、雪に散々いじめられたブナやミズナラの幹が奇怪な姿を見せる。さらに進むと残雪も見られ、地を這う雑木ヤブを切り開いたなかを、美浜山遊会会「新庄」への道標に従う。

展望に恵まれない稜線だが、枯れススキの山腹に出ると三重嶽が姿を現す。このあたりで道を失いかけたが、稜線へコースを修正すると道の続きが現れた。

おほかかな曲線を描く三十三間山



夫婦松まで登れば、三十三間山まで約半分の行程をこなしたことになる。相変わらず登り一方の道だが、山頂までもう少しの辛抱だと、登る脚にも自然と力が入る。

主稜線が近づくころ、エンレイソウの花が見られ、風神への標識を過ぎると深いササに包まれた主稜線に出る。傾斜は一度にゆるみ、ササのなかに開かれた道

地形図では695mの標高点から能登野への道が記されているが、実際にはこの標高点を越えた鞍部から分岐している。鞍部から先へも新庄への道は続いているらしいが、大阪からの日帰りでは無理だろう。

鞍部の左にテーピングがあり、能登野へとくだる。下り始めは細い道だったが、くだるにつれて深く掘りこまれた古道となる。昔、近江側の三重嶽の麓に能登郷という集落があったらしいが、その生活の道でもあったのだろう。真っ白なタムシバが咲く道の、木々の幹に残された熊の爪痕を見てぞっとした。

やがて林道終点までくだる。エンゴサクやヒトリシズカの可憐な花が迎えてくれ、女性たちはゴミを見つけては大はしゃぎ。しばらく憩い、バスが待つ横渡へと林道、そして農道を歩いた。

Aコースタイム

駐車場(17分) 登山口(45分) 夫婦松(50分) 三十三間山(1時間) 能登野への分岐(50分) 林道終点(45分) バス待機所

△地形図V2万5千1三方・熊川

（里山シリーズ19 今津）
ブナとシヤクナゲの古道
 おうみさか おおみ かけやま
近江坂（大御影山）
 一般コース（★）

長宗 清司

その昔、福井県三方町倉見の成願寺、能登野の開見神社と今津町箱館山東麓の酒波寺との間を、お経を背負って隊列を組んで標高7、800呎の山中を尾根伝いに人馬が往来したという古道（近江坂）は、三方五湖と琵琶湖を結ぶいくつもある交易路の一つで、うっそうとしたブナの樹林帯があり、三十三間山・三方五湖を遠望しながら歩く歴史ある道である。途中では、県境にあって人里からは見えないこの地域の最高峰、大御影山を通過する。花の季節にはクマザサの繁みに、カタクリ・シヤクナゲ・イワカガミ・イワウチワ・ヤマアジサイの花が咲く。山の道は、時代が古いほど今と違って



大御影山への途中のブナ林



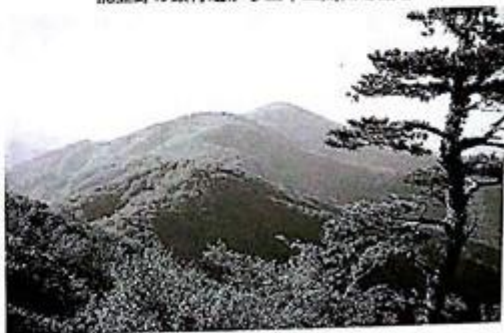
根にのると、しっかりした山道はおだやかになり、ブナの林床のなかを歩く。△750呎の三角点標石が無造作に山道上にある。やがて何度かの小さな起伏を越えて、大御影山に着く。三角点標石は道から少し離れた小台地にある。林道の峠までの尾根道は高低差がなく、唯一伐採地が右にあり、360度の展望が楽しめる。箱館山などの向こうに琵琶湖の水面が輝く。秋は、リンドウが多く咲く栗柄と河内谷林道接点の峠からは中低木の自然林。尾根道は場所によっては、昔人馬が行き交った名残か、深く掘れ込んでいるが明るい道で、意外に歩きやすい。シヤクナゲのトンネルがあり、初夏にモリアオガエルの卵塊がいくつも見られる小池もあり、山中でいろいろ楽しいものが見られる。つづら折れにく

交った名残か、深く掘れ込んでいるが明るい道で、意外に歩きやすい。シヤクナゲのトンネルがあり、初夏にモリアオガエルの卵塊がいくつも見られる小池もあり、山中でいろいろ楽しいものが見られる。つづら折れにく

尾根を伝っているのが普通だったから、ひょっとしてこの道を縄文人も歩いていたらかも知れない。最終地点には、家族旅行村「ピラデスト今津」森の交流館にある「森の湯」で一汗流して帰るのもよい。なお夕暮れて日程に余裕のある人は、和室・洋室・ファミリールーτζなどに泊まるのをおすすめする。翌日は、ゆっくりと緑に囲まれた快適な山の中でテニス・バタゴルフ・アスレチックなどが楽しめる。また、近くには、カキツバタの群生地（平池）や人造湖（処女湖）への散策も可能だし、箱館山へ登ることもできる。

出発は早朝がよい。JR湖西線近江今津駅からJRバス「小浜駅行き」に乗り、上中町へ。今度はJR小浜線に乗り換えて十村駅下車。東へ国道まで歩く（時間短縮などの場合は近江今津か上中町でタクシー利用）。横渡集落の国道沿いにある開見神社の裏に廻り新道を横切る。けもの除けをまたいで谷筋に入る。谷に入ってすぐ右の尾根に向かう踏み跡をたどる。これは開

能登野の頭付近から三十三間山を望む



電の巡視路である。やがて、巡視路から尾根をたどる。道が現れたり伐採で塞がれたりするが、能登野の頭にある電波塔を指して尾根をぬうように忠実に登れば迷うことはない。途中、左側の谷越しに三方五湖が望める。電波塔前になると、突然天増川沿いからの延長林道に出会う。電波塔の囲みを裏手に出て、一度下りになるが、次の尾

だって、小谷を渡ると杉林に入る。やがて、平池に出て、バス停は左へ登りつめた「ピラデスト今津」にある。
 ＊バスの最終便を事前調査すること
 （平成13年5月3日歩く）

- ▲コースタイム▼
 JR近江今津駅（バス38分）JR小浜線
 上中駅（電車12分）十村駅（15分）開見
 神社（20分）尾根筋（2時間20分）電波
 塔前（2時間40分）大御影山（1時間）
 林道の峠（1時間）ピラデスト今津（バ
 ス39分）JR近江今津駅
- △地形図▽2万5千▽三方・熊川
 （問い合わせ先）
 今津町観光協会
 ☎0740(22)2108
 ピラデスト今津
 ☎0740(22)6868
 JRバス
 ☎0740(22)2136
 近江タクシー ☎0740(22)0106

風格のある山容

ロクロ天井

中級コース(★★★)
山本 和夫

このユニークな名前の山は、それだけで登る人を引きつける魅力をもっている。名付け親は元岐阜県山岳連盟副理事長、故酒井昭市氏である。やぶ山といわれただけに初心者を取り付きにくいのが、今回の山行では、それ程やぶもひどくなく、



ロクロ天井三角点

何とか頂上までたどることができた。ただ地形図だけは十分に読んで行動してほしい。

中央自動車道の恵那インターで降り、南に向かう。目標は阿木川ダム。ダムに出たらダムを渡らず右岸の道を橋渡りに従って阿木集落に向かう。阿木集落に入ったら風神社の案内標示が曲がり角ごとに立っているの、見落とさないようにする。どうしてもわからないときは、地元の人に尋ねたほうが早い。

風神社は山中に建っているわりには大きな神社である。巨岩の上に御神体が祀ってある。このお宮さんにお参りした人は、伊勢湾台風の時にも被害がなかったとかで、風の神として崇められているそうだ。

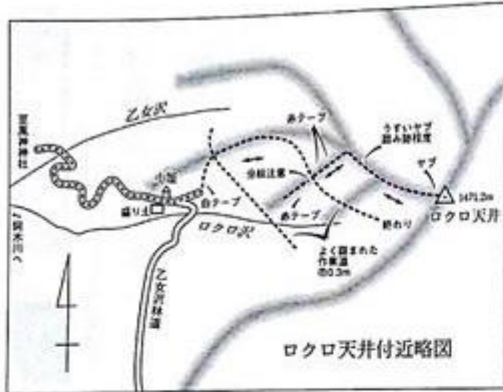
神社からは道も狭くなるが普通車でも通れる。二、三度カーブを切るとゲートがあって車はここまで。ゲートの手前に二、三台は置けるスペースがある。ここから林道歩きである。10分位で橋を渡り林道分岐に出るが、これを右折し乙女沢林道に入る。ゆるい坂道をカーブしながら進めば、営林署の作業宿舎がある。この前からさらに林道をたどる。40

1060に作業小屋(左の白い建物)前から左折して登る



分位で標高1060分になり、使われない作業小屋に着く。道を挟んで盛り土した平地がある。作業小屋の前から左へ古い林道跡に入る。あたりは樹の植林地でかなり大きくなっている。5分位で左への作業道に入る。入口には樹にテープが巻いてあるからわかるだろう。さらに10分程歩けば水平な作業道に入る。右折してすぐ左に上

がる道を登る。ちょうど十字路のような所だ。この後しばらく山腹の作業道を徐々に高度を上げてゆく。一度溜沢を渡る。4・5分位だが慎重に渡り切る。ロープがあればより安心かもしれない。またしばらく水平な作業道を行く。やがて尾根の出鼻のような所で右を見ると尾根の背が作業道となっている所がある。赤いテープも見える。この地点で左の山腹を見上



ロクロ天井付近略図

げると、高い樹の幹に巻かれた赤いテープが見える。

ここではこの急な斜面を登るのだが、今まで歩いてきた作業道がよく出来ていて緩いので、思わず直進しそうになる。しかし、ここは前述の急斜面を登ることだ。

下生えもないが、踏み跡も少なく高い樹の太木が立つ斜面を20分程ひたすら直



ロクロ天井三角点から北東を見る

登する。主尾根に出たら右に直角に曲がり、さらに高みを目指す。焼山も望めるようになる。尾根上には踏み跡があるが、作業道ほど踏み込まれていない。ササも出てくるが、たいしたことはない。尾根を外さぬように南に向かえば自然とロクロ天井(1471・2分)頂上に出る。頂上はササが密生し、展望を妨げているが東面のみが開けている。焼山・阿岳・掃木沢山などが見える。静かな山頂、風もなくササにすっぽりはまり込んでいて、動物になった感覚だ。2等三角点の標石だけがわずかに頂上であることを示していた。帰りは往路を戻ったほうがよい。

余談であるが、帰途ゲートの所で、偶然にも酒井昭市氏の娘さんにお会いした。何か因縁を感じた出会いであった。

(平成15年12月14日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 阿木林道ゲート(12分) 乙女沢林道分岐(40分) 1060に作業小屋(2時間)
- 主尾根(20分) ロクロ天井(2時間) 阿木林道ゲート
- △地形図▽2万5千1美濃焼山

一統・近江側から登る鈴鹿の山々⑧
湖東平野を見下ろす

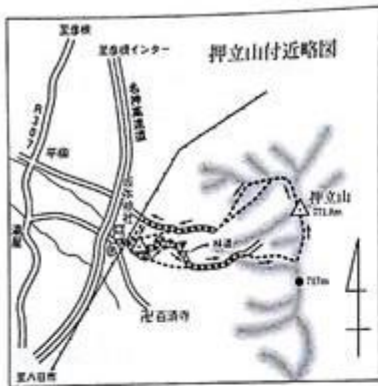
おし だて やま 押立山

中級コース(★★★)
磯部 純

96年3月に始まった「鈴鹿を歩く」シリーズも、03年の最初の例会では159回を数えるに至った。この間、本誌に掲載された「近江側から登る鈴鹿の山々」で登っていない山は、前年末で押立山・黒谷山・ソノドの三山を残すのみで、その他は全部登ったことになる。03年の最初の例会は、残った三山のうちのひとつ「押立山」だった。この山へ登るルートは本誌の34号の42ページにあるが、今回は別のルートに登った。

愛東町道の駅から307号線を北上し、湯屋で右折する。まっすぐ走って名神高速道路を沿ったすぐ先の坂本神社前へ車を置く。ここがこの山へ登る出発点である。

琵琶湖の向こう岸には、真っ白に雪をかぶった比良連山の連なりが浮かんでいた。ここから上はより勾配が急になる。道は無いので登りやすい所を登って行く。そんなに長い時間もかからずに、主尾根の鞍部に到着できる。この鞍部は標高717.17mのピークの北鞍部で、ここから尾根を北上する。尾根は左楡右榎木のやぶ尾根で、所どころのやぶの切れ目から東方の山々を見る。すぐ右手にある大きな山は日本コバ。左奥には御池岳とそれに続く藤原岳の姿が見える。歩く正面には押立山の姿が見えてきた。



る。一般に押立山へ登るには、ここより一つ北の林道を登るルートをとるが、今回は坂本神社からの林道を登った。昔はこれ以外に、百濟寺から大峠へ登り、尾根を押立山まで歩く跡があったそうだが、今では倒木ややぶで道は荒れ、相当な苦難を強いられると聞いている。

神社前から左の道を通り、車止めを乗り越えて東進する。すぐに道は山際を通るが、送電線の下を滑った前の山に、3等三角点(点名中里)が置かれているので、関心のある方は寄られるといいだろう。三角点までは南側から踏み跡が付いていて、5分もかからず登ることができよう。ここからひたすら林道を上へ上へと登って行く。傾斜はますます急になってくる。周りは榎木林だが、登るにつれ檜が多くなってきた。

歩くこと1時間。林道が北へと方向を変えて少し登った先、東からくる谷が口を開いている地点が登り口である。ちょうど、地形図の破線の先端あたりである。林道はさらにこの先へのびていたが、この谷を登り稜線へ出るのだ。

押立山の西斜面は造林公社の植林が進んでいて、ほとんど檜や杉の植林斜面に面を登ると押立山の南展望台だ。そこに立つと、湖東平野を始め、白鹿青山・綿向山をも見ることができた。そこから尾根を50mも北へ歩くと、ちょっとした広場に押立山三角点(標高717.17m)が立っていた。押立山は標高717.17m、点名は「三千峠」である。本来、この押立山という呼称はこのピークだけでなく、宇曾川左岸一帯の山を指す山名で、湖東の人たちはこの山を点名と同じ「三千峠」と呼んでいると聞く。4年前訪れた時、この山頂に坐り西方を見ると大展望が広がっていたが、今では檜がのび、展望は全く閉ざされてしまった。

下山路は一般ルートである破線路の尾根をくだると思っていたのに、下山路途中の分岐ピークからそのまま直進してくただって行く。またまた、一般路と違う人の歩かないルートをくだるのだと感じしている。次の尾根を南へくだり出す。いつしか道が消えてしまい、急斜面の檜林の尾根だった。後で聞くと、「破線の道を見逃したのに気がついたが、次の尾根をくだっても破線の道に出るのでそのままだった」のだから。

雪の上に出た押立山三角点



変わっている。この谷もその例にもれず檜林の谷で、谷に沿って斜面には杉道が付けれられている。その道を登って行くと、やがて谷の様相はなくなり、平坦な斜面になると杉道は消えてしまう。切れた林の間から後を振り返ると、山間に陽に照らされた湖東平野が広がっていた。海にも見える平野に浮かぶ島のように、嶺山が正面に横たわり、その後津田山が見える。

その急斜面を構わずくだり、傾斜のゆるくなった尾根を左へくだると谷へ出て、道が現れた。その道をくだると左尾根からきた破線の道と合う。

社の側を通り、「明神社境内」と彫られた石碑を見て、谷に沿った道をくだって行くと、やがて堰堤の上へ出る。道の分岐で、そこには「押立山登山口」の小さな標示が下がっていた。谷を右岸へ渡ると林道終点。

林道をくだり、送電線鉄塔下まで来たら、そのまま林道をくだってもよいが、この例会では林道を離れ、送電線巡視路に入った。アップダウンの少ない斜面に立派な巡視路が続いている。林道を歩くより、こちらのほうがはるかに快適といってよい。巡視路をたどって行くと、測ったように坂本神社へ帰着できた。

(平成15年1月5日歩く)

▲コースタイム▼

坂本神社(1時間) 谷入口(1時間) 主尾根(30分) 押立山(50分) 明神社境内碑(10分) 林道(10分) 送電線巡視路(25分) 坂本神社

△地形図V2万5千||百濟寺

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽駅長お薦めフリーハイキング
「自然と歴史を探る香谷梅林と山背古道」 3月7日(雨)雨天決行(集合) 新田辺駅前9時〜12時(コース) 新田辺駅―山城大橋―香谷梅林―谷川ホテル公園―高神社―山背古道―福社センター・休養所―井堤寺跡―玉川―寿宝寺―三木木駅(約12分) *係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、新田辺駅0774(62)0058)

▽近鉄万歩ハイキング「上務原から広穂橋の里」 3月13日(雨)雨天中止(集合) 下市口駅前9時40分〜10時10分(コース) 下市口駅(バス)上飯原―波比売神社―上飯原―榎の木峠―梨子草―八幡神社―広穂橋―広穂梅林―下市原・明水館(秋野川)―千石橋―下市口駅(約14分) 参加自由・無料(バス代・入湯料等は別途、近鉄大阪ハイキング係06(6775)3566)

▽陸奥ふれあいハイキング「秋篠の里を訪ねて歴史の道を行く」 3月21日(雨)雨天中止(集合) 西大寺駅前改札口9時30分〜10時(コース) 西大寺駅―西大寺―菅原神社

京阪

「歴史の道」秋篠寺(川沿いの道)―大淵池公園―松柏美術館―高瀬池神社―大和文庫館―学園前駅(約12分) 参加自由・無料(入館料・拝観料等は別途、近鉄大阪ハイキング係06(6775)3566)

▽駅長お薦めフリーハイキング「役行者 修験の道を探る」 3月23日(雨)雨天決行(集合) 生駒線平群駅前10時〜12時(コース) 平群駅―つばり山古墳―榎本神社―生駒山口神社―首なし地蔵―清滝石仏群―千光寺―地蔵蔵尊―金勝寺―かんばの宿―元山上口駅(約9分) *係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄王寺駅0745(72)2330)

▽近鉄万歩ハイキング「柳生街道(滝坂の道) 春草山へ」 3月28日(雨)雨天中止(集合) 近鉄奈良駅東改札口9時30分(コース) 奈良駅―興福寺―春日大社―柳生街道(滝坂の道)―鶯の流―若草山―東大寺・大仏殿―近鉄奈良駅(約12分) 参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄大阪ハイキング係06(6775)3566)

叡山電車

▽早春ハイキング「静原・箕裏ヶ岳」 3月3日(雨)・6日(雨)雨天中止(集合) 鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅―箕裏ヶ岳―静原―村松分岐―箕裏ヶ岳―繁見坂―尾根道―木野駅(約12分) 参加自由・無料(叡山電鉄営業課075(702)8111)

▽早春ハイキング「丹生山系縦走部分ハイク(前半)」 3月2日(雨)雨天中止(集合) 藍那駅(藍那小学校前)9時30分(コース) 藍那駅―藍那小学校前―藍那古道―丹生

神戶電鉄

▽火曜ハイキング「丹生山系縦走部分ハイク(後半)」 3月2日(雨)雨天中止(集合) 藍那駅(藍那小学校前)9時30分(コース) 藍那駅―藍那小学校前―藍那古道―丹生

山―帝釈山―種見ヶ草山―肘曲り―箕谷駅(約18分、健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽駅長ハイキング「再度公園ハイク」 3月7日(雨)雨天中止(集合) 鈴蘭台駅10時30分(コース) 鈴蘭台駅―牛の背―再度公園―山田道―谷上駅(約10分、一般向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽木曜ハイキング「羽東山ハイク」 3月11日(雨)雨天中止(集合) 三田駅10時(コース) 三田駅―志保原―香下―羽東山―桑原―三田駅(約13分、一般向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽神鉄ハイキング「鴨池と小野アルプス縦走ハイク」 3月14日(雨)雨天中止(集合) 粟生駅9時50分(コース) 粟生駅―鴨池―宮山―岩山―紅山―小野宮―蘇山―助峰―安曇山―大住橋―小野駅(約15分、健脚向) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

▽火曜ハイキング「丹生山系縦走部分ハイク(後半)」 3月16日(雨)雨天中止(集合) 箕谷駅9時30分

「コース」箕谷駅―肘曲り―花折山―黒甲越―屏風谷―出合―岡場駅(約17分、健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽駅長ハイキング「地獄谷・炭ヶ谷ハイク」 3月21日(雨)雨天中止(集合) 大池駅(地獄谷入口)10時(コース) 地獄谷入口―地獄谷―穂高峠―炭ヶ谷―谷上駅(約12分、健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽木曜ハイキング「紅葉谷・魚屋道ハイク」 3月25日(雨)雨天中止(集合) 有馬温泉駅(ロープウェイ有馬駅前)10時(コース) ロープウェイ有馬駅―約11分(一般向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽神鉄ハイキング「平田配水場と百文若ハイク」 3月28日(雨)雨天中止(集合) 田尾寺駅10時10分(コース) 田尾寺駅―平田配水場―百文若―生野橋―道尾駅(約8分、一般向) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521)0321

山陽電車

▽木曜ハイキング「百文若と千劫水源池ハイク」 4月8日(雨)雨天中止(集合) 田尾寺駅10時(コース) 田尾寺駅―平田配水場―百文若―千劫水源池―神鉄道場駅(約10分、一般向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592)4611

▽山陽電車「綾部山観梅を楽しむハイク」 3月7日(雨)雨天中止(集合) 3月14日(雨)雨天中止(集合) 山陽網干駅―揖保川河川敷左岸10時(コース) 揖保川河川敷左岸―龍門寺―高嶋神社―新舞子―綾部山梅林―藤井の清水―大覚寺―山陽網干駅(約12分) 参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520)

▽山陽ハイキング「日岡山公園と新井線道ハイク」 3月28日(雨)雨天中止(集合) 高砂駅―加古川河川敷右岸10時(コース) 加古川河川敷―河川敷サイクリングロード―菅橋―日岡山公園―新井線道―浜の宮神社―浜の宮駅(約15分、一般向) 参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520)

山陽ハイキング

2520
▽山陽ハイキング「日笠山縦走ハイク」 4月11日(雨)雨天中止(集合) 山陽宮原駅・曾根天満宮駅前公園10時(コース) 曾根天満宮―松村川右岸―天川東公園―牛谷展望台―馬坂峠―日笠山―大塩駅(約8分、一般向) 参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520)

▽山陽ハイキング「ジェームス山・旗振山おらが山ハイク」 4月25日(雨)雨天中止(集合) 滝の茶屋駅城が山公園10時(コース) 城が山公園井植記念館―ジェームス山―ふんすいランド―旗振山―おらが山―須磨寺駅(約8分、一般向) 参加自由・無料、須磨浦遊園(ハイキング係078(731)2520)

せせらび

題字・小林玻璃三

京都府和知町のJR安柄里駅に下車し、三峰山を目指す。三峰山は稜線に三つの峰がある説と、この山が古くは御嶽山と呼ばれミタケがミトケに転音した説とがある。

駅の西を南に行けば沢筋に登山道がある。鹿除けネットを開閉して尾根にのれば、2955mからの道と合流し、里山の自然を満喫する。林道に出て前方に尖った三峰山を見て、右手後方に長老ヶ岳を見ればガスのなかだ。

林道に戻り、中高年たちは車座になり、「野遊びの宴」で盛り上がる。下山は林道のヘアピンカーブを北に尾根を下れば駅となる。(向日市 湯浅康夫)

時刻表を調べる。集合時間に1分遅れか。まあいいやろ。11月9日、三重の竜仙山へ。電車の扉が開く、目の前が改札口(近鉄)だった。「着いた、ルンルン」で何の疑いもなく改札口を出る。ウツッオー、何これ!! だれも居てへんやん。もう一歩出て見渡したが、やっぱりいない。駅員さんに「ここに山行きの格好した人集まってませんでした

か」「いや見ませんでしたよ」山行の案内葉書を取り出して時間・駅名の再確認をする。間違いない、こや。何で? 急に胸騒ぎがしてきた。特急に乗って2時間、ルンルン気分が返ってきたのに……。今さら引き返されへん。

駅前のタクシートの運転手さんに葉書を見せて「このバス停まで行ってください」と乗り込んだ。いても立ってもいられなかった。どんどん昔ながらのいてゆくよう。とにかく、先に行つてバス停で待っていていよう。それでも、もし……。

もし会われへんかったら「1人でも登つたわ」と、もうやけくそ。車が走り出して「もう一度、葉書を見せてください」と手を後ろに差し出して運転手さん「お客さま、駅、向こう側にもありますよ」えっ、身を乗り出して運転手さんの肩をつかまればかりに「そっそっちへ行つてください」と、絶叫。

くるると廻つたら、駅前(JR)に見覚えのあるライダーと友だち2人が前後して走っている。慌てている様子は遠目

にも一目瞭然だ。「運転手さん、あの2人を追つて」もうお尻はシートに着いてない。

駅の裏から表までタクシニーに乗って山行に参加したのが初めてやないですか? 皆さんは集合場所の確認はいつも万全ですか?

みかん山嬉しきひと日友とゐて (生駒市 井上久子)

11月中旬、伊勢三山の一つ、局ヶ岳(1029m)へ登った。松阪駅からのバスを飯高町の「堀出」で降り、そこから往復したのだが、「伊勢の槍ヶ岳」といわれるだけあって厳しい登山だった。

車道をかき歩いて登山口から山道に入り、ジグザグながら急登の連続。特に、小峠を過ぎたからは木の根や岩石をつかむよじ登りが多くて難渋した。しかし、到着した頂上からの展望はすばらしかった。西方附近に栗ノ木岳、その背後に三峰山や高見山を見渡し、北西には俱留尊山や大洞山・ニヶ岳(いずれも登山済)を眺め、南西には、

重畳たる大台ヶ原の山並が遠望できた。

東方は、電波反射板の展望所になり立ち、やはり伊勢三山の一つである白猪山を、その後方に松阪市や伊勢湾も眺め渡すこともできた。

何しろ、この日は雲一つない降水確立0%の晴天で、しかも無風状態。だれ1人いない。独占状態。心ゆくまで楽しめた。8時40分に歩き始め、バス停への帰着は16時30分で、所要時間は7時間50分。標準コースタイムは4時間10分だが、私のような高齢者からすれば、日帰り登山の限界と悟られるものであった。(枚方市 東谷 宏)

山行短歌

10月24日 北摂美女谷
美女谷を彩る田舎菊と野紺菊
聖女のように妖女のように
10月28日 但馬蘇武岳
夢を追いかけ冒険家が来た道に
奥山のすての木々が燃え
11月7日 六甲達ヶ山
車捨てて谷と尾根はつき歩き
夢のつづきに出逢える山へ
11月13日 北摂ポンポン山

歩きははじめは雨で山は日だまり
君はイヌブナの黄葉に染まる
11月17日 芦生山良川源流
軽便鉄路朽ち果て森は暮れ残る
失いかけていた自由はここに
11月21日 飯高局ヶ岳
伊勢槍の鋭さ十二単の淑やかさ
眩しくも恋しかり峰よ
11月26日 朽木三園峠
葉を落しよおブジェのように立つ
ブナよめぐる再生の時を待て
12月4日 室生大洞山・ニヶ岳
倉骨峠から両翼の峰めざし
飛び立てる鳥となれ風となれ
12月9日 六甲水無山
白花霊仙ツツジ咲く日は遠く
眠れる木々に息絶えし尾根よ
12月15日 丹波大江山・編家
雲海眺め生きよう生きてあれば
ブラームス明日も聴くことも
(吹田市 木村太郎)

昨年最終の例倉山行は、当初の池田山から変更し、美濃市の500m級の里山「天王山」を歩きました。

積高の割にコースは変化に富み、頂上からの展望も抜群なので地元での人気は高い。いくつものルートが設定され、愛好家

○新ハイ関西サービスチェーン

<p>名峰・二岐温泉 子・郡道1名の登山道でも最寄り駅まで送迎(要予約) 露天風呂と内風呂</p> <p>福島・二岐温泉 日親連 大和館</p> <p>〒9622106621 福島県郡山市東区一岐温泉 024481841127021 F 024481841127021</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海道自歩道 (石巻山・ハリモミ峠林) 三田山の麓</p> <p>ペンション コットンテール</p> <p>〒40110502 山梨県南都留郡山中湖村平野 055516518515</p>	<p>大倉山登山道から砂防堤分岐点 標高1500m山頂。車タクシ140分 バス20分登山。車後徒歩時間</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒40410022 山梨県南都留郡山中湖村平野 05533146639 (山小屋) 03014179215</p>	<p>尾瀬 平ヶ岳標高約700mの山小屋 標高300m(奥山内)</p> <p>清四郎小屋</p> <p>ほんもの手作りそばと売店は 樹海</p> <p>〒94610000 新潟県北魚沼郡湯沢町湯沢 090125558 期間外(11月14日)は 025791215026</p>
---	---	--	--

<p>ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ</p> <p>百名山を二つ登れる山小屋</p> <p>黒沢池ヒュッテ</p> <p>〒94912100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉 025518612261</p>	<p>休憩飲食入浴も歓迎 10名以上マイクロボスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉</p> <p>福 島 館</p> <p>〒25010631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 04601419041</p>	<p>尾瀬登山ハイキング入山口 天然温泉で山の疲れを 水芭蕉の湯</p> <p>ウイラム花 (KAZAHANA)</p> <p>〒37810411 群馬県利根郡片品村戸倉445 027815817051</p>	<p>四季織りなす温泉高原のハイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日親連</p> <p>温泉旅館 けやき山荘</p> <p>〒39011500 長野県南安曇郡行田村松原 026319312505</p>
---	---	--	--

の手によっていいいな標識も
設けられています。

この日は、下山後に忘年会を
計画していたこともあり、短時
間で歩けるほどよいコースのつ
もりでした。

ところが、美濃地方は前日か
らの大雪で、バスから降り立っ
た御手洗の地はすでに膝までの
雪。登山口までもラッセルで進
むこととなりました。けれど、
降雪直後の新雪はまさしくパウ
ダリーのように軽やかでした。

北斜面の登りから、下りは南
斜面を降りましたが、大雪は林
のなかの斜面の起伏などを覆い
隠してしまい、ルートファイン
ディングに気を遣うこととなり
ました。もし、南斜面を往復し
たらしい先行者の足跡がなけれ
ば、右往左往することは避けら
れなかったことだろうと思いま
す。

誤って道を見失うことなど、
ふだんでは考えられない山です
が、状況によって山の表情は一
変してしまおうということをも、改
めて教えられた山行でした。

(各務原市 鷺見守康)

あまり歓迎したくない新しい
年、中を迎えてしまった。いや
おうなしに聞きたくない歳を聞
き、体の動きが悪くなり、口数
も多く嫌われる。くわばら。く
わばら。周囲の人たちから消え
去られないよう。おたがいにお
しやうではないか。

今年も雑多な年になりそう
な気がしている。昨年か
けた仕事があり、今年から始
まる「播磨の町名を歩く」「播磨
国風土記を歩く」なども持っ
ているので、パニクにならない
ようにとスケジュール組みに悩
んでいる。

最近とみに、賀状失礼の葉書
が年末に投函されることが多
くなった。また、身近な人が休
を崩し、山行に参加できないの
を聞く、心境はいかばかりか
と心を痛める。

今年も仲間とともども、元気で
野外へ出かける日々が続くこと
を願ってやまない。

(姫路市 須藤岡 耕)

山行短歌(冬)巻
二上の生み落としたりる鶴の群
幾千万の冬を迎える

新ハイに参加するようになっ
てから1年がたちました。初め
の頃はだれとも口を交わすこと
なく、感動を声にも出さずとい
た私。ぐったりと疲れ、翌日の
ふくらはぎにはいつもテッカ
いシブが二枚ずつ。

それでも懲りずに参加してい
るうちに顔見知りもチラホラ、
今では頂上でパンザイを呼び、
三角点ではだれとなく握手し、
感動を共有できるようになりま
した。はやりの中高年の山歩き
にハマリ、低山専門ではあるけ
れど自然のなかにちっぽけな自
分に気づき、元気で歩けたこと
がやけに嬉しいこの頃です。

年末の12月28日、京都北山の
ロングコースに調子によって申
し込んでしまい、不安な気持ち
で参加するはめになりましたが
何とか完歩でき、一年間の集大
成かと思うと感激、感激。

今年もたくさん参加させてい
ただき、いろんな方の元気をも
らって、山歩きを楽しみたいと
思います。願わくば平日の自由
人のために平日ハイイクが増えま
すことを切に希望して。

(島本町 西悦子)

白壁にラテンナンバー割して
サクスの人杜陰に在り
(屯鶴峰にて)

岩を裂き根を埋めたる杜松
天に間いかけ天山に立つ
(天山にて)

大掃除庭の枯葉を寄せ集む
陽だまり森に思い馳せつつ
初登り傘を合わせた十三仏
家族の無事と平和祈りて
雪残す極楽山の石仏

湖国比良白きを見れば稜線を
行く岳友の幸を願はむ
岩山の頂きに立ち眺むれば
浮き島のごとたゆたう山々
(小島山にて)

海越えて吹く風懐し鈴鹿見ゆ
我が恋ゆる花何処峰に咲くや
どこまでも続く木立抜けて
杉植えし人の里は眼下に光る
(伊那佐山にて)

年の暮れ、関ヶ原の松尾山を
訪れた。南の平井から登ろうと
駐車場を探したが、青蓮寺の
駐車場しかなかったので、寺の
方に断り停めさせてもらった。
その時、境内にある天然記念物
の四季丁字桜と八房梅を紹介し

昨年12月27日は三河の本宮山。
今年1月1日は伊賀の雲山。3
日は新ハイキングの有志と、瀬
戸市と豊田市の境にある猿投山
を瀬戸市側から登って、豊田市
側にある猿投神社に参拝したが、
この三つの山はいずれも1等三
角点。

申の年にちなむ山で1等三角
点はこの猿投山と、広島・島根
の県境にある猿投山と、京都府
伊根町の猿ヶ尾は、本誌74
号の生駒さんの記載にはないが、
401と低い。鈴鹿にも猿の
名の付く山を見つけた。場所は
比婆之山の南637のピーク
に猿ヶ山と付いていた。

岐阜の「猿ヶ馬場山」は三百
名山になっていて、道はない。
私の行きなたい「笈ヶ岳」も二百
名山でも道はなく、日帰り11
12時間もかかる最強のやぶ山
だろう。

3月下旬はフクジソウで藤
原岳が賑わうが、聖言寺跡段下・
鳴谷神社の行犬は犬ではなく猿
です。で、行かれる予定のある
方はぜひ見てください。

(南濃町 山田明男)

ていただいた。桜は、真冬にも
開らず、可愛らしい花をほつり
ほつりと咲かせた。

寺から30分で山頂に着いた。
伊吹山は雲に隠れて中腹まで
しか見えない。合戦園が設置さ
れていて昔が偲ばれる。往時は、
今より麓が見渡せただろう。帰
路、平井の家並が見える林道に
は冬落がたくさん実り、痰切豆
の赤い莢が黒い実をぶら下げ
ていた。

年初め、宮川村栗谷の西谷林
道終点から三条(丈)山に登っ
た。田引峠までは葉な登りだっ
たが、稜線上は踏み跡程度の急
登もあり、少し手間どった。ヒ
メシヤラやアベマキの木肌が
楽しめた。枝越しに栗の木岳と三
峰山が望める所があった。1時
間登って山頂に着く。

山頂は、南に展望が開けてい
た。岩のテラスに坐って昼食を
とる。だれにも会わない静かな
山だった。峠の地蔵を見て、昔
の人の歩みに思いを馳せていた。

(松阪市 数木伸人)

さわやか信州
霧天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒388-0400 長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
0269-33-3578

標高2000m以上の温泉
湯の丸高嶺自然休養林
ハイキングにXCスキー
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高嶺高原
0267-25-2000

ハイキングにノースキーに
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平床下車
0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3
2015(新光第2ビル)
03-3341-0211

塩の道 千両街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランチエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0261-72-4452

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新築増築完成全館個室
木の香り新浴場誕生水風呂
オーレン小 屋
1泊2食付き 6000円
4月末・11月末開設
〒391-0213 小 平 勇 夫
茅野市豊平2720 小 平 勇 夫
0266-67-2258

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー
J.R.茅野駅・北八ヶ岳登山口ま
で送迎します
茅野高原
プチホテル カナール
〒391-0301
茅野市北山麓高瀬町丸平55
0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クワン・コースご案内
〒388-1410
長野県戸隠村水ヶ原
0266-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大
峰山(合掌山)の登山口」
信州・信濃・信州にもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋 甚八
1泊2食付 7,000円から
〒638-1043
奈良県吉野郡天川村河川
0747614-0309

山行計画
(3・4月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によらず必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。費用のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

入院保険金	日額	1000万円
通院保険金	日額	5000円
	日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤積雪の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

自然観察山行140

スノーハイイク
中宿・入笠山(一般向き)
期日 3月5日(夜)〜6日(日)
集合 (5日) JR岐阜駅23時
コース (5日) 岐阜駅(バス)
(6日) (バス) 富士見
パノラマスキー場(リフト) 山頂駅―マナスル山荘―山頂駅(リフト) スキー場(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約12000円(岐阜駅からバス代等)
地図 2万5千11茅野・信濃富士見
係 ◎警見守康
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨野1-19-5 警見守康まで
*定員27名

二百名山の入笠山を積雪期に登り、山頂の360度の展望とアニマルトラッキングを楽しみます。スノーシューまたはカンジキ持参。雨(雪)天決行

近畿百名山に登る(第65回)
北摂丹波・白髪岳(一般向き)
期日 3月7日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅北口7時40分
コース 新大阪駅(バス) 住山登山口―白髪岳登山口―白髪岳―松尾山―住山登山口(バス) 大阪駅(解散17時頃)

姫路郊外の展望のよい山と、高砂市の小さな山でホビュラーなハイキングコースの日笠山を歩きます。雨天中止

京都駅(バス) 登山口―横高山―水井山―仰木峠―大尾山―大原(解散17時頃)
費用 約11000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

天筒山(敦賀市)(初級向き)
期日 3月13日(日) 日帰り
集合 JR敦賀駅9時40分
コース 敦賀駅―舞鶴山―天筒山―金ヶ崎城跡―山の神―敦賀駅
費用 約5000円(大原から)
地図 2万5千11敦賀
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

雨天決行

御在所登山に愛知川渓谷歩きに山好き仲間が集う宿
朝明茶屋
山小屋 朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡野千草
電 0593-931-1789

那岐山麓の竜崎くじら山の大山
二百名山の水ノ山・ト音山などあり。
三百名山 那岐山のふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡奈義町高円
電 0868-3614154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電 09974-63021

山行例会の実施について
山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。

三重の山々

海山・横山(中級向き)
期日 3月6日(日) 日帰り
集合 「道の駅海山」9時00分
コース 道の駅海山(車) 便の山(車) 水津(車) 水無峠―横山―水無峠(車) 水津(車) 道の駅海山(解散)
費用 1500円
地図 2万5千11引木浦
係 ◎尾崎英五 ○稲垣逸夫
申込み 〒519-10311 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫まで

鈴鹿を歩く186
残雪の雨乞岳(健脚向き)
期日 3月7日(日) 日帰り
集合 大河原「かもしか荘」広場8時30分
コース かもしか荘(車) 清水平谷広場―清水の頭―南雨乞岳―雨乞岳―南尾根―シャクナゲ尾根―林道広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・

伊吹
◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の残雪の雨乞岳山行です(62号78ページ参照)。
小雨(雪)決行

福州・苦楢山と日笠山(一般向き)
期日 3月7日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分/②JR姫路駅中央口10時20分
コース 姫路駅(バス) 泉商前―苦楢山―本徳寺―夢前川駅(電車) 曾根駅―出合峠―日笠山―曾根天満宮―山陽曾根駅(電車) JR大阪駅(解散17時頃)

費用 約3000円(奈良18きっぷ使用・名古屋から)
地図 2万5千11姫路南都・加古川
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

運来ハイイク
奥比叡・横高山から大尾山
期日 3月13日(日) 日帰り
集合 JR京都駅中央口8時20

静岡・高天神山から櫻殿地山 (中級向き)

期日 3月14日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅中央改札口

コース 7時10分

名古屋駅(電車)掛川駅(バス)土方→追手門→本丸址→高天神社→林の谷地分岐→櫻殿地山→林の谷池→土方(バス)掛川駅(電車)名古屋駅(解散16時45分)

費用 約3240円(食費18き、お使用・名古屋から)

地図 2万5千→下平川

係 小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

戦国期 武田・徳川の激戦の舞台となった高天神。櫻殿地山は、等三角点の山。落城した時に甲斐の武田に知らせに走った「甚五郎抜道」といわれる「犬戻り猿戻り」の險のやせ尾根の道があります。

雨天中止

比良を歩く29

武奈ヶ岳(中級向き)

期日 3月14日(日) 日帰り

集合 JR比良駅8時45分

コース 比良駅(バス)比良リフト前(フット・ロープウェイ)山ノ上駅→北比良峠→八雲ヶ原→イブキノコ

パル武奈ヶ岳→東尾根→広谷→イブキノコ→北比良峠→ゲケ道→イン谷口(バス)比良駅(解散16時40分頃)

費用 約3000円(京都から) 2万5千→比良山・北小松

係 康夫

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

雪のある時にしかくれない武奈ヶ岳の東尾根を降ります。*輪カン・怪アイゼン・ヘッドランプ必携。小雪決行

ファミリーハイク35

期日 3月18日(木) 日帰り

集合 JR新大阪駅「階止面口構内」7時00分

コース 新大阪駅(バス)室橋→日名倉神社→奥海越→日名倉山→(往路)→エー

集合 JR比良駅8時45分

コース 比良駅(バス)比良リフト前(フット・ロープウェイ)山ノ上駅→北比良峠→八雲ヶ原→イブキノコ

パル武奈ヶ岳→東尾根→広谷→イブキノコ→北比良峠→ゲケ道→イン谷口(バス)比良駅(解散16時40分頃)

費用 約3000円(京都から) 2万5千→比良山・北小松

係 康夫

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

雪のある時にしかくれない武奈ヶ岳の東尾根を降ります。*輪カン・怪アイゼン・ヘッドランプ必携。小雪決行

ファミリーハイク35

期日 3月18日(木) 日帰り

集合 JR新大阪駅「階止面口構内」7時00分

コース 新大阪駅(バス)室橋→日名倉神社→奥海越→日名倉山→(往路)→エー

費用 約26000円(岐阜駅からバス・宿泊代等)

地図 2万5千→吉見・豊川

係 警見守康

申込み 〒504-0828 各務原市蘇原雨町1の19の5 警見守康まで

*定員25名

*2月21日まで

三百名山の鉢盛山。積雪期しか歩けない小鉢盛山からスノーシューで歩きます。翌日は自然観察の森を周遊。雨(雪)決行

丹但・高竜寺ヶ岳(一般向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 JR加古川駅8時00分

コース 加古川駅(バス)高竜寺→高竜寺ヶ岳→高竜寺(バス)加古川駅(解散18時頃)

費用 約4000円(バス代)

地図 2万5千→須田

係 古賀慶一

申込み 〒675-0112 加古川市平岡町山上の684の33・17A403

古賀慶一まで

*定員22名

自然林が美しい山です。また多

紀泉・城ヶ峰から三峰山 (一般向き)

期日 3月21日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分 ②JR天王寺駅16番ホーム9時53分

発に乘車

コース 熊取駅(バス)大鳴山→生草林道→城ヶ峰→三峰山→城ヶ峰→ササ峠→稲倉池→水呑地蔵(バス)日根野駅(電車)天王寺駅(解散17時頃)

費用 約3050円(食費18き、お使用・名古屋から)

地図 2万5千→内畑・樽井・粉河・岩出

係 小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

静かな山が楽しめます。途中のササ峠付近は鐵尾根になっていて少しスリルがあります。雨天中止

平日ふれあいハイク43

期日 3月25日(日) 日帰り

集合 京都地下鉄国際会館駅8

くの残雪があるでしょう。雨天中止

地図 関分山行61

額井岳(一般向き)

期日 3月20日(日) 日帰り

集合 近鉄線額井駅10時00分

コース 横原駅→香醇峠→支尾根の時→吐山分岐→西尾根→西尾根峠→額井市→成城山→戒長寺→山部赤人墓

費用 約1750円(大阪から)

地図 2万5千→初瀬

係 塚元一彦

申込み 〒536-0008 大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで

*定員30名

新ハイキング関西支部合同。大和富士と呼ばれる雄大な姿の山を歩いて、コンパスの使い方も地形図の読み方を勉強します。初心者歓迎。*シルバー車型コンパス必携。雨天中止

鈴鹿を歩く187

期日 3月21日(日) 日帰り

残雪の御池岳・奥の平 (難関向き)

集合 御池林道小文谷分岐広場

コース 広場→小文谷林道→ノタノ坂→土倉峠→奥の平→ボタンブチ→南峰→T字

尾根→御池林道→広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 岩野 明

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

毎年恒例の残雪の御池岳山行です(24号49ページ参照)。小雨(雪)決行

美濃・3月の舟伏山(中級向き)

期日 3月21日(日) 日帰り

集合 JR西岐阜駅北口8時15分

コース 西岐阜駅(車)あいの森駐車場→桜峠→みのわ平→舟伏山→小舟伏→あいの森駐車場(車)西岐阜駅(解散17時頃)

費用 車代10000円

地図 奥村さんの絵地図を用意

係 山田明男

申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19

山田明男まで

*定員20名

*マイカーの方はその旨記載ください

花はマンサク・タンコウバイが見られるか? 小雨決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)

期日 3月21日(日) 日帰り

集合 京都駅八条口団体バスのりば7時40分

コース 京都駅(バス)朝明ヒュッテ→ハト峠→徳岳→釈迦ヶ岳→摩訶谷→朝明ヒュッテ(バス)京都駅(解散18時頃)

費用 約3500円(バス代)

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 中西信行

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

三重県側から展望のよい釈迦ヶ岳に登ります。雨天中止

係 山田明男

申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19

山田明男まで

*定員20名

*マイカーの方はその旨記載ください

花はマンサク・タンコウバイが見られるか? 小雨決行

鈴鹿・釈迦ヶ岳(一般向き)

期日 3月21日(日) 日帰り

集合 京都駅八条口団体バスのりば7時40分

コース 京都駅(バス)朝明ヒュッテ→ハト峠→徳岳→釈迦ヶ岳→摩訶谷→朝明ヒュッテ(バス)京都駅(解散18時頃)

費用 約3500円(バス代)

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 中西信行

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

三重県側から展望のよい釈迦ヶ岳に登ります。雨天中止

コース 国際会館駅(バス) 古知谷1600m 櫻杉山 寂光院道 天ヶ岳 三叉岳 墨土坂 鞍馬駅(電車) 出町柳駅(解散16時30分)

費用 約13000円(京都から) 地図 昭文社「京都北山」 係 ◎寺井恒夫 ○川上久壁 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで 古知谷から焼杉山に登ります。天ヶ岳からは林のなかの尾根道を鞍馬へくだります。雨天中止

三重・南赤山(一般向き) 期日 3月27日(日) 日帰り 集合 ①JR名古屋駅13番ホーム6時38分 ②JR紀勢本線多気駅9時00分(松阪駅8時42分発)

コース 多気駅(電車) 大内山駅(タクシー) 森林公園駐車場 南赤山 林道 駐車場(タクシー) 大内山駅(電車) JR 近鉄松阪駅(解散14時52分または17時34分)

費用 約4300円(奈良行き) ぶ使用・名古屋から) 地図 2万5千100号 係 ◎小出良春 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

南赤山は一等三角点の山ですが、電車の便が悪くてなかなか行けない山です。雨天中止

播磨・日光寺山(一般向き) 期日 3月28日(日) 日帰り 集合 JR姫路駅播磨線のりば9時05分(17分発乗車)

コース 姫路駅(電車) 福崎駅 柳田園男生家 鈴ヶ森 神積寺 日光寺山 深山 福崎駅(解散) 費用 交通費各自 地図 2万5千1北条 係 ◎須藤 樹 申込み 〒6711262 姫路市余部区上余部50の2の11 須藤 樹まで 柳田園男生家を育てた後背の里山を歩きます。三角点マニアには堪えられないコースでもある。小雨決行

鈴鹿百山53 鈴ヶ岳・茶野(健脚向き) 期日 3月28日(日) 日帰り 集合 ①JR米原駅8時00分 ②三岐西野尻駅8時00分

コース 各集合駅(車) 鞍掛橋 七郎コバヤ 鈴ヶ岳 茶野 大君ヶ畑(車) 彦根駅 費用 車代1000円 地図 2万5千1 藤立・竜ヶ岳 申込み ◎山田明男 ○高原芳彦 〒50310535 海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで

*定員20名 *マイカーの方はその旨記載ください 雪が少なければ、七郎コバヤから口の平のフクジノソウを見に行きます。小雨決行

北山ちよつと歩き55 京都西山・天王山から水無瀬(一般向き) 期日 3月31日(日) 日帰り 集合 JR山崎駅9時15分 コース 山崎駅 天王山 櫻谷観音 栗原寺 天王山 三角点 水無瀬 山崎駅(解散) 工場見学 山崎駅(解散)

費用 約15000円(大阪から) 地図 昭文社「北摂霊仙山」 係 ◎奥山聖三 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

天王山の歴史を訪ねてゆっくり歩きます。紹介されていないコースも歩きます。雨天中止

ファミリアハイク36 六甲・有馬連山(中級向き) 期日 4月1日(日) 日帰り 集合 神鉄有馬温泉駅9時30分 コース 有馬温泉駅 善徳寺登山口 善徳山 茨木山 茨木山 湖槽谷山 高尾山 達ヶ山 水無山 鬼ヶ島 水無川登山口 有馬口駅(解散16時30分)

費用 約15000円(宮崎より) 地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」 係 ◎木村太郎 ○中村友昭 申込み 〒56510854 吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで 裏六甲縦走路の有馬三山と連なる別山四峰を結ぶ。雨天中止

自然観察山行142 スノーハイク 飛騨・大日ヶ岳(中級向き) 期日 4月2日(金)夜3日(土) 前後発日帰り

集合 (2日) JR岐阜駅23時00分 (3日) 岐阜駅(バス) の高原 大日ヶ岳 水後山 松峰(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約8000円(岐阜駅からバス・資料代等) 地図 2万5千1石叡日・大鷲・二ノ峰・新瀬 係 ◎鷺見守康 申込み 〒50410828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

*定員27名 一等三角点のある二百名山 大日ヶ岳の残雪期を歩きます。スノーシューまたはカンジキ持参。雨天決行(コース変更あり) 春のロングコースを歩く 笠置駅から柳生・奈良公園へ(中級向き) 期日 4月3日(日) 日帰り 費用 交通費各自

集合 JR笠置駅9時20分 コース 笠置駅 笠置山 剣塚 柳生秀徳寺 阪原峠 雨明寺 夜支布山口神社 円成寺 峠の茶屋 石切峠 地獄谷石窟 石新池 一首切地蔵 滝原道 奈良公園 近鉄奈良駅(解散18時00分)

費用 約2000円(大阪から) 地図 5万1奈良 係 ◎村田智俊 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

桜を見ながらのんびりと里山をめぐって奈良まで歩く。雨天中止(中止の場合4日(日)に順延)

鈴鹿を歩く188 花の霊仙山西南尾根(健脚向き) 期日 4月4日(日) 日帰り 集合 河内県甲津津倉谷口広場 8時00分 コース 広場(車) 今畑 世峠 近江原 雲台 雨笠峠 雲仙山 最高峰 若ノ峰 行者谷 柳谷 一あけん原(解散) 費用 交通費各自

地図 昭文社「霊仙山・霊仙・伊吹」 係 ◎岩野 明 ○山田景三 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*マイカー山行 毎年恒例の花の霊仙山西南尾根を歩き、権現谷の早春の花を愛でる山行です(63号76ページ参照)。雨天中止

兵庫丹波・向山連山(一般向き) 期日 4月4日(日) 日帰り 集合 ①JR名古屋駅6番ホーム6時15分 ②JR大阪駅1番ホーム9時20分

コース 石生駅 松尾神社 桂石山 桂子峯 五ノ山 向山 一ノ山 二ノ山 三ノ山 一ノ山 観音堂 石生駅(電車) 大阪駅(解散18時06分) 費用 約3000円(奈良行き) ぶ使用・名古屋から) 地図 2万5千1 柏原 係 ◎小出良春 申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

向山は駅から歩ける山として、また石生は日本一低い分水嶺で知られています。雨天中止

東播磨北部・篠ヶ峰(一般向き) 期日 4月4日(日) 日帰り 集合 JR加古川駅8時25分 コース 加古川駅(バス) 清水 大井戸山 篠ヶ峰 西南尾根 丹治(バス) 加古川駅(解散18時頃)

費用 約4000円(バス代等) 地図 2万5千1 大名草・丹波 和田 係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇 申込み 〒67510112 加古川市平岡町山の上68の33・17A403 古賀慶一まで

*定員22名 たくさんのお花に会えることでしょう(61号68ページ参照)。雨天中止 飛鳥・御製山(一般向き) 期日 4月8日(日) 日帰り 集合 近鉄飛鳥駅9時45分 コース 飛鳥駅 鳥石 甘徳丘 石舞台古墳 京都徳成神社 西ノ口分岐 御製山

山一談山神社(多武峰)
高峯一談山神社(バス)
坂井駅(解散)

費用 約2000円(大坂から)
地図 2万5千・鞍馬山・古市

係 西上利和○井上田晴
申込み 6100121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行143
静岡・亀山(一般向き)
期日 4月9日(夜)10日(日)
前後発日帰り

集合 (9日) JR岐阜駅23時
00分

コース (9日) 岐阜駅(バス)
(10日) (バス) 穂積神
社・薬師岳・文彦岳・薬
師岳・穂積神社(バス)
岐阜駅(解散)

費用 約10000円(岐阜駅
からバス・資料代等)

地図 2万5千・清水・和岡島

申込み 56510854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

期日 4月17日(日)18日(月)
1泊2日

集合 (17日) 近鉄大和八木駅
8時10分

コース (17日) 大和八木駅(バ
ス)局・信濃社・局ヶ岳
1局ヶ岳神社(バス)奥
香肌温泉(泊)

費用 約24000円(バス・
宿泊代等)

地図 2万5千・宮前
昭文社「大台ヶ原・大
杉谷・高見山」

係 杉野東彦 ○瓜原利明
申込み 61010121

係 鷺見守康
申込み 50410828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで

期日 4月10日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅6番キー
ム6時15分②JR三ノ
宮駅中央口9時40分

コース 地下鉄三宮駅(電車)谷
上駅・瀬尾分岐・石橋花
山・黄連谷・トエテンテ
イ・クロス・新瀬戸駅(電車)

費用 約3100円(青春18き
っぷ使用・名古屋から)

地図 2万5千・神戸市東灘区・有
馬

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 京阪大谷駅8時30分

コース 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

コース 御所駅(バス)葛城登山
口・大和葛城山・持尾正
一・岩槻山・平石峠・竹内
峠・岩屋峠・二上山・二
上神社口駅(解散17時頃)

費用 約1500円(大坂から)
地図 昭文社「葛城高原・二
上山」

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

期日 4月14日(日) 日帰り
集合 阪東東向日町駅8時30分

コース 東向日町駅(バス)南春
花巡り山行1
小塩山・ボンボン山(初級向き)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・村雲
○木村太郎 ○中村友昭

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月18日(日) 日帰り
集合 近鉄谷田山入口8時30

コース 鈴鹿を歩く189
雨乞岳(健脚向き)

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月18日(日) 日帰り
集合 近鉄谷田山入口8時30

はつきりしませんでした。皆さん
と探してみましょ。雨天中止
近畿百名山に登る(第66回)
大和葛城山から二上山

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

コース 御所駅(バス)葛城登山
口・大和葛城山・持尾正
一・岩槻山・平石峠・竹内
峠・岩屋峠・二上山・二
上神社口駅(解散17時頃)

費用 約1500円(大坂から)
地図 昭文社「葛城高原・二
上山」

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

期日 4月14日(日) 日帰り
集合 阪東東向日町駅8時30分

コース 東向日町駅(バス)南春
花巡り山行1
小塩山・ボンボン山(初級向き)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・村雲
○木村太郎 ○中村友昭

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

コース 御所駅(バス)葛城登山
口・大和葛城山・持尾正
一・岩槻山・平石峠・竹内
峠・岩屋峠・二上山・二
上神社口駅(解散17時頃)

費用 約1500円(大坂から)
地図 昭文社「葛城高原・二
上山」

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

期日 4月14日(日) 日帰り
集合 阪東東向日町駅8時30分

コース 東向日町駅(バス)南春
花巡り山行1
小塩山・ボンボン山(初級向き)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・村雲
○木村太郎 ○中村友昭

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

コース 御所駅(バス)葛城登山
口・大和葛城山・持尾正
一・岩槻山・平石峠・竹内
峠・岩屋峠・二上山・二
上神社口駅(解散17時頃)

日一天皇陵道一小塩山
大原野森の案内所一山吹
川源流一カタクリ谷一立
石橋一阪急長岡天神駅
(解散)

費用 約700円(バス代等)
地図 昭文社「北摂京都西山」
係 田中 明
申込み HTPからメールのみ
http://hana.04.jp.
info@ek.co.jp

申込み 50310535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで

期日 4月16日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅北口8時15

コース 西岐阜駅(車)あいの森
駐車場・桜峠一みのわ平
一舟伏山一舟伏一やぶ
漕き道一駐車場(車)西
岐阜駅(解散17時頃)

費用 車代1000円
地図 奥村さんの絵地図を用意
係 山田明男
申込み 50310535

期日 4月15日(日) 日帰り
集合 ①JR新大阪駅1階北西
口構内8時00分

コース 新大阪駅(バス)173
号線丹波東雲(バス)四
十八滝登山口一長滝一峠
山一四十八滝登山口(バ
ス)るり湯温泉(バス)
新大阪駅(解散)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・村雲
○木村太郎 ○中村友昭

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

コース 御所駅(バス)葛城登山
口・大和葛城山・持尾正
一・岩槻山・平石峠・竹内
峠・岩屋峠・二上山・二
上神社口駅(解散17時頃)

費用 約1500円(大坂から)
地図 昭文社「葛城高原・二
上山」

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

期日 4月14日(日) 日帰り
集合 阪東東向日町駅8時30分

コース 東向日町駅(バス)南春
花巡り山行1
小塩山・ボンボン山(初級向き)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・村雲
○木村太郎 ○中村友昭

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月17日(日) 日帰り
集合 大谷駅・音羽山・千頭岳
石山駅(解散16時頃)

費用 4800円(山科駅から)
地図 2万5千・京都東部・
瀬田

申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

期日 4月11日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅8時25分

地図読み山行62
北山・峰床山(一般向き)

期日 4月18日(日) 日帰り
集合 JR 塚田駅 8時40分
コース 塚田駅(バス) 葛川学校
前江江谷一 中村東道一
オグロ坂峠 峰床山 依
坂峠 峰定寺 大塚山口
(バス) 出町柳駅(解散)
費用 約2500円(大阪から)
地図 2万5千 花背
係 塚元一彦 ○中村 登
申込み 〒536-0008
大阪市城東区園田4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名

新ハイキング関西支部合同。
高野海蔵の八丁半と京都府第二の
高さの峰床山を歩いて地形図の読
み方とコンパスの使い方を勉強し
ます。初心者歓迎。*シルバーIII
型コンパス必携。雨天中止

湖西・湖北武奈ヶ嶽(中級向き)
期日 4月18日(日) 日帰り
集合 JR 塚田駅 8時40分
コース JR 塚田駅 八条口 団体バ
スのりば 7時10分
期日 4月18日(日) 日帰り
集合 JR 塚田駅 8時50分
コース 京都駅(バス) 石田川
ム登山口 赤岩岳 湖北
武奈ヶ嶽 南尾根 近江

杉山(バス) 京都駅(解
散19時出)
費用 約3000円(バス代)

期日 4月21日(日) 日帰り
集合 清滝バス停 9時10分
コース 清滝 梨ノ木谷林道 首
無地蔵 神護寺(解散)
費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社 『京都北山』
係 ◎真山繁二
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
中世の先人は愛宕山は赤い燃え
る山と云い、歴史ある神の山を歩
きます。一部分知られてない道も

北山ちよつと歩き56
清滝から首無地蔵・神護寺
(一般向き)

期日 4月21日(日) 日帰り
集合 清滝バス停 9時10分
コース 清滝 梨ノ木谷林道 首
無地蔵 神護寺(解散)
費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社 『京都北山』
係 ◎真山繁二
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
中世の先人は愛宕山は赤い燃え
る山と云い、歴史ある神の山を歩
きます。一部分知られてない道も

19の5 鷺見守康まで
*定員20名
*3月6日まで

通ります。また、クリンソウの花
も見られるでしょう。雨天中止

自然観察山行144
静岡・浜口山から山大段の段段走
と蕎麦粒山と高塚山(一般向き)

期日 4月23日(日) 日帰り
集合 JR 岐阜駅 23時
前夜発 1泊2日
コース (23日) 岐阜駅(バス)
00分
(24日) (バス) 寸又峽
一 沢口山 天木 板取山
八丁段 山大段 大札
山 大札山登山口(バス)
中川根町(泊)
(25日) 中川根町宿(バ
ス) 大札山登山口 蕎麦
粒山 高塚山 山大段 一
大札山登山口(バス) 岐
阜駅(解散)
*帰路に浴食します。
費用 約2600円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 2万5千 寸又峽温泉・
蕎麦粒山
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の

若狭の山
霜ヶ岳(上中町)(初級向き)

寸又三山の沢口山から山大段を
経て大札山へ縦走。翌日は蕎麦粒
山から三百名山の高塚山を歩きま
す。雨天決行(コース変更あり)

花遊り山行2
比良・釈迦岳(一般向き)

期日 4月24日(日) 日帰り
集合 JR 近江舞子駅 8時50分
コース 近江舞子駅 越前山荘道
一 釈迦岳 ヤケオ山 中
井新道 大宮川環堤 近
江

江舞子駅(解散)
費用 交通費各自

期日 4月25日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②近鉄塚田駅10時
00分
コース 塚田駅 峰比売 峰比古
神社 鳥居 高尾山 信
貴山 雲間 高安山 十三
峠 水呑地蔵 服部川 駅
(解散15時40分)

生駒・高尾山から高安山
(一般向き)

期日 4月25日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②近鉄塚田駅10時
00分
コース 塚田駅 峰比売 峰比古
神社 鳥居 高尾山 信
貴山 雲間 高安山 十三
峠 水呑地蔵 服部川 駅
(解散15時40分)

「おおさか自然歩道」を歩いて
高安山に行きます。雨天中止

期日 4月25日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅 8時25
分
コース 湯の山温泉駅(車) 八風
キャンプ場 北山 岩ヶ
峰 釈迦ヶ岳 段木 八
風 キャンプ場(車) 湯の
山温泉(解散)

山田明男 ○高原秀彦
申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山24の19
山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください
栃谷のアカヤシオがきれいに見
えるところですが、小雨決行

期日 4月25日(日) 日帰り
集合 JR 塚田駅 8時50分
コース 京都駅(バス) 石田川
ム登山口 赤岩岳 湖北
武奈ヶ嶽 南尾根 近江

平日ふれあいハイク44
湖西・大谷山(一般向き)

期日 4月27日(日) 日帰り
集合 JR マキノ駅 9時30分
コース マキノ駅(バス) マキノ
高原 スキー場 栗駒越
一 寒風山 ムギノ峰 大
谷山 ムギノ峰 スキー
場 マキノ高原(バス)
マキノ駅(解散17時25分
頃)

北旗・若山(一般向き)

期日 4月29日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅6番ホー
ム6時15分/②JR高槻
駅9時05分
コース 高槻駅 京大農場 浄誓
寺 金蔵寺跡 若山 四
つ辻 若山神社 山崎駅
(解散14時30分)

自然観察山行145

美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠ー
園見峠ー大桑山ー御座峠
ー静馬ヶ原ー又ーさざ
れ石公園(バス) 大垣駅
(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千=美東・関ヶ原
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の19の5 鷺見守康まで
*定員30名
春の北尾根フラワートレッキング。小雨決行

近畿百名山に登る(第67回)
鈴鹿・仙ヶ岳(中級向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース 京都駅(バス) 田村川林道駐車場ー小社峠ー仙ヶ岳(東峰往復)ー割谷分岐ーヨコネー御所平ーミズナシー船石ーベンケイ

一黒流・塙土神社(バス)
京高駅(解散19時迄)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社『一帯在所・霊仙・伊吹』
コース 2万5千=土山・伊吹
◎村田智俊 ○呉比裕美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員23名(会費に限り)
仙ヶ岳からササ原の御所平を歩きます(73号82ページ参照)。雨天中止

九州・宮崎の山
尾鈴山・大崩山・銚岳
期日 4月30日(日) 夜5月4日(月) 朝
(中級向き)
集合 (30日) 大阪南港かもめフェリーターミナル19時00分(19時30分発)
コース (30日) 大阪南港(船中泊)
(1日) 宮崎港(バス)
甘茶谷登山口ー尾鈴山ー長崎尾ー登山口(バス)
桜子川(泊)

(2日) 桜子川(バス)
登山口ー宇土内
登山口(バス) 鹿川(泊)
(3日) 鹿川(バス) 上
鹿川キャンプ場ー銚岳ー
上鹿川(バス) 宮崎港
(船中泊)
(4日) 大阪南港(解散)
7時30分
費用 約8000円(フェリー・バス・宿泊代等)
地図 昭文社『祖母・傾・大崩山』
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員19名(会費に限り)
*4月10日まで
若山牧水の故郷の名山 尾鈴山を訪ね、花崗岩の巨大岩峰が連なり、アケボノツツジ咲く大崩山を宇土内谷へくだり、岩峰銚岳を登ります。雨天決行

近畿百名山に登る(第68回)
大峰・八経ヶ岳と釈迦ヶ岳
(健脚向き)
期日 5月2日(日) 4日(月) 泊3日
あり、北山のコースを歩いたという満足感でいっぱいだった。
(参加者) 牧 和夫 森 美香子
飯田愛子 前田栄三 松井トキ子
松尾芳洋 松尾剛子 伊東ナナ子
小林博子 小林 桂 岡本美千子
桐山直江 出田年子 岩本いすゞ
飯田良子 森澤昭子 東 美智子
森 晴男 奥村幸雄 小原さゆり
林 信代 岡崎知子 加納由紀子
上阪知子 北澤 弘 石田真由美
小野典子 市野博文 川北恵美子
若林文夫 前田幸子 中尾美智子
和田直樹 磯野重治 外間孝二
藤本桂吉 金森節子 砂津達雄
フリッツ知恵子 ○福岡 章
◎小出良春 (計41名)

集合 (2日) 近鉄下市口駅8時40分
コース (2日) 下市口駅(タクシー) 天川川合ー榎尾辻ー狼平ー弥山小屋(泊)
(3日) 弥山小屋ー八経ヶ岳ー仙宿峠ー仏生ヶ岳ー釈迦ヶ岳ー太古の辻ー前鬼(泊)
(4日) 前鬼ー三重滝ー不動七重滝見物ー前鬼口(バス) 大和上市駅(解散17時頃)
費用 約3000円(交通費・宿泊代等)
地図 昭文社『大峰山脈』
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝 ○呉比裕美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員20名(会費に限り)
大峰の主峰を歩くハードな山行です。新緑に包まれた奥座の山を思いきり楽しみます。雨天決行

(参加者) 山田妙子 後藤久美子
馬場桂子 山村恭男 南 智恵子
谷口英雄 栗本敏夫 今井みよ子
吉村 昭 丹下由子 伊藤恵美子
服部 爽 北村 稔 北村つねみ
武村千鶴 林 正義 熊木秀雄
鈴木 浩 鈴木友子 大石将美
奥野民恵 奥野富美 鳥居信吾
◎高原芳彦 ◎山田明男(計30名)
鳥取県から水ノ山・扇ノ山
(近畿百名山に登る第64回)
11月2日(日) 3日(月) 泊2日
(2日) 雨のち晴れ(集合) JR新大阪駅7:40 45(バス) 水ノ山ふれあいの里キャンプ場11:30
13:00 水ノ山14:00 15:00 仙谷分岐14:30 仙谷コース登山口15:40(バス) 八東町ふるさとの森16:30(泊)
(3日) 晴れ 八東町ふるさとの森7:00 河合谷林道登山口8:00 南尾根 扇ノ山9:15 40 大スッコ山10:00 河合谷原水とのふれあい広場11:00 30(バス) リフレクションパークむらた2:15(入浴・昼食) 14:30(バス) 大坂駅19:00(解散)

山行報告(11・12月号)
新ハイキングクラブ関西

中国自然歩道7
毛無山と大山東部半縦走
11月1日(土) 2日(日) 泊2日
(1日) 晴れ(集合) JR西明石駅7:50(バス) 毛無山の家11:13(昼食) 11:55 林道終点12:05 大岩12:15 六合目大杉12:26 九合目12:58 毛無山13:06 30 一カタクリの丘13:40 1日馬山14:10 25 毛無山の家15:00 25(バス) 大山寺17:00(泊)
(2日) 晴れ 大山寺5:50 大神山神社6:15 25 林道断絶6:45 下宝珠峠 05 下宝珠峠6:25 ユートピア小屋8:45 9:03 振子山9:25 親指ヒコ10:00 野田ヶ山10:35 大休峠10:55(昼食) 11:35 矢筈ヶ山12:25 30 大休峠13:15 25 香取分岐14:03 川床14:40(バス) 大山寺14:55(入浴) 16:05(バス) 西明石駅20:20(解散)
2日間とも好天に恵まれた毛無

山と大山東部の過ぎゆくブナ林の秋を堪能した。この感動は言葉で表現しがたく、紀龍雄氏の(山・時・夢)「大山」が頭に浮かんで消えなかった。
(参加者) 栗橋崇吉 堀房貴樹
森 瑞代 小谷和子 前田喜久子
魚田一江 森本 勝 森本淳子
岩野暢子 中島 隆 安田文美子
岩崎健司 狩野東彦 光田文英江
宮本真幸 宮本悦子 池田繁美
首藤育子 須藤浩子 岡田恵美子
◎八木四郎 ○岡田 昇
◎古賀隆一 (計23名)
京都北山・沢山から桃山
11月2日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅9:10 20(バス) 山城の中川10:35 善提の滝11:05 沢滝11:45 仏粟峠12:00 沢山12:20(昼食) 12:55 吉永山13:27 桃山13:46 原谷口14:25 36(バス) 京都駅15:36(解散)
雨は北山杉の里・山城の中川に著くとやみ、川沿いの家並を見ながら出発。沢山の昼食時に川上さんが姿を見せ、山の確認に来たと云う。心穏む時間を過ごして出発。吉永山から桃山は自然林のなかに

あり、北山のコースを歩いたという満足感でいっぱいだった。
(参加者) 牧 和夫 森 美香子
飯田愛子 前田栄三 松井トキ子
松尾芳洋 松尾剛子 伊東ナナ子
小林博子 小林 桂 岡本美千子
桐山直江 出田年子 岩本いすゞ
飯田良子 森澤昭子 東 美智子
森 晴男 奥村幸雄 小原さゆり
林 信代 岡崎知子 加納由紀子
上阪知子 北澤 弘 石田真由美
小野典子 市野博文 川北恵美子
若林文夫 前田幸子 中尾美智子
和田直樹 磯野重治 外間孝二
藤本桂吉 金森節子 砂津達雄
フリッツ知恵子 ○福岡 章
◎小出良春 (計41名)

鳥取県から水ノ山・扇ノ山
(近畿百名山に登る第64回)
11月2日(日) 3日(月) 泊2日
(2日) 雨のち晴れ(集合) JR新大阪駅7:40 45(バス) 水ノ山ふれあいの里キャンプ場11:30
13:00 水ノ山14:00 15:00 仙谷分岐14:30 仙谷コース登山口15:40(バス) 八東町ふるさとの森16:30(泊)
(3日) 晴れ 八東町ふるさとの森7:00 河合谷林道登山口8:00 南尾根 扇ノ山9:15 40 大スッコ山10:00 河合谷原水とのふれあい広場11:00 30(バス) リフレクションパークむらた2:15(入浴・昼食) 14:30(バス) 大坂駅19:00(解散)

鳥取県備前から一山に登った。山頂付近は紅葉が終わっていたが、扇ノ山では道筋のブナ林は美しくかった。ふるさとの森では管理宿泊棟を提供してもらい、自炊も容易で宿泊も快適だった。

(参加者) 吉藤孝次 野里マツ代 佐野信江 仲谷礼司 中嶋日出男 多賀久子 中川光郎 渡辺眞理子 中川節子 田中幸子 庁 すす子 宮野哲郎 宮野裕子 高岡富美子 小林 稔 川田洋子 伊藤三千代 入江武史 山科邦彦 岩田育士 三井純一 ○安倉正勝

○呉比呂美 ◎村田智俊 (計25名)

静岡・山伏から八幡嶺縦走 (自然観察山行131)
11月7日(日)～9日(回)
前夜免泊2日
○今日 晴れ (集合) J R 岐阜駅23:00 (バス)

(8日 晴れ) (バス) 梅ヶ島新田温泉ペンション5:15 (朝食) 6:10 (バス) 百鬼峠8:30～35 山伏9:20～40 大平の頭10:50 (新道) 越ノ口25 大谷嶺12:05 (昼食) 13:00 五色の頭13:40 八幡嶺14:30～45 安倉峠分岐16:00 (バス) 梅ヶ島新田温泉

ペンション16:30 (昼)
9日 晴れのちくもり 梅ヶ島新田温泉ペンション7:00 (バス) 安倉大滝入口7:15 安倉大滝8:00 安倉大滝入口8:40～45 (バス) 大谷嶺9:45～10:30 (バス) 静岡温泉11:10 (入浴・昼食) 13:20 (バス) 岐阜駅17:00 (解散)

静岡温泉の森から続く林道をバスで走り、百鬼峠登山口から最短で山伏に登り縦走開始。大谷嶺・八幡嶺を経て安倉峠に降りた。山伏ではササの海を前線に富士山を遠望。大谷嶺からは日本三大崩れを俯瞰し、八幡嶺からの下りでは豊作のブナの実を味わった。翌日は竜爪山の予定を変更し、なかなか訪れることのない安倉の大滝を見学。さらにバスで大谷嶺まで行き、大谷嶺と昨日の縦走路を眺めた。

(参加者) 岡田直規 荻野美紀 緒方由子 小松志信 落合ひろ子 竹田博美 多田陽子 加納由紀子 仲谷礼司 平田輝美 森 美香子 三井純一 宮本真幸 船本裕巳子 村井祐和 横井 徹 前田喜久子 武藤由美子 佐々木三千代

○狩野東彦 ◎登見守康 (計25名)

飯南・宮の谷溪谷 (三重の山)
11月8日(日) 晴れ
(集合) 道の駅・飯高駅 8:30 (車) 宮の谷林道終点9:40 鷲岩10:00 蛇滝10:15 扇折谷 出合10:40 扇折滝12:10 (昼食) 12:55 扇折谷出合14:00 高滝 14:15 扇折谷出合14:35 大飛 び15:20 林道終点15:30 (解散)

水と苔と石のきれいな滝めぐりのコース。ちょっぴりスリルもあって、賑やかで楽しい山行でした。解散後、有志でホテル・スミールの温泉へ。宿泊者は会員の山荘「無酔庵」で。

(参加者) 永戸鉄治 岡本美千子 龍一 平 幸子 石田真由美 原 文字 池田繁美 新野幸夫

○桶田遼夫 ◎尾崎英五 (計10名)

三重・重仙山
11月9日(回) くもり時々晴れ
(集合) J R 近鉄伊勢市駅9:13 23 (バス) 焼畑入口10:05 重仙山登山口10:35 水筒10:50 重仙山11:12 (昼食) 12:00 不動滝12:05 船越峠13:25 30 一雨野野添14:00 41 (バス) 伊勢市駅15:25 (解散)

トンネルを抜けるとバスが焼畑

場入口で停まってくれて30分時間を稼ぐ。五ヶ所滝を眺望しながらミカン畑を登っていくと、重仙山に着いた。船越峠の道は自然林の道だったが、良くなった。素晴らしいと変化のあるコースだった。

(参加者) 村松和子 森 晴代 井上久子 多賀久子 庁 すす子 徳田暢子 ◎小出良春 (計7名)

藤原岳・頭陀の窟 (鈴鹿を歩く180)
11月9日(回) 小雨のちくもり
(集合) 茶屋川(ハリポート)尾場? 50 (車) 茨川8:25 泉場尾根9:50 展望丘11:20 藤原山荘11:35 (昼食) 12:15 天狗岩の渡り12:45 頭陀ノ平13:15 白船峠13:30 真ノ谷13:50 頭陀の窟14:25 三筋の滝15:30 茨川16:40 (解散)

藤原岳への登りは体調が悪くて遅れたが、登り切ると体調も治り大展望が開けた。特に天狗岩の「雲の渡り」からの絶景は凄く。裏下に冬枯れの真ノ谷の樹海と御池。そしてさざれ岩の岩壁の奥に神秘的な暗い穴の頭陀の窟。三筋の滝のロープ下りなど、変化に富んだ山行となった。

藤原岳への登りは体調が悪くて遅れたが、登り切ると体調も治り大展望が開けた。特に天狗岩の「雲の渡り」からの絶景は凄く。裏下に冬枯れの真ノ谷の樹海と御池。そしてさざれ岩の岩壁の奥に神秘的な暗い穴の頭陀の窟。三筋の滝のロープ下りなど、変化に富んだ山行となった。

(参加者) 北村 稔 後藤康幸 武村千鶴 池田隆一 今井武司 小林 純 大石将美 奥野太一郎 磯部 純 加藤園計 谷 守 谷 久雄 栗本敏夫 池田繁美 岩本彰子 高原芳彦 南 智恵子 原 幸子 原 光一 山野志保江 白木良弘 鈴木 浩 鈴木友子 高野敦也 友田 毅 友田美保子 高杉 博 杉山能久 葛瀬井 豊 櫻田勝利 谷口英雄 網本美恵子 岩田明美 ○山田景三 (計35名)

◎岩野 明 (計35名)

但馬南部・行者山
11月9日(回) ◎古賀慶一
*雨天のため中止しました。

北摂・美女谷からポンボン山 (ファミリーハイイク31)
11月13日(回) 小雨のちくもり
(集合) J R 高槻駅9:00 9 (バス) 川久保9:35 50 木橋のある登山口10:40 50 東海自然歩道出口11:30 10 ポンボン山11:40 (集合) 12:30 10 釈迦坊13:05 大杉十字路13:15 25 島本町キャンプ場14:05 15 水無瀬溪谷休養場15:05 15 若山神社16:00 10 (解散)

清らかな流れと草花目当ての観察路として歩かれる美女谷にも、晚秋が訪れ谷間は静寂にうつまれている。暗い谷をつつぽん山へ登り着き、明るい展望に仲間顔が輝く。おおさか環状自然歩道を水無瀬溪谷へくだり、乙女の滝に歩き疲れた登りて帰った。

(参加者) 田中延子 佐藤浩一 中江清剛 長友勝三 本田久美子 木下照子 西 悦子 山中あさき フリッツ知恵子 中澤ちず子 柏木孝子 岩城豊子 金藤千恵子 西條良彦 村上嘉子 野々山明美 本間昭恵 市野博文 成川みさお 松井明忠 盛 敏子 川上久堅 宮野純子 山岸勝雄 青木一雄 榎木金三 本間 隆 本間繁子 岡田里子 木下朝子 宮村孝次郎 大村修子 松田 久 山本千鶴子 妹尾正 松本忠雄 曾根ひろ子 長岡保江 古川正子 ○中村友昭 ◎木村太郎 (計41名)

粟生・三路ヶ岳から飯塚山
11月13日(回) 晴れ
(集合) 近鉄粟生口大野駅9:15 25 (バス) 天王橋10:20 尾根出合 一飯塚山12:10 (昼食) 12:40

一カトラ池13:20 唐戸峠 辻堂13:50 高井バス停14:30 42 (バス) 焼畑駅14:55 (解散)

好天に恵まれ、静かな自然林に相応しく冬枯れの季節は展望が良い。普段は全く見えない三郎ヶ岳や高見山方面まで望めた。

(参加者) 古川裕子 東山澄夫 尾崎光子 山根邦枝 柳川常雄 村川春忠 松尾麗子 上西信子 白星孝子 木村 豊 森本幹雄 奥田則夫 荒木光雄 小崎由利子 東中次夫 美村三枝 宮路ちへ子 藤井裕子 山口敏明 小河美奈子 森田久子 竹田勝英

○井上由紀晴 ◎西上利和 (計24名)

湖北・東山
11月15日(回) 晴れのちくもり
(集合) J R マキノ駅8:50 (バス) 小笠原9:10 10 万字越10:00 10 4等三角点10:50 11:00 10 10 船越の町11:40 東山12:00 (昼食) 13:05 尾根南端分岐 13:20 大崎別荘地14:10 湖畔休憩所14:30 (解散)

万字越から琵琶湖に突き出した大崎半島の尾根を南に向かって緩走し、見下ろす琵琶湖の展望と紅

葉の自然林を楽しんだ。

(参加者) 森本幹雄 松上美代子 宮下淳一 木村寛子 光川二美子 吉藤孝次 松尾 豊 佐古田文字 大石将美 堀原香織 若林文夫 岩城豊子 内田康夫 谷 守 岩本彰子 小谷和子 岡本美千子 石原幸子 木下朝子 石田真由美 緒方由子 横井 徹 加納由紀子 蓮井洋子 竹田善英 友田美保子 北村 純 北村 正 網本美恵子 角田一江 小松志信 ○磯部 純 ◎金谷 昭 (計33名)

比良・釣瓶岳 (週末ハイイク53)
11月15日(回) 晴れのちくもり
(集合) J R 近江高島駅8:55 58 (バス) 畑9:20 30 10 コタニ峠10:20 25 10 地蔵山11:00 10 10 約12:15 (昼食) 13:15 10 ナガオ尾根南端14:10 10 広谷・イブルキのコバ分岐14:35 18 雲ヶ原14:50 15 05 10 北比良峠15:25 10 カモノカ台15:40 17 02 (バス) 比良駅17:15 (解散)

釣瓶岳の急登までの視線は蛇谷ヶ峰・伊吹山・リトル比良・白倉岳を見ながら歩いた。ナガオの尾

根道は北比良管理組合によって刈り払いされ、快適なコースになっていた。ダケ道の下りで急速に天候が悪化したが、イン谷口まで雨に遭わずにすんだ。

(参加者) 入江武史 市橋千代子 南 寛子 川崎敏雄 伊庭三三 代 使合則 井尾昭昭 中尾美智子 森 明代 長尾節子 船越みよ子 ○瓜取利明 ◎狩野東彦(計13名)

奥美濃・湧谷山

11月15日(日) 晴れのちくもり
(集合) JR大田駅9:00(バス) 遊らんと坂内スキー場10:25(バス) 宇山11:55(バス) 湧谷山12:30(バス) 池田温泉13:35(バス) 大田駅17:30(バス)

奥美濃のやぶ山にまた一つ道が開かれた。丁字山まではかなりの急登だが、さわやかなブナ林が続き、霧が立ち、五輪池山・天狗山・金巻岳などを遠望した。
(参加者) 池田繁英 荻野英紀恵 石川 敏 岡田直規 杉本 高 金森節子 朽名生石 船本哲子 栗橋崇吉 栗橋君子 武藤出美子

藤崎淡石 藤本桂吉 森 美香子 松見 昭 宮西和子 安田文美江 佐々木三幸 宮本悦子 佐々木幸代 ○加藤元彦 (計22名)
◎鷺見守康

11月16日(日) くもり
(集合) JR近江高島駅8:55(バス) 鹿ヶ瀬道9:17(バス) 15 御川越10:40(バス) 岩阿沙利山11:08(バス) 八王子11:38(バス) 音羽山13:45(バス) 四つ辻14:03(バス) 遊歩道出合14:32(バス) 音羽山登山口14:45(バス) 中谷山14:55(バス) 07(解散) JR近江高島駅15:17

紅葉のシーズンにはややおそく、所どころに散り残った紅葉・黄葉を愛でる程度にとどまったが、その代わり音羽山の登山道は、一帯に落ち葉が敷きつめてフカフカ、静かに快適な健歩できた。
(参加者) 小林 稔 桂 久美子 若林文夫 川田洋子 市井ユリエ 和田勝子 西 悦子 柴田チヨコ 宮野節郎 宮野敏子 武藤美美子

11月23日(日) 晴れ
(集合) JR本郷野駅8:55(タクシー) 中垣内9:25(タクシー) 10:00(バス) 分岐10:25(バス) 新池10:45(バス) 55(バス) 池11:30(バス) 12:10(バス) 祇園12:45(バス) 門13:15(バス) 八幡神社14:50(バス) 播磨新宮駅14:45(バス)

亀ノ池は水位が高く池におりることはできなかった。周囲の雑木林の紅葉が美しく、陽が差すと輝いた。飾りを創るためのシダを探したり、市野保古墳群を見たりしてゆっくりと駅に向かった。
(参加者) 栗橋崇吉 口石かおる 塩原直樹 森 瑞代 宮村孝次郎 小谷和子 角田一江 野里マツ代 森本淳子 フリッツ知恵子 秋田福師 松村雅子 岡田恵美子 加藤元彦 小林 桂 迫 恵美子 黒部忠男 河本英樹 河本美千子 古賀玲子 渡辺一雅 ○岡田 昇 ◎古賀慶一 (計23名)

若狭の山 御旗山(美浜町)
11月20日(日) 晴れ
●都合により中止しました。

11月22日(日) 晴れ
●雨天のため中止しました。

磯野重治 松井明忠 高岡富美子 岩村春子 渡部和美 光川二英子 山口喜弘 高松雅子 中嶋日出男 井上恭子 古川裕子 横川ゆり子 石井重美子 小松さな子 久保田玲子 ○宮下淳一 ○田中雄雄 ◎秦 康夫(計17名)

11月16日(日) 晴れ
(集合) 近鉄御所駅9:55(バス) 12(バス) 東佐味10:35(バス) 釜山百体観音10:43(バス) 高柳神社11:37(バス) 高天彦神社12:30(バス) 13:05(バス) 14:35(バス) 二宮神社14:37(バス) 九品寺15:05(バス) 六地藏15:42(バス) 瑞白橋15:45(バス) 16:08(バス) 07(解散) JR御所駅16:16

東佐味でバスを降り、釜山百体観音に向かう。百体観音は西園・秩父・坂東の観音堂像の小洞が並んでいる。葛城古道は神社・仏閣の道で、金剛・葛城山を見ながら歩いた。
(参加者) 岩崎健司 岩本いすゞ 鈴木雄雄 鈴木敏子 眞島百合子 小林博子 林 信男 中尾美智子 中村英雄 妹尾一正 前田幸子 ○市野博文 ◎小出良春(計13名)

11月23日(日) 晴れ
(集合) JR堅田駅8:40(バス) 南庄8:54(バス) 9:20(バス) 45(バス) 小野山13:30(バス) 35(バス) 仰木14:00(バス) 野村岐14:50(バス) 大原バス停15:10(バス)

60回目の地獄廻り山行は参加者が20人を超える盛況。滝寺門前のモミジは紅葉の最盛期だった。地形図とコンパスを勉強しながら予定のコースを歩き、観光客で大混雑の大原バスターミナルで解散。
(参加者) 龍野敏子 花房真理子 宮下淳一 荻野敏子 土井あつ子 川上久堅 前田幸子 山崎佐知子 吉野孝子 若林文夫 柴田チヨコ 前田栄三 伊丹耐子 宮路ちへ子 白田忠子 吉條孝次 市井ユリエ 澤田雅之 染矢つや子 平田登代美 ○中村 登 ◎塚元一彦 (計23名)

鬼ヶ牙・臼杵岳 鈴鹿を歩く(18)

11月23日(日) 晴れ
(集合) 安楽越広場8:40(バス) しか高原9:00(バス) 白牡丹9:35(バス) 舟石10:30(バス) 小太郎谷原10:50(バス) 11:50(バス) 長坂山尾根取付

野登山・鳩ヶ峰(鈴鹿百山9)
11月16日(日) 晴れ
(集合) JR車山駅8:20(バス) 小岐須谷駐車場9:25(バス) 11:00(バス) 15:15(バス) 尾根取付11:00(バス) 12:05(バス) 13:00(バス) 13:30(バス) 20:15(バス) 05(バス) 14:20(バス) 14:35(バス) 05(バス) 15:10(バス) 小岐須谷駐車場15:30(バス) 40(バス)

11月19日(日) くもりのち雨
(集合) JR京都駅7:30(バス) 10(バス) 生形ゲート9:30(バス) 40(バス) 三國10:20(バス) 7(バス) 10:10(バス) 55(バス) 野田畑11:20(バス) 野田畑12:00(バス) 13:00(バス) 野田畑谷(バス) 長

青生・最北の山々
11月19日(日) くもりのち雨
(集合) JR京都駅7:30(バス) 10(バス) 生形ゲート9:30(バス) 40(バス) 三國10:20(バス) 7(バス) 10:10(バス) 55(バス) 野田畑11:20(バス) 野田畑12:00(バス) 13:00(バス) 野田畑谷(バス) 長

12:00(バス) 長坂山13:00(バス) 北峰13:40(バス) 鬼ノ牙14:00(バス) 東峰14:30(バス) 三ツ瀧口15:30(バス)
余裕をとって逆ルートで登る。深い霧は臼杵岳に着くと消え、大パノラマが展開。舟石から小太郎谷の源頭のカサ原に降りて、日溜まりで早目の楽しい昼食。長坂山の登りとくだりに手間だったが、北峰・鬼ノ牙・南峰・東峰では周りの絶景を存分に目撃して楽しい山行となった。
(参加者) 後藤康幸 北村つねみ 北村 稔 倉谷 昭 小林 稔 大石将美 磯部 純 池田繁英 谷 久雄 山田明男 山田妙子 堀 寿江 宮村信夫 藤野太一郎 原 文子 水戸鉄治 伊藤啓久男 緒方由子 栗本敏夫 綱木美恵子 森本 勝 森本淳子 石田真由美 杉本能久 白木良弘 白木やす子 武村千鶴 谷 守 光川二英子 炭田明美 ○山田景三 ◎宮野 明 (計32名)

11月23日(日) 晴れ
(集合) JR名古屋駅8:20(バス) 17(バス) 三河大塚駅9:17(バス) 11月22日(日) 晴れ
●雨天のため中止しました。

堂山10・25―砥神山10・55(昼食)
11・25―砥神神社11・30―とよお
か湖12・00―三河三谷駅12・40
(解散)

ミカン畑を見ながら観音堂から
御堂峠に着いた。三河湾の展望が
すばらしい。山頂にいた8名のグ
ループがこれから園遊峠を通過
して五井山に行くと言っていた。山頂
を後に三河富士といわれる砥神山
に向かう。気の合った3人なので
楽しい山だった。

(参加者) 森 晴代 岡本美千子
(計3名)
◎小出良春

雲取山(京都北山歩き11)
11月24日(日) くもりのち雨

(集合) 叡電出町柳駅7・40〜50
(バス) 花背高取前9・10〜35
寺山峠10・20〜30 雲取峠11・00
下11・45(昼食) 12・30―三ノ谷
下11・45(昼食) 12・30―勢造天
満宮山15 丹生峠13・50 尾根
道―流谷峠14・45―一の瀬ユリ
夜泣峠分岐16・00―富士神社16・
30―40―一の瀬駅16・45―50(電
車) 出町柳駅17・20(解散)

バス使用なので出町柳駅に集ま
ただけで決行することにした。
長いコースだったが、ほとんど曇
り空で雨は16時頃から降り出し
た。

(参加者) 森本幹雄 奥村嘉裕
岩野健司 堀江房磨 石田豊美
若林文夫 金森節子 宮本真幸
宮本悦子 堤 良男 三橋直文
寺田久広 谷川俊一 蓮井洋子
山田幸子 佐野信江 武部美奈子
宮野哲郎 宮野祐子 小坂さゆり
山本京子 岩本彩子 山岡詠美子
◎磯野重治 ◎森脇貞哉
◎川上久堅 ◎中西信行(計27名)

一足早い忘年会
奥穂積・岩谷山と大甲山
11月29日(日) 30日(月) 1泊2日

(29日) 小雨(集合) JR姫路
駅9・15(バス) 八幡神社10・45
(昼食) 11・25―古城山12・20
岩谷山13・20―三林山15・00
(バス) 福知山谷休養センター15・
45(泊)
(30日) くもり 休養センター8・
00(バス) 前地登山口8・35―主
尾根10・05―大甲山10・55(昼食)
11・25―分岐11・40―作業道12・
35―安養寺13・05(バス) まほろ

ばの湯14・00(入浴) 15・00(バ
ス) 姫路駅16・20(解散)

29日は悪天が心配されたが、八
幡神社へ参拝したと利益があつて
か、たいした雨にならず一同、安
堵。大甲山の登山口に選んだ前地
の砂鉄採掘で山が姿を変え、昔の
山人の苦勞を感びながらの急坂を
行へ、山頂へ着くと一瞬四国が姿
を見せ、急坂を登ったと褒美をく
れた。

(参加者) 渡辺一雅 三輪直文
三井敏一 馬龍中勇 中島 隆
中村静香 金谷 昭 石田賢一
岩田育士 狩野東彦 森本勝
秋田楠子 小林 桂 岡田恵美子
松尾麗子 吉藤孝次 船越みよ子
船越利明 住田誠隆 前田喜久子
原 文子 金森節子 松上美代子
小谷和子 兼田幸子 河本美千子
三輪孝子 小田潤子 岩城豊子
上田直代 小林豊子 塩尻香織
◎須藤岡 輯 (計35名)

美濃・原嵐山と三義山
(自然観察山行133)
11月29日(日) 30日(月) 1泊2日

◎鷺見守康
*都合により中止しました。

京都北山・箕ヶ岳
11月30日(日) くもり一時小雨
(集合) 叡電出町柳駅9・20〜30
(電車) 鞍馬駅10・00―静原10・
45 墓地11・20―箕ヶ岳12・07
(昼食) 12・40―林道13・08―地
下鉄国際会館駅14・10(電車) 京
都駅14・33(解散)

箕ヶ岳は京都北山でも人口の
山なので多くの人が歩いていると
思ったが、登山する人は全くな
くて静かな山だった。

(参加者) 岩野健司 疋 すみ子
若林文夫 尾崎光子 森 美香子
本間 隆 本間孝子 中嶋日出男
飯田愛子 前田初雄 松井トキ子
和田直樹 佐野信江 宮村孝次郎
多賀久子 若林和人 光川一美子
山口喜弘 牧和一正 若本いす
川村英雄 枝和夫 四ノ宮陽子
中尾美恵子 中尾美智子
石田真由美 ◎市野博文
◎福隅 章 ◎小出良春(計27名)

金毘羅山から翠嵐山・焼杉山
(京都北山歩き112)
12月7日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅8・00〜20
(バス) 戸寺9・20―江文神社9・

30
寒風が吹く日だったが、大原背
稜の山は冬枯れの落ち葉道で、三
山を気持ちよく歩いた。冬の大原
は静かで、二千院への道筋で温か
い湯豆腐で反省会をした。

(参加者) 榎 照司 榎 美奈子
榎原良彦 宮下淳一 桂 久美子
岩城豊子 小林 裕 伊東ナナ子
蓮井洋子 堀田輝子 小坂さゆり
長尾節子 佐野信江 柴田チヨコ
宮野哲郎 宮野祐子 森 美香子
川田洋子 渡部和美 中嶋日出男
青木一雄 山岸勝雄 武部美奈子
山根弘美 井藤正輝 小坂さゆり
山田幸子 鈴木健雄 高岡寛美子
橋本 薫 川上久堅 稲葉大太郎
牧 和天 山口喜弘 稲葉美知子
西 悦子 西 洋美 中村佳津子
入江武史 高橋光治 高橋由紀子
井上真子 中川光郎 市野博文
◎安倉止勝 ◎呉比倫美 (計47名)
◎村田賢俊

福王山(鈴鹿白山50)
12月7日(日) 晴れ

(集合) 三岐鉄道大安駅8・20
福王神社駐車場8・50―9・00―
福王神社9・15―福王神社奥宮9・
50―福王山10・03―東海自然歩道
10・40―水鏡谷キャンプ場11・00
(昼食) 11・15 13・40―福王神社
(車) 大安駅14・15(解散)

初めての福王山、思っていたよ
り楽に登れました。山登りの後の
パーベキューは大変おいしく、ま
た楽しく参加させていたいただき
ました。(記録・馬場桂子)

(参加者) 山田妙子 後藤久美子
石川 静 馬場桂子 伊藤紀子
丹下由子 春見真美 伊藤恵美子
島田信吾 栗本徹夫 石井千恵子
鈴木 浩 鈴木友子 佐信光江
坂口久子 今井淑雄 井上 光
北村 稔 吉村 昭 岡本美千子
原 文子 西村文男 佐古田文子
村田 浩 白木良弘 白木やす子
◎高原芳彦 ◎山田明男(計28名)

紀北・園城山
12月7日(日) 晴れ
(集合) 南海紀伊清水駅10・57
11・00―園城神社12・12―園城山
12・17―園城神社12・22(昼食)

13・00―フタゴ山頂13・45―地
蔵14・07―学文路大師14・32―南
海学文路駅14・53(解散)

園城神社で食事中、70名を超す
地元ハイキングクラブの人たち
が登って来た。思わず園城山は有
名な山かと思った。下山は林道で
なく山道を歩こうと男性の人たち
が言うのでお任せした。倒木が道
を塞ぎテープもなく、人が歩いて
いない道だが楽しいコースだっ
た。

(参加者) 吉藤孝次 山崎佐知子
岩野健司 木村 豊 川北恵美子
藤本桂吉 森 晴代 多賀久子
中村英雄 大和 絃 ◎福隅 章
◎小出良春 (計12名)

イワス・向山・男鬼山
(鈴鹿を歩く182)
12月7日(日) くもり

(集合) 栗橋手前広場8・10(電
車) 男鬼峠広場8・40―イワス9・15
―比叡山9・45―比叡神社9・55
―峠広場10・40(車) 男鬼山手前
広場10・50―向山11・15―男鬼山
11・50―広場12・05(昼食) 大宮
14・50(解散)

イワスからの大パノラマを楽し
み、比叡神社に参拝。向山はすば

らしい冬枯れの樹林が続いたが、
男鬼山は深い杉林の山。昼から焚
火を囲んで盛大に忘年会をした。

(参加者) 服部 晃 金谷 昭
中尾和子 中村幸子 櫻田勝也
谷 守 森澤照子 細野欣也
原 光一 原 孝子 今井みよ子
村田紀生 磯部 純 湯浅みや子
武村千鶴 小林 桂 石田真由美
永戸鉄治 市田政子 伊藤喜久男
神野孝允 杉山能久 的場たか子
炭田明美 松坂早苗 加納由紀子
小松志信 奥山繁三 ◎山田繁三
◎岩野 明 (計30名)

但馬・西床尾山
12月7日(日) くもりのち雪

(集合) JR西明石駅8・55(バ
ス) 西床尾山登山口9・50―10・
05―グアイゼンの滝分岐10・30―尾
根取付10・55―西床尾山11・20―
25―尾根途中11・35(昼食) 12・
15―避難小屋分岐12・35―東床尾
山12・45―55―助右衛門大坂13・
30―大かつら14・00―15(バス)
西明石駅17・25(解散)

最後の急登を経て山頂に立つと、
ステキの景色が出た。そんな雰囲
気の西床尾山に優しく雪が舞い
はじめた。ゆっくりしたい山頂であ

たが寒くて早々に縦走にうつる。東尾尾山が近くにつれて雪となり、雄大な展望は次の機会へ。雪は瞬く間に樹林を白く染め上げていった。今初めて雪に出会えて、格別の前持ちであった。

(参加者) 岩田育士 前田喜久子 森本修雄 小谷初子 口石かおる 馬籠忠男 首藤育子 河本美千子 東山登夫 森本淳子 野里マコ代 河本英機 松村雅子 猪野美枝子 森本 剛 栗橋聖吉 片 すみ子 森 隆代 布野浩英 土井あつ子 龍野孝子 塩原香織 岡田恵美子 光川一美子 ○岡田 昇 (計26名) ◎古賀隆一

六甲・逢ヶ山から有馬三山 (ファミリーハイク32)

12月11日(木) ◎木村太郎 *雨天のため中止しました。

忘年山行

生駒・信貴山から鳴川峠 12月11日(木) くもりのち小雨 (集合) 近鉄信貴山下車9:00- 信貴山本堂10:15-信貴山城跡(山頂)10:55-高安山11:20- 縦走路分岐(山頂)11:30(集合)12:00-十三塚一線の鳴る展望台13:

30-鳴川峠14:20-近鉄電車山駅 15:30(電車)近鉄橋樑16:06- ばっばはうす16:10(忘年会) 19:00(解散)

(参加者) 岩田育士 前田喜久子 森本修雄 小谷初子 口石かおる 馬籠忠男 首藤育子 河本美千子 東山登夫 森本淳子 野里マコ代 河本英機 松村雅子 猪野美枝子 森本 剛 栗橋聖吉 片 すみ子 森 隆代 布野浩英 土井あつ子 龍野孝子 塩原香織 岡田恵美子 光川一美子 ○岡田 昇 (計26名) ◎古賀隆一

六甲・逢ヶ山から有馬三山 (ファミリーハイク32)

12月11日(木) ◎木村太郎 *雨天のため中止しました。

忘年山行

生駒・信貴山から鳴川峠 12月11日(木) くもりのち小雨 (集合) 近鉄信貴山下車9:00- 信貴山本堂10:15-信貴山城跡(山頂)10:55-高安山11:20- 縦走路分岐(山頂)11:30(集合)12:00-十三塚一線の鳴る展望台13:

ながら51番台を過ぎた展望地で日向はつごをしながら昼食。火力発電所のファンが冷たい下山し、海の駅で林道後飯坂駅に予定時刻ぴったり到着した。解散後、希望者は赤穂へ移動し、入浴後忘年会で今年の区切りをつけた。

(参加者) 宮本真幸 宮本悦子 上田直代 船越利明 船越みよ子 小田初子 橋原良彦 安田文美江 中村修吉 柳 礼子 竹内喜久子 栗橋聖吉 栗橋裕子 砂原恵美子 秋田博徳 加藤元彦 小林 桂 岩田育士 瓜敷利明 山本京子 武田元司 武田和巳 河本美千子 占原信廣 ◎猪野東彦 (計25名)

春休の山

黒崎半島大層の丘(三万町) 12月13日(日) 晴れ時々雨 (集合) 三万町役場9:30-食見 10:15-パノラマコース分岐10:55-大層の丘11:55-鹿野コース 東原12:20(集合)13:35-食見 14:45-レビアの湯16:00(解散) 三万町の黒崎半島の尾根を歩く コース。眼下の世久見湾に浮かぶ鳥辺島・御神島・千島・沖の石などのコントラストがすばらしい。途中から今年初のアラレに遭った。

12月13日(日) 晴れ (集合) JR坂越駅9:40-55- 宝珠山テレビ塔10:50-11:00- 宝珠山11:15-陸橋展望地11:35(集合)12:35-最後のピーク13:00-遊歩道登山口13:35-海の駅- 越前15:00(解散) 小春日和のハイキング道を次々に現れる石仏を見ながら宝珠山に到着。坂越湾や相生湾を右に見

下山後レビアの湯にて会食。広間にて今年の打ち上げをして盛り上がった。

(参加者) 金谷 昭 本木初子 谷 守 石原裕子 光川一美子 ◎高島伸治 (計6名)

油コブシから六甲記念碑台

12月14日(日) 晴れ (集合) JR六甲道駅9:45-52 (バス) 六甲ケーブル下駅10:10- 油コブシ11:19-六甲ケーブル上駅11:15-六甲記念碑台12:03(集合)12:35-前ヶ辻13:06- 六甲ケーブル下駅14:27-六甲道駅14:43(解散)

前日の雪が少し残っていたが、油コブシへの道はよく踏まれていて歩きやすかった。アイスロードに行く道がちょっとわからずモタモタしてしまった。

台高・明神平から樽屋山

12月14日(日) 晴れ (集合) 近鉄八木駅8:00-05 (バス) 大久保道車場8:40- 10:00-林道終点10:10-明神平 11:45(集合)12:30-明神原12:50-樽屋山14:00-小栗谷林道 15:00-バス駐車場15:15-20 (バス) 東吉野温泉のや16:05 (集合)17:00(バス) 八木駅18:00(解散)

精進10時、快晴。期待通りの見事な霧水の花が咲いていた。霧水のなかを階段奥峰まで足をのびした。展望台からは10月に登った迷房が目の前で、台高の山々が霧水で白く輝いていた。帰路は東吉野温泉で温もった。マイカー参加が8名あり、にぎやかになった。

(参加者) 仲谷礼司 佐野信江 小林 桂 入江武史 金森節子 川田洋子 渡部和美 斉藤よし子 岡崎知子 石田美穂 河原美代子 妹尾一正 井上恭子 市井ユリエ 中川節子 山根理枝 宮路ちへ子 岩村春子 福岡 章 永原律子 芥木良雄 山本博子 久保田英次 松下 武 稲田鶴子 小倉 学 西村泰治 竹内正三 西村壽朋 ○安倉正勝 ◎奥比密英

村田智俊 (計32名)

明智越から水尾・六丁峠・嵐山 12月17日(日) 晴れのちくもり (集合) JR八木駅8:30-40- 明智越登山口9:25-鏡塚分岐9:55-神明峠分岐11:10-清和天皇陵山頂12:50(集合)12:30-清和天皇陵12:50-水尾13:10-コメカイ道-長坂谷-集合14:55-六丁峠15:20-小倉山15:40(解散) JR嵐山駅16:20

今年最後の私の例案だったが、鳥飼駅から嵐山まで楽しく歩きました。

(参加者) 馬籠忠男 井上由紀晴 中村啓一 柳 聖明 柳 美奈子 川崎敏雄 西 悦子 中嶋日出男 吉福 清 山岸勝雄 宮口孝次郎 山根弘美 市野博文 南まゆ子 中川光郎 森 康夫 野末あや子 辻 高子 中村 保 砂原恵美子 吉野栄子 妹尾一正 宮野修子 大和田直樹 櫻原康一 杉本昌士 和田一夫 木間繁子 石原裕子 武村千鶴 安良朋子 星野正弘 田中弘三 渡部和美 高岡英美子 川上久登 中岡昌子 光川一美子 林 弘毅 嶋田幸子 竹田英英

谷 守 ○金谷 昭 (計44名)

12月20日(日) 自然観察山行(3,4) (集合) JR大垣駅9:00(バス) 美濃御手洗11:10-IDコース登山口11:25-天王山12:50(集合)14:00-大矢田神社14:45(バス) 武川温泉15:15(バス)15:50(バス) 大垣駅17:30(解散) 当初の池田山から感嘆。前夜からの大雪で山は姿を失う深雪だった。温泉で冷えた体を温め、希望者で忘年会を開いた。

(参加者) 石田高敏 岡田直規 金森節子 鳥居信吉 加納由紀子 栗橋聖吉 栗津野子 船木佐吉子 中尾和子 仲谷礼司 長尾一令 細野欽也 堀江勇樹 村井善和 ○猪野東彦 ◎豊見守康 (計19名)

池の平12:45-三橋13:42-14:04(バス) 機津沢14:20-38(電車) 名古屋駅17:15(解散)

茶畑の道を登り高草山に登くと、雲ひとつない空に雪の高土山が見えて、高草山の山頂には大勢の人がいて、南アルプス、伊豆の山、駿河の海を見て感激していた。

(参加者) 栗橋聖吉 栗橋裕子 池田繁美 永沼鉄治 岡本美千子 村川幸忠 白木良弘 白木やす子 今井康雄 村田 浩 渡辺美代子 渡辺明美 市田啓子 石田真由美 水谷陽子 森澤照子 宮口孝次郎 ○藤橋洗石 ◎藤本桂香 (計20名)

下りの通過路が「源泉」消えて迷ったが、何とか突破。雪山の醍醐味を思い切り楽しむことができた。(参加者)後藤康幸 大木哲美 金谷昭 小林稔 奥野太一郎 磯部純 北村稔 北村つねみ 小川桂 湯浅康夫 湯浅みゆ子 谷 久雄 守 加納由紀子 櫻田勝利 高原芳彦 緒方由子 栗本敏夫 福寿江 伊藤彩久男 田尾 肇 田尾裕子 石田真徳美 炭田明美 光川博史 光川二美子 須藤浩子 白木良弘 白木やす子 小松志信 木下朝子 ○山田景三 (計33名) ◎岩野 明 (計33名)

年末にロングコースを歩く 北山・二ノ瀬駅から真山駅 12月28日(日) 晴れ (集合) 飯沼出町線駅7・20・31 (電車) 二ノ瀬駅・富士神社8・00・15・夜澄峰8・45・50・尾根道一山密橋9・50・10・00・10・10・水室11・10・20・城山11・40 (定刻) 12・10・京見峠12・25・上ノ水峠13・20・沢池13・40・14・尾15・00・高尾パークウェイ橋の石地蔵15・15・25・真美分池15・50・16・00・大宮等16・30・45・JR嵐山駅17・00(解散) 残雪の冬景色を見ながらのロングコースになったが、おだやかな日に恵まれた。参加66人の足がそろって、JR嵐山駅に予定時刻の17時には全員が無事着いた。年末の静かな北山歩き、改めて北山歩きのよさを再確認した。

(参加者) 宮下淳一 井上由紀晴 青藤孝次 楠原良彦 染矢つや子 加藤浩二 三輪直文 中嶋日出男 徳田幸子 木村 豊 中澤ちず子 蓮井洋子 川田洋子 木村太郎 本間昭恵 木下朝子 三井純一 加藤元彦 湯浅次男 武村十輔 小林 桂 若林文夫 小坂さゆり 奥山繁三 西悦子 前田喜久子 入江武史 滝尾健治 武部美英子 宮野哲郎 宮野穂子 高岡富美子 谷 守 昭 猪狩美穂子 前田初雄 仲谷礼詞 北村つねみ 森本 勝 森本淳子 加藤園計 近藤 恭 若林和人 山根弘美 磯部 純 原 光一 斤 すず子 山口喜弘 竹田美英 水見真砂子 伊丹朝子 中川光郎 榎木美恵子 中川節子 山田幸子 増田剛宏 藤本紀子 林 弘毅 桑 康夫 井上正子 東中次夫 武田元司 井上葛子 松見 昭 ○安倉止勝 ◎村田智俊 (計66名)

大原・蘇鉄山と天保山 12月30日(日) 晴れ (集合) 南原線駅10・15・蘇鉄山 10・30・明神神社10・56・塚原11・12 (電車) 蘇鉄駅11・29 (電車) 地下鉄大塚線駅12・03・天保山12・14 渡船場12・45・13・00 (船) JR桜島線13・15 (解散) 山のロマンを求めて日本一低いといわれる二山を歩いた。二つの山は大浜公園と天保山公園の中にあり、年末で歩く人も少なく静風が吹かれながらフラフラと遊び気分を歩いた。(参加者) 山科邦彦 井上由紀晴 大谷章子 岩城豊子 石倉真佐子 石倉 彰 藤村勝彦 広田不佐子 朝倉松雄 白木良弘 白木やす子 小坂さゆり 岩本いすゞ ◎楠原良彦 ◎小出良春 (計16名)

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西」の山(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなを歩く喜びをともに広めましょう。「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心50年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成元年発足で13年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通して正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員には「新ハイキング関西」の山」を貸してお送りします。四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持続するのはぜひしたいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。入会金 5000円(パツジ代) 年会費 3000円(送料共) 入会のお申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきます。毎号送本にお手元に届きますので便利です。切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西」の山」見本誌1冊お送りします。

○新入会費(定期購読者) 紹介 新しいお仲間のみなさんです。会員番号4935番から4950番まで
【愛知】 坂口久子 中川武人 松岡 保 長沼 仁 宮村信夫
【滋賀】 酒田公明 大久保 健 藤井 紘 勝田春恵 矢吹芳子 伊藤正延 東 純江 竹田幸子 宮本義剛 小寺康彦 横田由子 (16名)
○山行リーダー募集 12月28日(日) 晴れ (集合) 飯沼出町線駅7・20・31 (電車) 二ノ瀬駅・富士神社8・00・15・夜澄峰8・45・50・尾根道一山密橋9・50・10・00・10・10・水室11・10・20・城山11・40 (定刻) 12・10・京見峠12・25・上ノ水峠13・20・沢池13・40・14・尾15・00・高尾パークウェイ橋の石地蔵15・15・25・真美分池15・50・16・00・大宮等16・30・45・JR嵐山駅17・00(解散) 残雪の冬景色を見ながらのロングコースになったが、おだやかな日に恵まれた。参加66人の足がそろって、JR嵐山駅に予定時刻の17時には全員が無事着いた。年末の静かな北山歩き、改めて北山歩きのよさを再確認した。

【訂正とお詫び】 74号(新春) 67ページ付近図に「元誓願寺通」は「元誓願寺通」が正しい。 74号(新春) 77ページ下段18行目「赤石岳」は「赤岩岳三角点」が正しい。阿村近図の「△赤石岳」は「△赤岩岳」が正しい。 74号(新春) 84ページ三段目3行目「安徳天皇」は「安徳天皇」が正しい。 73号(春秋) 賢良寺康さんリーダーの山行計画で自民党系山行シリーズの通し番号127〜130

毎号お求めになりたい方へ 前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。購読月の20日(隔月刊)の発売です。